

ツングース言語文化論集 30

風間 伸次郎 採録・訳注

**ウルチャロ承文芸
原文集 3**

北海道大学大学院
文学研究科

2006



V. P. Dechuli 氏
(В. П. Дечули)



N. V. Munina 氏
(Н. В. Мунина)



O. A. Bel'dy 氏
(О. А. Бельды)



D. Dankan 氏
(Д. Данкан)



J. Orosugbu 氏
(Ю Оросугбу)

Publications on Tungus Language and Culture

ULCHA ORAL LITERATURE
A COLLECTION OF TEXTS

ツングース言語文化論集 30

編者 伴次郎 訳者 沢田

translated and annotated
by
Shinjiro KAKIYAMA

北海道大学大学院 文学研究科
Graduate School of Letters
Hokkaido University

2006

Publications on Tungus Languages and Cultures 30

**ULCHA ORAL LITERATURE 3
A COLLECTION OF TEXTS**

**translated and annotated
by
Shinjiro KAZAMA**

**Graduate School of Letters
Hokkaido University**

2006

ツングース言語文化論集 30

ウルチャロ承文芸原文集 3

風間 伸次郎 採録・訳注

北海道大学大学院 文学研究科

2006年

Contributions on Tungus Languages 08 樺太・樺太語文書集

UTCHU ORAL LITERATURE 3
A 08 樺太口承文書集

著者・編者 津曲敏郎 関原

translated and annotated
by
Shinjiro KAZAMA

本書は平成 17 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)
「北方諸言語の類型的比較研究」(代表：津曲敏郎、課題番号：15320047)
による研究成果の一部である。

Graduate School of Letters
Hokkaido University

まえがき
テキスト本

1. um xa
2. um za
3. amaan
4. um ga
5. um bu
6. h33t33
7. um xag
8. um xa
9. um xa
10. b3b3b

あらすじ (1)

1. B o
- плохо
5. Мед
- Жили

あらすじ (2)

あらすじ (3)

テキスト本

1. 一軒の
(um xagdu)
2. ある女
3. 父たち
4. 一つの
5. 一頭の
6. ヌート
7. 一軒の
(um xagdu)
8. 一軒の
(um xagdu)
9. 一軒の
10. プ〜プ

目次

まえがき	1
テキスト本文 (キリル文字に基づく音韻表記)	
1. ум хагдунду мапaжi мамaжi жүэһикээн бичити	9
2. ум ээктэ бичини	11
3. амаанаа тээлүнгүни	17
4. ум гасан бичини	22
5. ум бүжүн пүлсини	26
6. нээтэрки	28
7. ум хагдукаан балдахани	32
8. ум хагду хэүжэээ балдахани	36
9. ум хагду балдахан	37
10. бэбэбэбэи	39
あらすじ (露文) (Содержание)	40
1. В одном доме жили дедушка и бабушка / 2. На одной сопке стоял плохой дом / 3. Одна легенда / 4. Жили-были муж и жена с мальчиком / 5. Медведь / 6. Жили-были брат и сестра / 7. Жили-были две сестры / 8. Жили в одном доме щенок и ворона / 9. Жил один мальчик с родителями	
あらすじ (英文) (Summary)	47
あらすじ (和文)	52
テキスト本文 (ラテン文字に基づく音韻表記とその日本語訳)	57
1. 一軒の家におじいさんとおばあさんとが二人きりでいた (um xagdundu mapajı mamaјı жүэһикээн bičiti)	57
2. ある女がいた (um ээктэ bičini)	63
3. 父たちの言い伝え (amaanaa тээлүнгүни)	78
4. 一つの村があった (um gasan bičini)	92
5. 一頭のクマが行き来している (um bujun pulsini)	104
6. ヌートウルキ (nэәtərki)	108
7. 一軒の小さな家が暮らしていた (um xagdukaan baldaxanı)	120
8. 一軒の家がユラユラと暮らしていた (um xagdu хэүжэээ baldaxanı)	130
9. 一軒の家が暮らしていた (um xagdu baldaxan)	133
10. ブ〜ブ〜ブ〜ブイ (子守唄) (bә~bә~bә~bәi)	139

（調査の概）
本書は風
に関する先
筆者は以
へ語やナ
葉大学の
ヤ語の話
くならて
いて、民
やほとんど
本書に収
の協力者の
はブラバカ
ウジ村で録
必死でモー
のような苦
きたが、や
ンサルタン
今回の調
テキストの冒
際して V. P.
（Новая Фер
手も重要な存
スがよく、ナ
った。辛抱強
確かつ丁寧に
の力があまり
とがたいへん
と言ひ、キジ
れはもともと
〔語り手に関
テキスト1、
年生まれ）で
テキスト3は
ヤーマンであ

〔調査の概）
本書は風
に関する先
筆者は以
へ語やナ
葉大学の
ヤ語の話
くならて
いて、民
やほとんど
本書に収
の協力者の
はブラバカ
ウジ村で録
必死でモー
のような苦
きたが、や
ンサルタン
今回の調
テキストの冒
際して V. P.
（Новая Фер
手も重要な存
スがよく、ナ
った。辛抱強
確かつ丁寧に
の力があまり
とがたいへん
と言ひ、キジ
れはもともと
〔語り手に関
テキスト1、
年生まれ）で
テキスト3は
ヤーマンであ

まえがき

〔調査の概要とテキストに関するデータ〕

本書は風間（1996b）、風間（2002）の続編である。ウルチャとその概況、ウルチャ語に関する先行研究については風間（2002）を参照されたい。

筆者は以前 1993 年夏、1994 年春、1994 年夏にこの言語を調査したが、それ以降ウデヘ語やナーナイ語、エウエン語の調査が中心になっていた。一昨年（2004 年）の夏に千葉大学の荻原先生のお誘いで、その科研費のお世話になり、ちょうど 10 年ぶりにウルチャ語の話されているブラバ村を訪れることができた。幾人かのコンサルタントの方は亡くなっていたが、幾人かの方々には 10 年ぶりにお会いすることができた。新たにお会いして、民話を語ってくださった方もいらっしまった。しかし残念ながら若年層はもはやほとんどウルチャ語を話さず、もっとも若い話者の年齢層はあがっている。

本書に収録したテキストのうちの 7 編は、1994 年に録音したもので、10 年ぶりに現地の協力者の協力を得て書き起こし、12 年ぶりに出版されることになった。そのうち 3 編はブラバからさらに下流に行き、モーターボートでアムール河を渡ったところにあるドゥジ村で録音したものである。アムールを渡った日は風が強く、川面には大波が立ち、必死でモーターボートの手すりにしがみついて渡ったことを昨日のように思い出す。そのような苦労をして録音したものだったので、なんとか成果を形にしたいと長年思ってきたが、やっとその日が来るのがうれしい。しかし月日の経つのは早く、亡くなったコンサルタントの方にはこの成果をお見せることもできず、誠に申し訳なく思っている。

今回の調査は 2004 年 9/4-12、2005 年 9/17-20 に行った。各テキストの録音年月日は各テキストの冒頭の部分に記した。テキストのテープからの書き起こし及び意味の解釈に際して V. P. Dechuli (Валентина Петровна Дечули) 氏（女性、1931 年 novaja ferma (новая ферма) 村生まれ）の協力を得た。このような仕事をするにあたっては、語り手も重要な存在だが、この書き起こしの協力者がきわめて重要である。氏は非常にセンスがよく、ナーナイの村に暮らしていたこともあってナーナイ語との違いにも敏感であった。辛抱強くこの根気の要る仕事に付き合ってください、文法的な問いに対して的確かつ丁寧に答えてくださった。前回のウルチャの調査では、協力者の方のウルチャ語の力があまり十分でなく苦労したので、今回このような方とめぐり合うことができたことがたいへんうれしい。氏のお生まれになった novaja ferma 村は、ウルチャ語で umanaka と言い、キジの近くで、マリンスクの少し上流であるという。氏の旧姓は sulaki で、これはもともとオロチの姓であるという。しかし御両親共にウルチャであるという。

〔語り手に関する情報〕

テキスト 1、2 の語り手は O. A. Bel'dy (Ольга Александровна Бельды) 氏（1935 年生まれ）である。氏はたいへんに刺繍が上手で、たくさんの作品を見せてくださった。

テキスト 3 は M. S. Duvan (1903 年 kala 村生まれ) より、1994 年に録音した。氏はシャーマンであった。残念ながら氏は 1994 年に私が訪れてから数年後に亡くなったとい

う。

テキスト4, 5, 10は N. V. Munina (Нина Васильевна Мунина) 氏 (1930年マリンスク生まれ) よりやはり1994年に録音した。氏は御病気がちではあるが、現在も健在で、2005年にも語りやシャーマンの話を聞かせてくださった。2005年に語ってくださったものは1994年のものと同じ話であり、1994年のバージョンのほうがより内容が豊富であったので本書にはこちらを書き起こしてある。旧姓は urangina で、そのご両親はマリンスクの近くの u daani というところに住んでいたという。

テキスト6は筆者の録音したものではない。現地のロシア人の方で、ウルチャの文化に興味を持って録音したりしていた方があった。その方は私が訪れた1994年当時 Bogorotskoe 村の次長をなさっていた方で、G. M. Volkova という方だった。氏はその貴重なテープを2本、私に複製させてくださった。そのテープの録音状態は良く、そこには今ではもはや録音は難しいと思われるような、貴重な民話や伝説が多く録音されている。これを聞いていて、その中に筆者はオロチやウデへ、ナーナイで似た話を聞いたことがあるようなものを見つけた。そこで今回はまずこの最も興味の惹かれるこの話から、このテープを書き起こしてみることにした次第である。このような経緯であるために、語り手に関しては十分な情報が無い。

テキスト7, 8, 9はドゥジ (dudi) 村で録音したものである。ちなみにドゥジ村とブラバ村のウルチャ語の間には若干の方言差がある。この点に関しては今後発表する予定である。テキスト8は E. G. Orosugbu 氏 (1914年ドゥジ村生まれ) から1994年に録音した。1919年、5歳の時にアムール対岸のアオリ (Auri) 村に渡り、主にブラバ村で働き、定年後ドゥジ村に戻って来たという。両親共にウルチャだが、父方のおばさんはマンジュ (漢人のことだと思われる) であったという。父の名は Dubiini、伯父の名は Tugauza、と父系の親族は皆中国式の名であったという。ご本人はロシア式の名の他にウルチャの名前もお持ちで、それは jəəčika であるという。テキスト7, 9は D. Dankan (Дааса Данкан) 氏 (生年不明 (1900年頃?), ドゥジ村生まれ) より録音した。御両親ともウルチャだとのことである。氏が子供の頃、今のドゥジは wasə と呼ばれ、漢人が多く暮らしていたという。ちなみに1994年当時、村の方に訊いたところ、ドゥジには Дятала, Уди, Ханчан, Именча などの苗字があるとのことだった。

[テキストに関するコメント]

テキスト3の前半部は、風間 (2002) の4つ目のテキストと内容的に重複している。語や表現は違うが、語り手の先祖がより上流からこの地にやって来たことについての伝説である。後半がおそらくは中心で、魔法の草についての話になっている。

テキスト4はナーナイにほぼ同じ話があるのを採録したことがある (風間 (1997) の7つ目のテキスト)。そこでも伝説とされている。なお、息子を置いて父親が帰って来た時、出迎えた母親がそれを聞いて話す部分は、歌のようになっている。

テキスト6に関しては、先にも触れたが、オロチやウデへ、ナーナイに類話がある。オロチについては風間 (1996a) に12番目のテキストとして、ウデへについては風間 (2004) の16番目のテキストとして採録してある。ナーナイのものは今後整理の上で発表する予

定である。
ちが降り
に降り、
いわばこ
う。妹に
gotirka,
テキスト
な表現) が
ある。た
やはり物語
テキスト
ロディー、
て収録して

[表記と分
基本的
一部に母音
のである。
動詞の、
が、この
長いものと
少なくとも
では、長く
いないよう
さらに、
この違いに
これらの
「～」は
した。
以下に全

・子音

無
有

定である。共通している点は、兄と妹の二人で住んでいるところへ、天から鳥の姉妹たちが降りてきて、その末っ子の鳥の覆いを奪い、兄がその女と結婚する、しかし女は天に帰り、それを男が追って行って連れ戻す、というストーリーである。したがって、いわばこれはツングースにおける羽衣伝説、もしくは鶴女房、とでもいうべきものだろう。妹に名前があって、それが言語間で対応した形であることも興味深い。オロチでは *ŋætirkə*, ウデヘでは *lætiga*, ナーナイでは *jiiwərkən*, そしてウルチャでは *nætərki* である。

テキスト 7, 8, 9 の題名は論理的にはおかしい（「一軒の家が暮らしていた」のような表現）が、いくつもの物語がこのように始まるのは、この 3 つの例をみても明らかである。ただしこのような構文になるのはこの冒頭の文だけである。なおナーナイ語にもやはり物語のはじめにのみこのような構文の例がある。

テキスト 10 は子守唄である。やはりウデヘやナーナイのものと歌詞、リフレイン、メロディー、ともによく似ている。ウデヘのものは風間（2004）に 67 番目のテキストとして収録している。

〔表記と分析〕

基本的に表記や記号の使い方は前編の風間（2002）と同じであるが、今回の表記では一部に母音 *e* を認めた。これは前編では *ia* もしくは *ai* の融合したものと考えていたものである。

動詞の、特にその現在形動詞において、語幹と接辞の間でやはり母音の融合が起こるが、この融合した母音の長短について表記は一貫していない。これは、以前は基本的に長いものとみなし、もしくは融合しない形での表記をとっていたものである。しかし、少なくとも発音に関して言えば明らかに短母音で発音しているものが多い。そこで本書では、長く聞こえたものは長く、短く聞こえたものは短く書いてある。一部、融合していないように聞こえたものは融合しない形で書いてあるものもある。

さらに、前編では女性母音の *ə* を認めていくつかの語をこれで表記したが、協力者はこの違いに否定的であった。そこで本書では協力者の判断に従って *ə* を用いなかった。

これらの表記、さらには（形態）音韻論的解釈についての問題は今後の課題としたい。

「～」は伸ばした発音を示す。ロシア語の単語の臨時的な使用は、イタリック体で示した。

以下に全音素とその両表記の対応を示しておく。

・子音

無声破裂・破擦音	p(п)	t(т)	č(ч)	k(к)
有声破裂・破擦音	b(б)	d(д)	ǰ(ж)	g(г)
鼻音	m(м)	n(н)	ñ(нь)	ŋ(нг)
無声摩擦音		s(с)		x(х)
接近音	w(в)		j(й)	
流音		l(л)	r(р)	

・ 母音

女性母音 i(и) ə(э)

u(у)

男性母音 i(i) a(a) e(e) o(o) u(y)

č, j は破擦音であり、IPA では通常 tʃ, dʒ であるが、一音素一文字の原則から、補助記号による文字とした。

ñ が示している音声は、IPA では ɲ を用いるのが一般的だが、それが体系上で占める位置 (č, j と同一調音点である) からこのような表記をとることにした。

なおロシア語の単語は実際の発音よりも、もとのロシア語のつづりを優先して表記した。ただし一部発音の違いがいちじるしいものはその発音に近づけた表記をしたものもある。なおロシア語の単語の転写は以下のような方式に拠っている。

а-a, б-b, в-v, г-g, д-d, е-e, ё-jo, ж-zh, з-z, и-i, й-j, к-k, л-l, м-m, н-n, о-o, п-p, р-r, с-s, т-t, у-u, ф-f, х-kh, ц-ts, ч-ch, ш-sh, щ-shsh, ь-", ы-y, ь-', э-e, ю-ju, я-ja.

今回のテキストから新たに発見された文法接辞や、構文、文法的事実も決して少なくない。それらの体系的な整理は今後の課題としたい。

【民族学的
今回の調査
きた。な



写真1 蛇
つぶして作



写真3 蛇を
ナイフを入

〔民族学的情報〕

今回の調査は、9月の鮭が来る時期に行ったので、鮭の処理などを観察することができた。なお以下の情報は特にことわりのない限り、V. P. Dechuli 氏による。

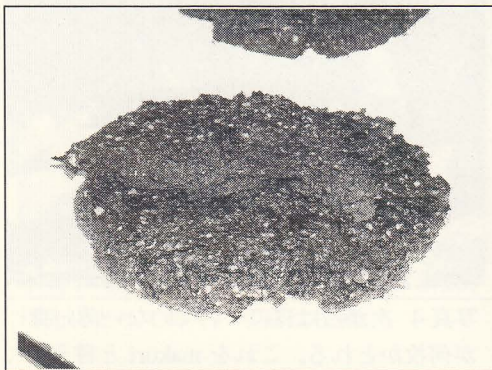


写真1 siñokto エゾノウワミズザクラをつぶして作った餅



写真2 干してある鮭。ただしこの干し方はウルチャ本来のやり方ではないという。



写真3 鮭をおろす。まず腹のほうからナイフを入れる。



写真2 次に背中側からナイフを入れる。



写真3 そうするとまず皮のついたものが一枚とれる。これを *gaalma* という。



写真4 次からは皮のついていない薄い身が何枚かとれる。これを *makori* と言う。これで写真10の *ula* を作る。

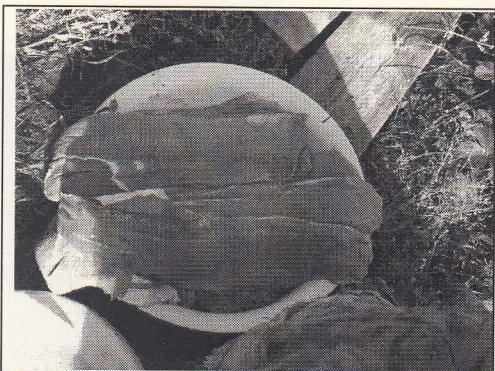


写真5 何枚かとれた *makori*



写真6 最後に骨付きのものが残る。これは *siori* といい、主に犬の餌だが、人も食べる。



写真7 *mo*
は先にと



写真9 *siori*
作ったウル

その他

- ・鮭をさば
- 塩したもの
- ジャガイモ
- ・心臓以外
- を受けたロ
- ・魚などを
- ら細かく切
- という。

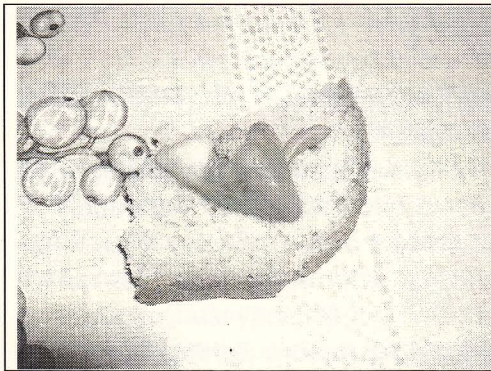


写真7 meewa 心臓、puku 腸、paa 肝臓、
は先にとっておく。写真は心臓。



写真8 このように心臓ばかりをスープに
して、さばいた時に食べる。



写真9 sawaki クロマメノキと鮭の身から
作ったウルチャの料理の一つ。



写真10 ula 写真4の makuri にビート、
ニンジン、玉ねぎ、キュウリ、ニンニク、
油、胡椒を加えて作ったウルチャの料理。

その他

・鮭をさばくとさらに腹ビレのついた腹の部分がとれるが、これは xučə とする。これを塩したもの少し日に干したものはたいへんおいしい。もっとも油のある部分である。ジャガイモと一緒に煮るとよいという。

・心臓以外の鮭の内臓も食べる。腸はサラダに入れて食べる。最近ではウルチャの影響を受けたロシア人にもこれを食べる者があるという。

・魚などを細かく切ることを kaasuwu とする。カワカマスなどを丸ごとまず軽く煮てから細かく切って、ジャガイモの生の千切り (talaa とする) に混ぜた料理を kasina という。

・鮭のオスの鼻先の部分を buksu と言う。

・テキスト 2-033 に出てくる裁縫袋 xuuren について。かつてウルチャの女性はどこにでかけるのにも必ずこの裁縫袋を持って出かけたものであったという。人によるが、鮭の魚皮や水鳥の羽毛から作った。紐で巻いた巻物のような形をしている。鉋や針、布も全部この中に入れる。針はさらにその中の特別な小さな袋に入っている。

・pondo 魚皮靴について。昔、夜に人々が魚捕りに行くときには、やはり魚皮製の窓の外から、歩く時にシュルシュルとこの魚皮靴が擦れ合う音が聞こえたものであるという。男の長靴は足の部分が鮭の皮でできていて、これは水をはじく力がある。胴体、すなわちふくらはぎの部分はアザラシの毛皮でできていた。中には細い草を敷いておく。他方女性の長靴は胴体の部分まで全体が魚皮でできていて、つながっていたという。

・seeptura 魚の料理について(テキスト 1-006)。これは大きな魚ならぶつ切りにしたもの、小さい魚なら丸ごと鉄の大なべに入れ、水を入れずに油のみを少し加えて加熱し、suiliptun と呼ばれる棒で粉状になるまで掻き混ぜていって作る料理であるという。

・年とった鮭は、歯が出ていて鼻が長く、皮が分厚くて、いろんな色のまだらつきの皮を持っている。このような鮭を guadu と言うという。

・火に対して何かする時、すなわち火の神に対して何かする時に、昔の人々は、"puja, bagdi tuanuu." 「火の神よ、足を引っ込めろ！」と言っていたという。

[謝辞]

最後になるが本書の発行にあたり、上記のコンサルタント及び協力者の方々に心よりお礼申しあげたい。Ju. N. Kujali 氏とその家族の皆さんには、ブラバ村での滞在でお世話になった。記して感謝の意を表したい。現地調査に関しては、千葉大学の荻原真子先生が貴重な科研費をさいてくださった。本書の刊行には、北海道大学の津曲敏郎先生が、やはり貴重な科研費をさいてくださった。小野智香子氏は露文要約の作成に、下地理則氏は英文要約の作成に協力して下さった。記して感謝申し上げたい。

[参考文献]

- 風間伸次郎 (1996a) 『オロチ語基礎資料』(ツングース言語文化論集 7) 鳥取：鳥取大学教育学部
- _____ (1996b) 『ウルチャロ承文芸原文集 1』(ツングース言語文化論集 9) 鳥取：鳥取大学教育学部
- _____ (2002) 『ウルチャロ承文芸原文集 2』(ツングース言語文化論集 20) 吹田：大阪学院大学
- _____ (2004) 『ウデヘ語テキスト(A)』(ツングース言語文化論集 24/A) 東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

наа хазілаті,
тіі хагдунду
тіі мапангун
хүм вааріі. в
сугдатава ва
сугдатасалз
а хаізі, үлсээ
тамдее эмдэ
сээхүмбэ-дэ
тээ хагду з
тараа эмдэ-
зэлүсэл, зэл
хаі, үсэлтэ, ү
нүүдү, пиктэ
"хоонтис-кээ
мүмбэ, пүрүл
"тахан-да мэ
хаіва үсэлтэ
наа хазілаті
тіі ум угда
отіі ньүүчкэ
тараа тоогтін
андаха диди
халачіті. тар
тараа, наа
тіі малачан
а мамачангу
тіва элзэмн
ум эньюэ пүм
тіі мамачан
тіі пиктэвэн
гүзэлээ энү
наа хазілаті
тараа эсн-гд
"хаіду бис-кэ

2004.9.6 О. А. Бельды

1. ум хагдунду мапазі мамазі зүүньикээн бичити

наа хазілаті, ум хаїду, ум хагдукаан бичини.
тїі хагдунду-гдэл мапазі мамазі зүүньикээн бичити, пүрүл-дэ анаа,
тїі мапангуні хаї дүиси тоопі тес үсэлтэвэ хаматамба-дэ
хүм ваарїі. ваїсі бутандамі нэнэпи, хаматан-дээ хүм хаїва,
сугдатава ваарїі. тїі бичити зүү ньїі. мамангуні тїі макурі анзуї,
сугдатасалзі макурсалба анзуї сеептулава сүилии,
а хаїзі, үлсэзи-гдэ, үлсэзи-дэ макурі анзүмі, макурі анзүмі тїі локочіні.
тамдее эмдэ мапангуні вэндини, "бүү, и хаї, хаїва,
сэзүхүмбэ-дэ тес хаматан-дээ хүм сэзүхү гаді,
тээ хагду заппакіні сэзүхү, хамата сэзүхү кэвэ."
тараа эмдэ-гдэл мапангуні вэндини, "мамача, бүэ зүүньиикээн биипү.
зэпүсэл, зэпүсэл-дээ зїң зїң хасу хасу такту.
хаї, үсэлтэ, үсэлтэ-дээ хасу хасу паазі тактусалі. нүидү эи бэлирипү.
нүидү, пиктэ-дээ анаа, хаї-даа анаа." мамачангуні хаїріїні,
"хоонтис-кээ," вэндини, "баа, элээ тїі сїңгэрэхэн-тэнии
мүмбэ, пүрүл-дээ анаа хаї-даа анаа." наа хазілаті,
"тахан-да мээн татахамбі тїі теел." хаї, сугдата буті, бэичии,
хаїва үсэлтэвэ тес тес хаматан-дээ үсэлтэвэ ваарїі.
наа хазілаті там-дее эмдэ ичити, солїзі, ум, угда дидини.
тїі ум угда дидини токондуні, ум хаї пиктэ тээсини,
отїі ньүүчикэ пиктэ. и, хаї тїі угдаду ум, ээктэ ньїі, геуліїні.
тараа тооїтіні тїі мамазі мапазі
андаха дидини-гүни, андаха дичин, тооїті эүрэрээ хаїріїті,
халачїїті. тараа тїі угда-гдэл хавасі, хаахан, тїі наантїті.
тараа, наа хазілаті эси-гдэл, тїі баарачумаарі тїі тїі, пиктэвэни хаї,
тїі мапачан моотохон, моотомі тообузуї хүсэ пиктэ.
а мамачангуні тїі тїі ээктэвэ-гдэл тїі мэргэ, хаї пүзи. ньавза ээктэ,
тїва элзэми тообузуї мээнти баарачумі хаї утулії зэпү,
ум энүүэ пүисилэни, хас хас зэпүвэ анзуктахані,
тїі мамачан баарачумі, тїі хаї, тїі тїі мэргэмбэ
тїі пиктэвэни зэпүчичэми тиисэл-дээ зэмсимээри зэмсимээри бичин
гүзэлээ зїң зїң тїі, тїі зэптиити, хэбэлэмээри зэптити.
наа хазілаті гээ, зэппин, зэми ходалаал.
тараа эси-гдэл тїі, тїі мапача паңсіні, "хаванчі дидиси-кээ," вэндини,
"хаїду бис-кээ"-м-дэ. наа хазілаті тїі тїі, тїі эси дичи пүзин вэндини,

'бүүсэлэми дичимби,' вэндини,
 "пиктэји, пиктэји тii запараа бүүсэлэми дичимби," вэндини,
 хаi, хаi тамi-эс, эдизи бүүсэлэхэ-нүү, хаiзi тучамi дичин.
 пиктэји запараа, пиктэји запараа тii тii аурiдунi тii тii тучамi тii,
 тii-гдэл хаi сiнгэрэмсини наксiчi бичин-нүү хоонi бичин-нүү
 эгди асiсал тii асiсални, тii асiсални-даа тii тii гosi, тii.
 "тii тiiзi тучамi дичимби,' вэндини.
 "гээ тii таву осiнi jэдү бисү," вэндини,
 "гэсэ-дээ. гэсэ, хаi, мүн пиктэпү осуруу," вэндини.
 гээ тii тii ээктэ, тii пүзингүпү тii тii мапaзi мамaзi
 пүзин хаiнi очiнi, тii пиктэни-дээ, пиктэвэни-дээ тес салiитi, хаi суунаа,
 эи зүликини суунаа сууналамi нэүчэвү бичини-гүни, хүсэ пүрүсэлбэ.
 суунаа саарiсi. эи-мээчи-лэ үичэми iндa-мээчи-лэ үичэми,
 нолмi суунаа, тii мапача, jактанзунi анзуханi, бүризүни анзуханi,
 тii пиктэ-гдэл, суунаа хоонi iсiнi тii хэрэлзүм пүликтини,
 чииндэвэ jактачii, хаiвa jактачii, тii тii, хаi ваамi, хүлүвэ вааринi,
 туксава хаулi вааринi тii тii тii, тiiсал, тii пиктэзi,
 тii пиктэкэчүмээри тii, тii бичити, тii үрэхэти. тii,
 тii ээктэвэ-дээ мээн пиктэзүэри тii жапахатi.
 тii хүсэ пиктэ-гдэл дааi, тii наанду тii дааi очiнi,
 тii хаi, даамi, даамiнгунi тii тii мапaача,
 элээ мүтэси очiн, тii пиктэ-гдэл, тii тii-мээчи-лэ хаi
 үсэлтэвэ тес, хаi бэичии тес ваарii, сугдатава тес ваарii,
 тii мамaача-дээ мүтэси очiнi, хаiвa-дээ мүтэси очiнi,
 тараа тii хүсэ пиктэ хаiвa-дээ хүм тii. тii эһини-дээ хаi,
 хаiвa-дээ хүм үрпичии, хаiвa сээүхүмбэ таучii тамi тii,
 тii бичити, тii үрэхэти. гээ, элээ. тii, тii бaжaмaарi тii бичити.

2004.9.6 О.

гээ һиңмаа,
 би-дээ, бал
 тис һиңмаам
 наа хазилат
 хэхэрэ хэвэ
 аунза би
 кэкти порон
 наа хазилат
 энии синги
 инуксани зин
 аһмакинi зилу
 тэтүни-дээ э
 соли ичэи хэ
 тэһ хаi, моо
 даачасалзiнi
 iсал хоонi и
 хаi сүһпүсэл
 пакарйу диди
 наа хазилат
 чокто чокто
 iсалiнi-дээ м
 тii тii хаi ди
 тамдее зiзал
 тii, тii нүсүд
 таа тiвa тii
 тii тii нүсү-н
 хайтi-нүү тiлa
 аһаi-а һаара
 мээн паһаан
 тараа хаi, тii
 "гээ, эси би
 тii һii, тii ээ
 тараа асiзүи
 "эзкэнэ, би
 дауратi-нүү, х

2. ум ээктэ бичини

гээ ыңмаа, эи ыңмаамба, бааңгузі нүи-дээ саарасіні-гүни.
бии-дээ, баланаа доолдихамбі эгди ыңмаасал мин зеесілбі
тіс ыңмаамба сэбзэнсии бичити. чупал оңбохомбі эјээкээмбэ эзэчии.
наа хазілаті, хавасі хаванду баачувасі, білзака бірандуні,
хэхэрэ хэвэндүни, ум хагду-нүү, хагду бими хагдун-даа биси,
аунза бими аунза-даа биси, даура бими даура-даа биси,
кэкти порондуні, кочуса бичин.
наа хазілаті эси-гдэл таванчі-кээ Һээрэс-кээ, ум ээктэ.
энии сиңги тэтүни-дээ ках ках бии.
інуksані зин зин, түнгүңкини хэјээүи,
аңмакіні зілуksані түнгүңкини ээлэтини, тэтү ээлэтини хэјээүини.
тэтүни-дээ энии сиңги хаі. тараа ниерээ ичэээини,
солі ичэи хэјэ ичэи. хэрэлзүм ум моо-даа кэвэ, ум хаі-даа кэвэ.
тэң хаі, моо дүксүңзини, пее пее... хаі, моо дүксүндү хаі даача,
даачасалзіні хаізі, биини. уму, сүңпү, сүңпүсэли-дээ.
ісал хооні ичэини хооні тii-мээчи-лэ моо дүксү хаіні даачані,
хаі сүңпүсэли-дээ. тээ баісі ичэини ана хаі баділа,
пакаріу дидини, дидини-нүү хаі пүңгэлини-нүү хаіріі-нүү.
наа хазілаті эси-гдэл тіва тii ичэээини
чокто чокто тii ичэээини ілсіні
ісаліні-дээ мин-мээчи-лэ хаіва-даа ичэээсини, тii ичэээми ілсіні,
тii тii хаі дидини бис-кээ зізалаа зізалаа зізалаа осіні.
тамдее зізалаа очіндуні ичэини, анаі-а, хаі нүскү даурііні, нүскү.
тii, тii нүскүдү хаіні, ум Һii тээсини.
таа тіва тii пэскэми тii ичэээини наа хазілаті эси-гдэл,
тii тii нүскү-гдэл хаіті, тоорii наані хаітіні, даураті-нүү, хагдунті-нүү,
хаіті-нүү тіла тоорііні. наа хазілаті лаң осізіні гэсэ ичэини
анаі-а Һааракта ларгі мэргэ, паҺаа,
мээн паҺаанзі мэнэ хадачі мэргэ.
тараа хаі, тii-гда хаі, түрүми наантіні дидиини.
"гээ, эси бии симбэ Һаачіхамбі," вэндини, "асізујі."
тii Һii, тii ээктэ-гдэ таңгазахан.
тараа асізујі Һаачіхан осіні Һэнэү-гүни.
"эзиэнэ, бии эси хүүрэмбэ Һаанзуі-та." тавасі тii, хочу хагдунті-нүү
даураті-нүү, хаі, аунзаті-нүү иізүхэни үчэни-дээ зин зин энии сиңгин

кочу элээ лүэп түкини. иизүрээ элээ-дээ хамаси
 ниээзүни. энии сиңгии хаива, ньээвүзүни, хүүрэмбэ.
 хүүрэмбэ ньээзүрээ хаванду капурараа, түчилэ, түчидүни тээхэн.
 наа хазілаті эси-гдэл тii мэргэ-гдэл зин зин хаі,
 індаңгујі хэрэлзүвэми зин зин тii даурас-кээ
 маңгу хаива намува даузуні тавасі,
 кіс тii даузуіні тii, тii-гдэл, тэээ-нүү кэвэ-нүү,
 хавасі-даа нэнэи-дээ саарасі, тii мүн мэргэ, пүзингүпү, тii тiду тii,
 тамдее наа хазілаті эси-гдэ хаі наму таја калтаані зізалаа осіні
 ичэини бис-кээ, јаам бирүү, бирүү.
 наа хазілаті, тii тii бирүү ичэини анајі-а,
 дааілані хооні ісал ичэини хооні зин зин хагдусалі-мал,
 хаі тоо токондуні ум дааі хагду биини бис-кээ, тii тіла кіс,
 тii тii мүн мэргэнгүпү дау... гаазуіні, тii тii ээктэвэ тii пүзівэ.
 наа хазілаті хаі түлидүни хаі түрүхэни індаңгујі эси-гдэл, тараа хаі,
 таванчі тii хагдунзі ньээриини, экэсэл, кэкэсэли, хаісалі
 даарпусалі хаісалі ньээриини. гээ эси, эи
 эи ээктэвэ гаазуі... "иивүзүксү," вэндини,
 "иивүзүрээ ваказі сілчуву, ваказі тэтүрээ үлээ үлээ хаі,
 тамані маңгасалба тэтүвэнү, үлээ үлээ тэтүвээндүксү," вэндини,
 "асізујі даавузухамбі." наа хазілаті эси-гдэл тii
 кэкэсэли тii, даарпусалі, тii тii ээктэвэ элзэми иивүзүл зугбаани.
 тii тii ээктэвэ мүн ээктэнгүпү-гдэл зин зин
 энии сиңгин дауранду хагдунду хочу хагдунду бичинзи
 тii тii хагдунті үлээн хагдунті иириини тавасі ичээзи,
 тii мээпи ньі элзиивэни. наа хазілаті
 тii иивүзүхэти эси-гдэл гэрээ ньі... гэрээ кэкэсэли хаісал
 даарпусалі хаісалі тii эси тii ээктэвэ-гдэл
 элээ сілчумі зоомболухаті, сілчуі тii үлээ үлээ тэтүсэлбэ тэтүвэнчин,
 тараа, даа хазілаті эси-гдэл, хаі тамсі бичин-гүни баланаа тii тамсі
 дааі хагду, хагду хэрээлүм тамсі.
 тii тамсі токонтіні тээндэвэнчити ээктэвэ.
 мүн мүн пүзингүвэпү тээндэвэнчин, тараа манзу дэрэни,
 ньүчикүү манзу дэрэни, тii манзу дэрэни зүлилэни нээхэти.
 тii тii, мүн, тii мэргэ тii њаачіахан мэргэн-дээ закпадуні тээхэн,
 тараа тii, тii дэрэ ојолоні хаматаа зэлүсэлбэ нээктэхэти,
 тара тii мүн, хаі, пүзингүпү,
 тii тіва зэптии хаалі-ма таматамба зэкпи-нүү
 кэвэ-нүү тii тii амтасумі тii хаива, тii хаива-дээ хүм тii тii зэптии,

тii мүн мэрг
 ичэи, хаіріні
 наа хазілаті
 тii мүн мэрг
 тii, эси эси
 тараа тii да
 тii базучамі
 тавасі базуч
 чүү дааі асін
 тii тii ээктэвэ
 тімаі бала б
 мүн пүзингүв
 тii, мүн пүзи
 эмдэ, тii мэрг
 "гээ, эси сүэ
 тii үлээ асі
 үрпүми, чупа
 үлээнзи үрп
 тува хаі, ичэ
 тараа, наа х
 элээ-дээ хол
 гиринэсүхэмб
 пүзингүпү-дээ
 сугбува сугбу
 хооні-гдэл оч
 наа хазілаті
 холзічихані, х
 тісал гірівані
 наа хазілаті
 пондо анзуха
 тii мүн, мэргэ
 умун ньүчикү
 наа хазілаті
 "гээ ичэвэнү
 наа хазілаті
 мээн үрпэ-чик
 мүн хаі, пүзи
 хавасі-гдэл тii
 тараа тii мэрг

тїи мүн мэргэнгүпү-дээ тїи тїдү зақпадуни зэптии,
ичэи, хаїрііні, тээсүмээри зэптэми... зэмээри урчулундїітї.
наа хазїлатї тараа эси-гдэл тїи,
тїи мүн мэргэнгүпү асіні хүјү асі бичини.
тїи, эси эси гаазуханї, үзчэ зуа асі очїні-гүни.
тараа тїи дааї тїи хаїтї, зүлэ асісалні зїң зїң үлээ үлээ гүрсэл тїи,
тїи базучамї ичээзи тїи, тїи ээктэти, энии сїңгин адакаул тэтүми хаї,
тавасї базучамї ичээзити. тараа тїи дааїдума
чүү дааї асіні-гүни зїң зїң госолуханї
тїи тїи ээктэвэ. наа хазїлатї эси-гдэл мүн мэргэнгүпү-гдэл тїмаї,
тїмаї бала бэйчүми нүни, сиксэ зїзүи, тїи, тїи тїи зүлэ асісалні-гдэл
мүн пүзїңгүвэпү-гдэл тїи хоонї-дээ хүм сїңгэрэмсити.
тїи, мүн пүзїңгүпү хэмэ хэмэ тїи биини. наа хазїлатї эси-гдэл хаї,
эмдэ, тїи мэргэ, мэргэ вэндини,
"гээ, эси сүэ, үрпүксү миндү, поңдова. нүи ваказї тїїні осїні,
тїи үлээ асі осїи." тїи зүлэ асісалбі-ла саарїні-гүни,
үрпүми, чупал намтїңга манзусал-ус. хаї, үрпичити үлээн-гүни,
үлээнзи үрпичити. тараа эи, эси эси гаазухамбі асі
тува хаї, ичэйчини, хоонї-дээ үрпивэни.
тараа, наа хазїлатї тїи, зүлэ асісалні-дээ сугбува сугбусихати,
элээ-дээ холзїчїхатї, тараа тїва чупал моонзїчїхал,
гиринэсүхэмбэ үрпїи, тїи мүн мэргэнгүпү,
пүзїңгүпү-дээ тїіванї ичээзини тїїсал тїіванї, хаїва,
сугбува сугбусиивани тїва амдамї сугбусихан,
хоонї-гдэл очїні-нүү, паанї чолооромї очїн, паанї хоонї-гдэл-нүү.
наа хазїлатї эси-гдэл тараа тїи, холзїчїіванї-дээ тїи амдамї
холзїчїханї, хаїванї, моонзїчїіванї-дээ амдахан тараа гїріїні,
тїїсал гїрііванї ичээзэми тїва гүчи гїріїні, поңдо анзүмї, эдидүји.
наа хазїлатї тїи, зүлэ асісал зїң зїн ларгї ларгї поңдосолба,
поңдо анзухатї-нүү, умү ңїїңгї баадї үлээн, умү ңїїңгї баадї үлээ.
тїи мүн, мэргэ... пүзїңгүпү поңдонгүни энии сїңгин хочү, умун дааї,
умун ңүүчїкэ, хочү, хавасї-даа хүм, энии сїңгин адакаул.
наа хазїлатї эси-гдэл тїи, эдити зїзүхэн, тїи мэргэ зїзүхэн сиксэ.
"гээ ичэвэнүксү," вэндини, "мээн тїи тахамбарї."
наа хаїзалатї тїи зүлү асісал чупал зақпадуни нээктэхэни,
мээн үрпэчихэмбэри зїң зїң чупал ларгї ларгї, тапї
мүн хаї, пүзїңгүпү, іраханї, энии сїңги хочү
хавасї-гдэл тїи поңдова зақпадуни нээхэни.
тараа тїи мэргэ, хаїва-даа вэми-дээ кэвэни.

наа хаїзалаті гүчи, аумі тii тii мүн мэргэ...
 пүзи тii адакаул пүзи гаазухан пүзинзи-мэл аурiiні. тii
 гоi асiсалзi аумi-даа аурасiні.
 тiiсал-дээ баадi гociiti тii хаiва, тii пүзивэ.
 наа хазілаті тараа тiмана-гдэл, тээхэни тii зэкпи,
 тii мүн мэргэнгүпү.
 тараа тii эси энии сиңги хочу хавасi-даа хүм адакал поңдово тэтүни.
 тii зүлү үлээн үлээн поңдосолбо хансi ансiраа,
 тii адакал поңдова тэтүхэни, паанi, умундума ньүүчикээ,
 умундума дааi, хоон-дээ хүм хочу,
 тiмаi тээрээ, тii бэичиндэми тii нэнэхэн.
 наа хазілаті тамдее хасулта бими гүчи вэндини,
 "гээ эси миндү вагбангi анзуксу. нүи хоон тiiні,"
 тii тii мүн пүзингүпү-дээ тii-мээчи-лэ анзуханi,
 энии сиңгин анзумi-дээ үтилэси хавасi-гдэ-нүү.
 наа хазілаті тiтамi сиксэ гүчи
 тii-мээчи ичэбдэни нээхэти, тii закпадунi нээхэти.
 тii мүн пүзингүпү-дээ тii мээн анзухамбi вагбангiва,
 пурунi хавасi пурунi хавасi бии-нүү, ум пурунi хочу,
 ум пурунi хоонi-гдэл-нүү, тii тii-мээчи анзуханi
 пуру хаi, саарасi пуру хаi.
 наа хазілаті тiмана-гдэл тii мүн мэргэнгүпү
 хаiва-дээ вэми-дээ кэвэни.
 тараа тii, тiмананi гүчи бэичиндэми нэнэми тii адакал асijі,
 анзухан поңдо тэтүзүхэни. тii тiва
 тii анзуханi вагбангiва хочу адакал вагбангiва тiва тэтүхэни,
 тii тii, тii зүлү асiсал баадi госулухаті тii ээктэвэ.
 наа хазілаті тii тii бимдее тii тii зүэ хаi,
 дааидума асiні тii-дээ хоонi-дээ хүм тii ээктэ, эдини,
 эди кэвэндүни хоонi-дээ хүм сиңгэрэмсини.
 тараа тii, горо эи ньiма, дааi, нолмi ньiмаа, дааi, оңбохомбi,
сокращенный бұду рассказывать.
 тараа, эмдэ-гдэл бэичиндэми нэнэхэндүни,
 тii тii мүн хаi, пүзингүпү, хавасi... тii мээн гаазухамбi,
 тэтүсэлбэ чупал ачуханi тii үлээ сээрэ, ларгi ларгi сээрэ...
 сээрэмэ тэтүсэлби тэсчэхэмби чупал ачуханi.
 энии сиңги мээн тэсчэхэмби тэтүji тэтүзүхэни,
 хүүрэмби запазуханi тii ньээхэн.
 тii ньээрээ эси-гдэл наа хазілаті эдини сиксэ зизүхэни, тii асiні кэвэ.

"хаиду биини
 "хавасi нэнэ
 тii мүн мэргэ
 халіраа тii т
 тii даурiiні д
 хаi хаисалі,
 jaам анаi-а,
 наані бирүү
 чүү токон то
 тавасi ихэнэ
 кэкэсэли, да
 "нүивэ-дээ, н
 нүи-дээ ззи
 "бии наані
 тii наамчамі
 бии наамбан
 дааi даарпу
 наа хазілаті
 ньэми тii, э
 пэньэмүндэр
 "хаила тii да
 эдији иивүэ
 наані хагдун
 горо үлээн
 эси-гдэл наа
 хасумба аун
 манзусал-да
 тii эдини, па
 тii мүн пүзи
 эи дааi бир
 дааi базуса
 "мин, мин ам
 хаizi, чупал
 эи бирүүвэ-г
 "хаi, тii дэку
 мугдүсэли, уг
 "а мимбэ-гдэ
 мимбэ-гдэл
 адакал ээктэ

"хаиду биини." тii дааi асисални вэндини, "саарасимби," вэндини,
 "хаваси нэнэхэни, хаила сааву." наа хазилати эси-гдэли,
 тii мүн мэргэнгүпү хаi, тiмана нүскүвэ халиханi, нүскү
 халираа тii тii, тii наму дауриiни, тii хаi, асiji наанзүмi дауриiни.
 тii дауриiни дауриiни даумi-дээ ичини, анаi-а тii, мүгдүсэли,
 хаi хаисали, бичин тii-гдэл, хото очин дааi ихон, дааi хото, бирүү.
 jaам анаi-а, ларгилани дааi наанi, наанi хотонзiни-дээ
 наанi бирүүзiни-дээ горо дааi.
 чүү токон токондунi чүү үлээ хагду биини,
 таваси иихэни, таваси иириини.
 кэкэсэли, даарпусали, иивээндэсил, "хаi мүн эзэпү вэнчини," вэндини
 "нүивэ-дээ, наму, намузi дауриi гүрсэлбэ
 нүи-дээ эзи иивэндэксү'-м-дэ. тараа тii-гдэл тii наамчамi тii,
 "бии наанi эдини, наамбанi наанзүхамби,'
 тii наамчамi, "алдачүксу," вэндини, "мин дичимби-дээ,
 бии наамбанi наанзүмi дичимби'-м-дэ. хаi наамчинi тii хаi,
 дааi даарпун нэнэхэн, алдачиндами.
 наа хазилати эси мүн, мүн пүзингүпү, ньээриини.
 ньээми тii, эдији, эдији заападунi iлiхан тii эдини-гдэл,
 пэньэмүндэрээ вэндини, "бии симбэ наанзүхамби," вэндини,
 "хаила тii даузүхаси-кээ"-м-дэ. наа хазилати тii-гдэл хаi,
 эдији иивүзүхэни, мээн хагду тii, зин зин ларги ларги хагду зин зин,
 наанi хагдунзiни-дээ, 'доолдову аја.' наанi хагдунзiни-дээ
 горо үлээн хагдунi тас ларги, хагду.
 эси-гдэл наа хазилати эдини хасумба аунзачiхан-нүү
 хасумба аунзачiхан-нүү тii зүэ нii тii басакачумаари тii тiду биити.
 манзусал-даа тiс эгди. тараа наа хазилати
 тii эдини, паңсиiни, "хаими, тii бичиси, эи зүликини."
 тii мүн пүзингүпү вэндини, "наа хазилати эи мин амби,
 эи дааi бирүү, эзэни," вэндини, "эзэни бичини. базун, базун,
 дааi базусал хаi, амби базун, дааi базусал хаихати," вэндини,
 "мин, мин амбаји, ааксалбаји чупал ваактахаал.
 хаizi, чупал ваактараа энбэжи-дээ ваахан. мимбэ, эи мин,
 эи бирүүвэ-гдэл чупал, хаizi, упанчiti, упанчiti," вэндини,
 "хаi, тii дэксүсэли-дээ, пеесали, хаi даача,
 мүгдүсэли, упанчiti," вэндини,
 "а мимбэ-гдэл эи, эи мин хагдумбаји энии синги упандараа,
 мимбэ-гдэл энии синги хаi, адакал ээктэ-нүү,
 адакал ээктэ упанчiti," вэндини,

"тараа упанчїті... тїї, дааї базун вэнчин-тэни, 'симбэ үлээ, үлээ бајан мэргэ үлээсиини осіні, мээн эи хотон-дээ дааї, хотон-мээчи-лэ очуї, сии-дэ, мээн мэргэ, хаї пүзи бичин пүзи очуї чупал эи, мээн бичин-мээчи очуни,' вэндини, 'а симбэ нүи-дээ эи-мээчи-лэ адакал нүи-дээ үлээсисини осіні тїї билэси,' вэнчини, тїї тїї асіні алдачіні. наа хазїлатї, "гээ эси-гдэл даузусу," вэндини, "тавасї." асіні вэндини, "син, синдү тїду эгди асїсалї. тїхалаї осіні эвэси дауруу. эвэси даурїї тавасї даурїї, таї, таї бирүүвэ-дээ мэнэ, тавасї даузуї эвэси даузуї тамї биисү," вэндини, "бии эвэси Һааласїмбі, Һааласїмбі," вэндини, "мин, мин хаї, амсалбі дааї хаїсал хаїні, даачан, даачанї," вэндиини, "эи, эи баа. Һааламї нэнэсимби," вэндини. тараа тїї, тїї мүн мэргэнгүпү-гдэл, таїтї, мээн, таїтї даузуї, эити даузуї, эи, эилэ хаї пүлэзи бими, тїї бичити. гээ, элээ.

1994.3.2 М. С

гээ, бүү эси з
амаанаа тээл
мээн сагдїлбі,
бии соңгороо
гої бааду бал
мүн амїмпу, а
таванчі тїї ди
хасу хүрээмбэ
тїва нүи-дээ са
ум, тїї унаамб
"гээ, моова хо
угдазуї анзусу
"тїї угдазї, эи
"мангу, мангу
гээ тараа тїї
угда зүүл угда
зүүлбэ анзухан
уже тїї унїкї х
хаули мангу ба
тїї хэјэмзери т
нїї гасан-дээ
бүјүмбэ покто,
ну хоон, эси н
гээ тараа ман
тїї мангува, тїї
дааї даама вэн
хаїду үлээн бэ
"сүү мэнэ ичэм
вэндини. мангу
хаї-даа кзев. ба
нїї гасан-даа к
димзери хэјэмэ
хабаровска, бү
мүн наанїдамї
"гээ тїла хаанд

3. амаанаа тээлүнгүни

гээ, бүү эси зоомбіпу, амаанаа тээлүнгүвэни.
амаанаа тээлүнгүвэни зоомбупі.
мээн сагділбі, дичимбэни, сэгбэнзүми зоомбі-та.
бии соңгороо ходіі элэ. гээ баланаа биүхэн, бүү,
гоі бааду балдахан, мүн амімпу аміні.
мүн амімпу, амнаам аміні, гоі бааду балдахаті.
таванчі тії дичити, тії эркэзіни, тії дичити.
хасу хүрээмбэни ыааламі дичити-нүү, хасу наму ыааламі дичити-нүү.
тіва нүи-дээ саарасіні. тії димээри-дее унаамба, ум даајі,
ум, тії унаамба, бакахаті. тараа даајі даама вэндини,
"гээ, моова хооруксу, тес ваамі хаста моовані хоороо,
угдазүјі анзусу." угда анзүіті.
"тіі угдазі, эи унікі хэи," ыії вэнчини баланаа ыії вэнчини,
"маңгу, маңгу хэјіни, тіла эүрүсү," вэндини, "тіі нэнэвү."
гээ тараа тії гүрсэл хаі горо, тес ларгін гүрсэл, хаі тііті,
угда зүүл угда анзухан моозі, чупал анзухан. элээ ходалаал.
зүүлбэ анзухан. *третий*, дүи инэңи-лэ,
уже тії унікі хэи, маңгу гэлэмээри.
хаулі маңгу бакахаті, эи маңгува. эи тії маңгу хэи хэјі.
тіі хэјэмээри тії, зүмээри эүхээл.
ыії гасан-дээ биини-гүни хаматаа кэвэ.
бүјүмбэ покто, эүриидүјі, наакі нэнивэни ичэхэн.
ну хоон, эси нэни доолоні, хоон вааву. баібаі-гүни.
гээ тараа маңгува бакухан-тан. маңгува бакараа
тіі маңгува, тії хэјэсити. ілаан угда.
дааі даама вэндини, "хаіду үлээн *место* бакаву-нүү,
хаіду үлээн бэсүмбэ бакаву-нүү. хаіла саара," вэндини.
"сүү мэнэ ичэмээри сааріңас-таніі, мэнэ мүрүчимээри утіліласі-ма,"
вэндини. маңгу дооні хаі-даа, хаі-даа гасан-даа кэвэ, тії эрүндү.
хаі-даа кэвэ. баі, *простой*, хаі-даа кэвэ.
ыії гасан-даа кэвэ хаі-даа кэвэ.
димээри хэјэмээри-дее, хаіва, *хабаровскава* ичэхэн тіі.
хабаровска, бүри, гэлбүни бүри-гүни,
мүн нааыідамі бүри, *хабаровска*.
"гээ тіла хаандісу. хаандамі тіду апізісу."

хаандахан, энүүэрзэхэн, зэкли, урчулундii,
 мээн доолоji пэргэлэйти, тээзүрээ-дэ. jэдү оми баiбаi-гүни.
 нii дааi гаса нii анзүни. дааi хотомба нii анзүни.
 гээ гүчи эвэси нэнэвү, тii нэнэвү.
 гээ тii хэжэмээри тii-дэ. тii хэжэмээри-дее,
 тii хэзилэни гаса, бакахатi, сапииска-нүү, сапииска-дээ билэ.
 гээ, тiла гүчи хааңдал-тан, тii наа дүвэни, эи даавун,
 дааi даавун. сапииска таикiни тii.
 мүү, пүлсүми, хаipiini, саман *гора*, хаiни.
 тii саман *гора*, порондунi, алминi биини, дааi алми.
 тес дааi алми, пүиси. манзу маимани, хаiни хазунi, тii доолани биини.
 тii поjотi, поjо *какраз* тii поjоварi, бакаңдахатi,
 маима, мэндэ иихэни. манзу маимани.
 гээ тараа хоон. ес, "гээ эси гүчи хэжэнзисү. азапси.
 наава бакаву аја. нii-дээ биини-дээ-тэнии. мүн зүликэн
 дичи гүрсэл бии-тэнии хаi." гээ тii хэжэнчини. тii
 хэжэмээри кизивэ баахатi. кизи хүрээмбэни ичи чакчахаар биини.
 гээ кизи теелани даавун, дааi даавун. тiла хаахан.
 гээ jэдү оми-даа баiбаi. "баiбаi," вэндии, "нii гасандунi оми,
 зiзалаа баiбаi." хэвэн лүнтүн дааi хэвэн биини-гүни, тавасi.
 хэвэн даани, кэвэ хаi... гээ тii нэнэи.
 гүчи таванчи гүчи, гүчи, гүчи хэжэндэ-тэн. хэжэнчини,
 нii гасан тiду jэдү ум хагду зүү хагду бии. *ну* хоонi таву.
 тii хэжэмээри-дее, када, мүн када, тээти бии када.
 тува, тува ичэхэти. тii ум дааi мафа вэндии,
 "тii мин мүрүндү хаi-даа наамби гасан, хаiнаа,"
 вэндии, "үлээн." хэвэн, лүнтүн дообаани хэвэн, дааi хэвэн.
 "тiду опи аја," вэндии. тiду нii, амбан малху,
 нii гасан амбан малху каданду. тараа кадан баачани,
 тiла ондохон. *землянка* анзухатi-нүү хаихатi-нүү,
 тii хоонi-каа бичити-нүү, тараа каданду, каданду
 jэлэ, тiла даухатi. эси биити, хаi, бэсүн биини.
 эси-дээ биини бэсүн, мүн амнаaji бичин бэсүн.
 гээ, тавуду тiла хааңдахал, зэкли, ходахан, урчулундii, жадахан,
 аунзүи-нүү, моонi-даа тес дааi үлээн моо. ларгi хаста моо-гүни.
 гээ, тавуду кадан доокiни кадан доокiни ум мапа хоолiini.
 "гээ," вэндии, "энэи-э гүрсэлбэ," вэндии, "сүү-тэмэ," вэндии,
 "нiiвэ саарасi гүрсэл-нүү, нiiвэ хаipasi гүрсэл-нүү," вэндии.
 "нii гасантинi хэчүми хаipiini таву-каа," вэндии.

"хаi баазинi диди
 "нii гасамбани б
 нii биини осii н
 "гээ, бии сүмбэ
 "гээ нэнисү."
 гээ, хагдун бэс
 хүрээндү бии ха
 хагдун-даа хагд
 гээ эси хоонi та
 "гээ jэдү осуву.
 "эси оңасi-тани,
 гээ, элээ элээ
 чупал тикэни ч
 наа хагдун, даа
 мин даамби гэл
 нээдүмэ, мүн п
 гээ тii мафа в
 гээ, анзүмi ход
 гээ нэнү хэвэс
 нэнэхэн эси. н
 үзчэ эивэ, бүү
 гээ эси хоонi,
 "бүү сүмбэ эси
 бүү эси, сүмбэ.
 тii сүмбэ, ум
 анзүмi тавуваан
 вот, духа очуха
 сугдатани тес
 тii бичин-гүни.
 гээ, мин аагби,
 тii гүрээмбэ тii
 тii гүрзэн пүли
 тунза нii пүлик
 тii наму гэлбү
 мин... мин даа
 адаву. адаву м
 мэнэ мамангу
 мин даамангу
 наани нiiвэ да

"хаі баазіні дидииси, хаі баазіні дидии-дээ, үмүтү-гүни," вэндини,
 "һиі гасамбани баахан осіні һиі гасан хэчүвү,
 һиі биини осіі һиіті заралаңдаву." гээ, тii мапа вэндини,
 "гээ, биі сүмбэ, мээмбээни гаазуі, када, кадамбаан гаазуі."
 "гээ һэнисү." чупал тэүчихэн, тэүчихэн. кадамбаані гаазухан.
 гээ, хагдун бэсүни бакаву эгди аја. моо-даа тес малху.
 хүрээндү биі хаі, хооні биі моо. хагдумба анзүмi һиі бэлчиини аја.
 хагдун-даа хагдумба анзүі-дээ һиі чупал бэлэчиини. манзүі-даа эгди.
 гээ эси хооні таву. тii гаазухан, тараа тii мапа вэндини,
 "гээ јэдү осуву, јэдү опуву," вэндини,
 "эси оңасі-танii," вэндини, "аја." гээ тii биси.
 гээ, элээ элээ элээ элээ чупал хагдун бэсүмбэни чупал анзухан,
 чупал тикэни чупал нээхэн. хасулта бими элээ хагду уже элээ ході,
 наа хагдун, дааі хагдун. зүү бүјүмбэ гүрээ хүпүвү тii доолані.
 мин даамбі гэлбүни дээн мафа. тii ааң, мин аамбі-дака,
 нээдүмэ, мүн пундазуујі эгди. дүин-дээ, пундазуујі.
 гээ тii мафа вэндини, "кадан бајан тii, кадан даајі бајан."
 гээ, анзүмi ходахан. "гээ бүјүмбэ вааңдаву эси, мапава,
 гээ һэнү хэвээмбээни. хэвээн кіракіни пүлсиини бүјүн мапа."
 һэнэхэн эси. һэнэхэн хаі гороні, уручулундііті.
 үзче эивэ, бүјүмбэ, түгбүхэн, гаазухан.
 гээ эси хооні, тii мапа вэндини,
 "бүү сүмбэ эси духазујі запахан, халазујі запахан.
 бүү эси, сүмбэ, үлээнзи балдузі, ларгін, сиүн,
 тii сиүмбэ, ум сиүмбэ, ум сиүнзи
 анзүмi тавуваандii, тii тавава кап, тава очуваандii."
 вот, духа очухан. элээ, агаа нэкү-мэч очухаті.
 сугдатані тес малху нэпүлтэ-дээ тес малху. тii эи, эи јэки чупал
 тii бичин-гүни. јэки баі хүрээн бичини-гүни хаі, эи-мэч бичини.
 гээ, мин аагбі, мин амба агаа, вэндити, мин амбі агаңгуні.
 тii пүрээмбэ тii пүликти, үлээн доолдүксү.
 тii пүрээн пүликтэвээндее, тунза һиі пүликтэхэти.
 тунза һиі пүликтэми, ум хаі-каа, намуду-нүү, соло... хаі,
 тii наму гэлбүвэни оңбохомбі, оңбохомбі тii наму гэлбүвэни.
 мин... мин даамбі, мин даамбі, гилэми ээктэвэни баахані, асізујі.
 адаву. адаву мама. тii бүјүмбэ ваарii,
 мэнэ мамаңгујі гэсэ пүлсиі-дээ, тii бүјүмбэ ваарii, бичини,
 мин даамаңгујі. гилэмизи баачii, дуумачүмi,
 наані һиівэ дабдахан. бүјүмбэ мееутучii, һиівэ дабдахан.

тес ларгині бичин мин даамбі. *вот*, эси тii мин... амба агаа вэндини,
 "тii зизүү," вэндини, гоi намуду балдахан, зизүхэн.
 гээ, тээлүнгүчиини. "бии-кээ," вэндини,
 "ум бааду аунзахапу, тунза ньii.
 тараа тiмаi бии ниепэчиндэми нэнэхэмби," вэндини. "тараа
 мин нээпэчиидүи тээсиидүи, метр, зүү метрдү-кээ бичини-нүү.
 наа паикта мэндэ тii хэрэлиини, тii хэрэлиини, тii хэрэлиини,
 тii хэрэлиини, тii хэрэлиини, тii. тараа чупал мээпи
 баргазіраа, нэнэрээ, даачакіні, пэң, запахані.
 тii паикта тее биини, суакта. чаатімак каатімак, хэмдэти гiдалахан.
 нүи-дээ саарасі. эзүхэн. алдачумі-даа кэвэ, хаімі-даа кэвэ.
 гээ, тii таванчі тii зизүхэн. гээ эси хооні.
 "бии пэргии," тунза індава запараа гоi індазі пэргии, түү.
 тараа інда халіхан. халіраа тучі запахан, каурін запахан.
 хэмдэ, хаі доолані пасі тii хаі доолоні бичимбэ, тува запараа,
 тii ділівані, тii тii тii, тунза інда чупал бүүчихэти.
 інда ваачіні-гүни, вов вов хаі..., хаі. тучіду тээзүхэн,
 пуњаам-гүни, кээлэвэ, тіс кээлэвэ. ходон, ходон вэмбүвэ.
 гээ, таа хамас зизүхэн, хамас зизүхэн-тэ хаі, пуњаам зизүхэни.
 элээ чупал энээ амаа чупал ачуктахан, інда чупал үизүхэн.
 гээ тіду вэндиини, "тii ходомбо бакахамбі. бии
 толчічихамбі," вэндиини, "наа эзэни бүүхэни, ходон,
 наа эндүрни бүүхэн." гээ тізі бүү эси үлээнзи бии, ларгинзі бии.
 гээ тапі гүчи кадакаан, тоо дүиси,
богородское таілані кадакаан. тіду бүүн хүпиини.
 бүүн хүпиитини тіла нэнэини. хаісі тунза інда.
 ньii індані тіс малхун наамбані тii сиими,
 тii нэнэи. түүмбэ анзүхан.
 даваксазі анзүхан, элбэнэ, доола хүкүрээ, тii олбінчін.
 нээ зүкээн нэнэини тii-гдала. чупал ньii чупал сиихэн.
 эиси, мэнэ мудалазүіні, мэнэ мудала.
 тараа, каурін, гiдаліухан, тараа інда
 ньоором індаті нэнэрээ, ділівані бүлчини, тii аісі,
 хэмдэ доолані бичи запараа, суактазі, тii бүлчин, тii бүлчин,
 бэгдивэни, хаівані чупал бүлчин, тунза індавані чупал-да.
 гээ, эси тээндээзүхэн, тучітіі. сіла сіла тээндээзүхэн,
 каурімачіхан, пуњаам, хаі аліні-кээ зин зин дэгди үмүтү.
 тоо баланаа наамбані сиихэн гүрсэлбэ чупал хаңпанзүхан
 чупал сиихэн. *үзче* кадакаанті тоохон.

вот ходон. тар
 "энэ-э пиктэји,
 сүгдүм биини,
 хаі, *дорога* вар
 "кэвэ зугдуји нэ
 "хоон тii, дичис
 "эгээ, миндү би
 гэлбүни, синти
 дэгдэми нэни-м
 тii *охотамі* бака
 тізі ларгін бичи
 мүн сагділму, б
 хаі-даа тэнсиин
 бии эси эмкээ о
 эгээ-дээ кэвэ, н
 уму, эмкээ очу
 дүдэнгизи дүэн
 тii балдахан, тii
 мүн амнааму би
 все, элээ. отіта

вот ходон. тараа даада эүхэн, дааји даада.
"энэи-э пиктэји," вэндини. гээ, нэнэхэн. элбэнэ ачухан, даада.
сүгдүм биини, "анаи-а, хаи поктоду эньюэрэзихэси.
хаи, *дорога варила что ль.*"
"кэвэ зугдуји нээхэти," вэндини, сүгдүм.
"хоон тii, дичиси хаи, мүү уми-дэ кэвэ хаими-даа кэвэ." уса.
"эгээ, миндү биини," вэндини. "эндүр бүүхэн, наа эндүрни бүүхэни.
гэлбүни, синти гэлбүлэвү-нүү, хоон таву-нүү. ходон.
дэгдэми нэни-мээчи би, таматамба бакахати.
тii *охотам* бакахати. наа эзэни бүүхэни. наа эзэни бүүхэни."
тизи ларгин бичити-гүни,
мүн сагдiлму, бүү маңга хала. маңга хала бичипү.
хаи-даа тэнсиини гүрсэл бичипү бүү, мүн амнааму.
бии эси эмкээ очухамби, нүү-дээ нүү-дээ кэвэ, хаи-даа хаи-даа кэвэ.
эгээ-дээ кэвэ, нэкү-дээ кэвэ, хаматан-даа кэвэ, чупал кэвэ.
уму, эмкээ очухамби, титараа тii. жадами jaai,
дүдэнгизи дүэнии, соолізі соңгii, *вот*
тii балдахан, тii балди, гээ элээ, эи тээлүнгү,
мүн амнааму бичини тээлүнгүни элээ, јелэ дүвэни.
все, элээ. отіітакан би-дээ тес ларги.

1994.8.23 Н. В. Мунина

4. ум гасан бичини

гээ сородее сасасали, эси сүнти вэндини, ыңмамба алдачіні,
нааыи ээктэни, Мунина Нина Васильевна.
эи ыңма балапті ыңма, баланаа бичи ыңма.
даа хазілатее эси-гдэлэ, ум, гасан бичини.
зың даајі-дэ биси, зың ыүүчкэ-дэ биси.
тіі гасанду бичити, чүү гасан доодуні, ум хагду бичини.
тіі хагдунду бичити, аміні, эһини, и чүү ыүүчкэ пиктэни, хүсэ пиктэ.
тіі биі тім, тіі мападу-ма тіі бэичиндэсүи тіі бэичиндэми тіі тоокпачіі
тіі тоокпачіі тіі тоокпачімі-дее мээнзйі гэсэ тоокпачілухан,
тообоіні, сүп орпічін тіі хүсэ пиктэјі. татучумі орпічіні.
гээ эмдэ-гдэ тімаі, тоокпачіі пиктэзі зүэһии, хүсэ пиктэ зүэһии.
тоокуханзйі-гда эси-гдэлэ, тоокухан, апізіхан, зэкпи,
хэрэ хэрэ бэичихэн хаіхан, сиксэзүхэн. тараа зэптэрээ акпанзухаті.
даа хазілатее эси-гдэлэ, тіі аумаарі-дее аумаарі-дее эси-гдэ тіі,
аміні толчічіні, даајі амба вэндини, наа амбані вэндини,
"гээ, мапа," вэндини, "эси-кээ," вэндини,
"сии, мээнтијі эзүрүү," вэндини. "эси тээпи, мээнтијі эзүүи,
хүсэ пиктэ јэдү ыаалі, мэн эмкээ эзүсэри," вэндини.
"зүэһии гэсэ эзүүиси осіні,
сүн зүэһиивэ чупал јэдү вааріі-ја," вэндини.
гээ эси-гдэлэ, хоон таву. мапа аумі-дее сэнэхэни.
сэнэрээ, мүрүчини, "энэнэ соңгопсі," мүрүчини,
"эси хооні таву. пиктэјі-дээ муһалсі, мээпи-дээ муһалсі,
зүэһии чупал эзүвү осіні мүмбэ чупал вааріі,"
тамі-дее мүрүчихэни, "гээ хоон тісі, ыааламі тэң аја
пиктэвэ јэдү. бүчин осіні-дээ, гірамсакаамба-гдэл тавучіндазула-ма,"
мүрүчихэни. тараа, эркээ тээхэни.
даа хазілатее эси-гдэлэ, тээрээ, пиктэјі, алавусіхані,
дэрэгбэни эркээ эркээ ачікілахані. тараа паланті эркээ наканзі эүрээ,
үчэ эркээ соміраа, тіі соңгомі тіі эзүхэн мээнтијі.
даа хазілатее эси-гдэлэ тіі эзүүмі-дее хагду зізалаа очіні.
хагду зізалаа очінзі-гда, мамаңгуні, ыизчээ кэвэ.
ыиэми ачамбумі тоорііні хаалі-да омото.
гээ, эси-гдэлэ, зізалаа зізалаа очіні. мапа тіс миэндини,
"энэнэ," мүрүчини, "эси хаіва вэмбү-нү, хоон тіі вэмбү-нү,

эси пиктэјі гэ
гээ лаң лаң о
хаіду ыаалаха
мапа хэмэ хэм
"вэнүрүү, бала
мапа вэндини,
"наа эзэн даај
"пиктэјі јэдү
эмкээ эзүсэри
'зүэһии эзүүм
тараа тіі ыаал
муһалі пиктэјі
пиктэ анаа хо
амба ауматіні
мама хооні тісі
зугбаані икзүх
эси-гдэ дүисі т
ауріі амбі эзү
тіі ауріі, тіі аум
хавасі-дээ ичин
ои нээгзэн ха
чупал нээгзэн,
"хооні таву зо
наканзі паланті
үчэвэ баасалам
дүисі ичэи, ва
"энэнэ соңгоп
зои биі хооні б
энэнэ хам ыаал
икзүрээ, чайгаа
хамасі нээгзэн
түлиду ілсүмі-д
анайее моо доо
даајі амбан ісан
тіі пиктэ-гдэ чу
хооні таву-каа х
там-гда тіі пик
мообаані чапан
умі гараті іні, ха

эси пиктэји гэлээүлэ-мэ, пиктэји паңсіла-ма.”
гээ лаң лаң омі паңсіні, ”гээ мапа, хаіхан пиктэ.
хаіду Һаалахасі. хооні тамі эмкээ эүзүхэси. вэнү.”
мапа хэмэ хэмэ биі ділі пэиси түгбүхэн.
”вэнүрүү, бала түргэн вэнүрүү, хамі хэмэ биіси, хамі Һаалахасі.”
мапа вэндини, ”гээ мама,” вэндини, ”хоони тіс-кээ,” вэндини,
”наа эзэн дааји амба вэнчини,” вэндини, ”толчііхамбі,” вэндини.
”’пиктэји јэдү Һааласарі, эзи эүзүрэ, мэнзији гэсэ,
эмкээ эүзүсэри’-м-дэ.
’зүньи эүзүиси осіні сүмбэ чупал ваазіламбі гэсэ јэдү.’
тараа тії Һаалахамбі,” вэндини. ”энэнэ соңгопсі эјэјэји,
муһалі пиктэји эјэјэјэји, хоон ачі-каа јэјэјэји,
пиктэ анаа хоон бивү-кээ муһалі, гузала эиэи,
амба аңматіні иизилэси-ма-і аіаіаіаі.” тії соңгохон
мама хооні тісі эси. тараа тії зугбаані иизүхэти.
зугбаані иизүхэн, тії бичин, зугду тії биіти. гээ тії бизини эи.
эси-гдэ дүиси тоокпачісу. гээ дүилэ-гдэ тії пиктэ-гдэ тії
ауріі амбі эүзүхэн тії ауріі
тії ауріі, тії аумі-дее сэнэхэни. ісал Һиіхэн.
хавасі-дээ ичині-дээ чупал пактулі,
ои Һээгзээн хавасі-даа ичині-дээ
чупал Һээгзээн, аміні кэвэ, таіті эити ичээзини аміні кэвэ.
”хооні таву эси, энэнэ.” паланті пүчүми эүчээ,
наканзі паланті пүчүми эүми үчэвэ-гдэ тас баасалачээкэвэ.
үчэвэ баасаламі бааті түтүлхэн. бааті түтүлирээ амбі ичээзини,
дүиси ичэи, ваісі ичэи хавасі ичэині-дээ аміні кэвэ.
”энэнэ соңгопсі,” мүрүчині, ”хооні таву-кээ,
эси биі хооні бивү-кээ, амаа мимбэ хамі Һаалахан-кээ
энэнэ хам Һаалахан-кээ хооні таву-кээ.” хамасі иизүхэн зугбаани.
иизүрээ, чаікаамба хүлдүрээ, чаі умураа, даа хазілатее эси-гдэлэ
хамасі Һээзүхэн Һээрээ тії эси-гдэ, түлідү ілсіні.
түлідү ілсумі-дее ичэини,
анајее моо доозіні-дээ эси-гдэлэ агбундараа
дааји амбан ісаңні ихэрэ, иктэни јааза тіс Һээлэпсүлі.
тії пиктэ-гдэ чупал силзүлүхэни, ”хооні таву-каа эси энэнэ,
хооні таву-каа хооні таву-каа,” мүрүчині,
тамі-гда тії пиктэ-гдэ түтүлис-кээ тоо мообаані түтүлүми-гдэ
мообаані чапакчаку тооророо эси-гдэлэ гараті, гара, ум гараті ілі
ум гараті ілі, хаулі хаулі моо поронтіні тоокухані.

тиду ичээзини. амба-гда эси-гдэ наати ісіндараа ісіндараа дидэрээ,
 мообаані дидэрээ тамі зін зін мообаані-дээ тооророо каапарі
 тії гара-гда бујаачіні эси-гдэ эси-гдэ, "хооні таву энэнэ,"
 пиктэ мүрүчиини, "эси хооні таву, мимбэ элээ элээ зэптиини эси.
 гээ тараа-гда эси-гдэ, ум моо гаратіні тоохон, тії-гдэ зүэл,
 зүэл гара алдандулані лакпахан тії амба. тин тин таахані.
 хооні-дээ тамі-дээ мүтээсини. хоони-дээ эүзүми-дээ мүтэсини,
 хооні-дээ палан...
 хаімі-даа мүтээси наабаані эүзүми-дээ мүтээси хооні-дээ тамі.
 тараа тії пиктэ-гдэл таја калтаазі тії гараки хаулі эүзүми,
 гээ энэнэ галатані хоон тії түргэн мээн,
 тучазухані тії мээн хаігугтіјі, аунзатіјі.
 хэхэхэхэхэ јадахан тії пиктэ тес нээлэхэни тес силзүндини.
 тараа эси-гдэлэ, чаікаамба умураа тії акпанзухан, тії амба-гдэл
 тії мооду тең тең лакпараа тиду тії биини.
 аумі-дее толчіііні. тії амба вэндини, "гээ нэкү, гүзэлэсүрүү,"
 вэндини, "бии симбэ вааічахамбі хангісі очухан," вэндини,
 "эси. бии симбэ вааічахан. бии тең тең јэдү таахан.
 тоокуу," вэндини, "эси. эи моова хоонкаан-дээ хоосорі," вэндини,
 "мимбэ хорісарі," вэндини. "тіі тапі-каа," вэндини,
 "бии симбэ, синдү хаматан-дээ нэпүлтүвэ,
 хаматан-дээ бүјүмбэ хаматан-дээ хаіва чупал бүүктилэмби," вэндини.
 тії пиктэ-гдэл тімаі тээхэнзијі-гдэ тії мообаані, түтүлүзүхэн,
 сакпімбэ запараа нэнэхэни, түтүлүхэни,
 тії моова-гда хоохоні, хоохоні.
 тімаі дэрүүхэнзијі сиксэдэлэ хоомі хээпээ сіла сіла түгбүхэн
 тії моова. лес түгбүхэн тії моо, тії моо түкизини гэсэ тії,
 амбані-дээ гэсэ лес, хээпээ хээпэ сіла сіла ээрсилзүхэн.
 јадахані-гүни тії тараа тараа бичин тії, гараду.
 тараа іліраа тавасі эвэсі лэнгээ лэнгээ ілсіраа
 таіті ичээзи, эити ичээзи, пиктэти ичээзи. тамі-дее эси-гдэлэ,
 даа хазілатее, ... даа хазілатее эси-гдэлэ тії пиктэ-гдэл тараа-гдэл,
 тиду тії ілсі тії амба-гдэл эркээ эркээ тес јадахан
 моо доотіні хээпээ хээпээ хээпээ ээрсүми сіла сіла
 иізүхэн, зүкэ зүкэ гіравчіні, тес јадахан. тії пиктэ-гдэ
 тараа мээнтијі нэнүхэн, мэнэ аунзаті нэнүхэн зэбдиі энүүэрэзүхэн,
 зэкпин, акпанчін, аумі-дее гүчи толчіііні. "гээ нэкү," вэндини,
 "кэси, банха," вэндини, "сии мимбэ хоріхасі. тімана тээпи-кээ,"
 вэндини, "бэичикүвэ теечісарі," вэндини, "хаікі-дээ хүм."

тараа вагбангі т
 хаісі тирэнсирээ
 гээ тімаі тээрээ
 теечіраа наані вэ
 вагбангізіјі сімата
 тії аунзахан. тіма
 тії бэичикүсэлбэ.
 зін зін сээпэ тең
 чупал тіва таучу
 мээн аунзаті газу
 тес баарачіні тії
 инэн инэн тії, тії
 пиктэ јэдү тії бик
 даа хазілаті эсин
 эси гээ хоон таву
 бүчин осіні-дээ г
 гірамсані-дээ баку
 вэндини мама, "х
 "бүчин осіні-дээ г
 багда чупал бар
 тії тооку тії тоок
 анаее аунза зізал
 "энэнэ," мүрүчи
 "мин пиктэ," мүр
 "бүчини бимчэн х
 вэндини. "пиктэ,
 "јүүн билэ," вэн
 түргэн нэнэми үч
 пиктэни-дээ амбі
 монгокіні наама
 пиктэ эси-гдэ ам
 хаі-даа хооні-даа
 хооні-даа мооло
 аміні-гда ичини а
 хамата хаісалба
 тараа эси-гдэл э
 тіс тэүчирээ чупа
 мээнбэни тії пүл
 эніни тіс баарачі

тараа вагбангі тэтүрээ, вагбангізіји сімата ојокіні њаалазіји,
 хаісі тирэнсирээ тасарі," вэндини.
 гээ тімаі тээрээ тії пиктэ-гдэлэ, њэнэрээ бэичикүвэ,
 теечіраа наані вэндини-мээт-лэ вагбангі тэтүрээ,
 вагбангізіји сіматасалба хэрэ хэрэ тирэнсирээ тії зизүхэн.
 тії аунзахан. тімаі тээхэнзији-гдэл эси-гдэл, ичэндэзүхэн
 тії бэичикүсэлбэ. тес, түчүхэти. тії бэичикүдү
 зин зин сээпэ тең тең аја бэичикү таундуні чупал биини.
 чупал тіва таучзүхан запазүхани, чупал гаазүхани,
 мээн аунзаті газураа аја. чупал, хаіраа чупал локочіхани.
 тес баарачіні тії пиктэ. инэн инэн тії ваахани,
 инэн инэн тії, тії-мээчилэ бэичихэни. гээ эи, эи
 пиктэ јэдү тії бизіни. эси-гдэл ваісі эзүзүсү, аматіні.
 даа хазілаті эси-гдэлэ аміні-даа эси онзібусі
 эси гээ хоон таву. тоомі-тэн аја-гүни,
 бүчин осіні-дээ гірамсакаамбані-дээ эзүзилэ-мэ.
 гірамсані-дээ бакуі-нүү хооні таі-нүү. "гээ тоороо,"
 вэндини мама, "хоон тіс-кээ," вэндини,
 "бүчин осіні-дээ гірамсавані тообозуі, эзүзүлэси-мэ," вэндини.
 багда чупал баргазураа султајі тэтүзүрээ гүчи
 тії тоокуі тії тоокуі тії тоокуі.
 анаее аунза зізалаа ом-дії ичэхэн. пуњарі пуњарі тії сањња.
 "энэнэ," мүрүчиини, "јүн-тэнии," вэндини,
 "мин пиктэ," мүрүчиини, эмкээ-дээ ањмакі-дээ вэнди,
 "бүчини бимчэн хаі сањња үи ваачііні-кээ,"
 вэндини. "пиктэ, јүн билэ," вэндини.
 "јүн билэ," вэндини. түргэн тии аунзабаані њэнэхэни,
 түргэн њэнэми үчэвэ њиихэни. пиктэ наканду тээсүми биини.
 пиктэни-дээ амбі ичэми түтүлихэни зин зин наамандахані,
 моњгокіні нааманчііні алаусіхаті соңгохоті баарачумаарі.
 пиктэ эси-гдэ амтіји чупал алдачіхани хаі-даа хооні-даа бичимбэни
 хаі-даа хооні-даа тахамбані хаі, амба хооні-даа наамбані тахамбані
 хооні-даа мооло таахамбані хооні-даа тахамбані чупал.
 аміні-гда ичини аунза хэрэлүм тес локоочіхани сээпэсэлбэ
 хамата хаісалба нэпүлтэсэлбэ тес локоочіхани.
 тараа эси-гдэл зүэњи-гдэ тіва-гдэ чупал тучітіји тэүчүхэти.
 тіс тэүчирээ чупал катарачіраа тії ваісі эзүзүхэти.
 мээнбээни тії пүлмэмээри тії эзүзүхэти.
 эніни тіс баарачіхан, тії бајаамаарі тії биити, гээ элээ.

1994.8.23 Н. В. Мунина

5. ум бүжүн пүлсини

даа хазілаті эси-гдэлэ, эмдэ-гдэл ум бүжүн-гдэл ум,
тавасі нэни эвэси нэни, моо доокіні апізумі пүлсини.
тїі пүлсүми-дее эси-гдэ ум оонзоті эүхэн.
даа хазілаті эси-гдэл тїі оонзуду-гдэл мүү уміндахан.
тїі ілсум-дее мүрүчиини, "энэнэ јэдү апізу-нүү,
дүиси тоокураа гүчи моо доокіні-кээ пүлсү-нүү,
моо доокіні апізумі пүлсү-нүү, хэрэ нэвэ.
јэдү-кээ мүүвэ умумі-кээ ілсу-нүү," мүрүчиини.
анаі-а, тїі мүрүчүми-дее ичини, ум хангу-гдэл пүчүнүсини,
чакпак чакпак тіла пүчи јэлэ пүчи агбунзуі, иизүи тїіні.
тамі-гдэ тїі бүжүн-дээ эси-гдэ тїі хангува нээ вааічамі хасасііні,
чапак чапак мүүбээни тісахані, тавасі эвэси тїі мүүдү.
пүлсини, хасасііні, тїі хангу-гда чүп иизүи, агбунзуі
мүүбээни пүрүнэсини.
"хооні таву эси, энэнэ хоон-дээ тїічїіні-дээ, тїі мүүвэни-дээ
тїі тісіі, гүчи хамасі, хангунгуні тіла пүчүзүи,
эити нэни, тавасі нэни тїі хаі пүчүнэсими нэни мүү доокіні.
даа хазілаті эси-гдэл, ан тїі зобїі тїі зобїі,
тїі зобїідујї-дээ ичини, дүизіэ, ум сулі эүрэрээ-кээ
ум соогзо сулі, таіті ичи, эити ичи, кэт бүсэвү.
сулі хачін тїі биини-гүни. "гээ бүжүн,
хаіва тісі, хаіва тамі јэдү ілсісі сии-јэ," паңсіні.
"энэнэ јэдү биі јэдү ум хангу ичэхэмби
хооні-даа вааічамі мүтээсимби. тїі хасасіі-а таіті эити,
мин, тиіпэк хэрэлзүдүјї-мэл наані тоо тіла агбунзуі,
тоо тіла агбунзуі тїіні, энэнэ галатані хоон ті, хоон ті,
хоон ті таву хоон ті, хоон-дээ вааічамі мүтээсимби.
зэптичэми мүрүчїи-гүни тїі хангува хооні-дээ мүтээзүсимби."
сулі вэндини сулі, "гээ эзэнэ эзэнэ эзэнэ эзэнэ аја,
биі зоомбухамбі эси, гээ бүжүн, сии эси, сапсі кіраадуні, оонзо,
кіраадуні іліраа, тїі мүүвэ-гдэл оонзо мүүвэни чупал уміс-кээ гээ.
тітапі-гдэл биі-гдэлэ тїі суліва, ваазїла-ма,
тітапі зүэњиі борїлап-ма."
"гээ јэбэ јэбэ, зоомбухасі үлээн-гүни гээ эси зүэњиі, гээ пэргисү,
биі эси мүүвэ умїі, тїі мүүвэ чупал умїі, тараа сии-гдэл хаїрїі

гээ, пэргисү." тїі
талзїла тісараа тїі
хүп, хүп, хүп умїі
тїі оонзо мүүвэни
хаїмі-даа мүтээси
сулі-гдэ тїі мүү чуп
тіла пүчи јэлэ пүч
хап иктэмэнчээ кэ
дүиси тучазус-кээ
энэнэ бүжүн тавасі
хооні-даа тамі-даа
тїі бүжүмбэ. все а

гээ, пэргисү.” тii бүжүн-дээ эси-гдэл тii тiсараа
талзiла тiсараа тii мүү умулуханi.
хүп, хүп, хүп уминасiiнi энэнэ, хэмдэжи-э, хэмдэни тең тең очинi.
тii оонзо мүүвэни чупал умiхан. түнчүм-дээ мütээси,
хаймi-даа мütээси очинi эси-гдэл тii бүжүн-гдэлэ.
сули-гдэ тii мүү чупал умiiзiанi гэсэ эси-гдэлэ зiiң зiiң,
тiла пүчи jэлэ пүчи тii хангува элээ-дэ бакухан,
хап иктэмэнчээ кэвэ тii хангува. иктэмэми эси-гдэ
дүиси тучазус-кээ моо доотинi чуп түтүлүзүхэн.
энэнэ бүжүн тавасi түнчий эвэси хоонi-даа түнчүми-дээ мütээси,
хоонi-даа тамi-даа мütээси, тii сули, сули тii аргалараа ходахан,
тii бүжүмбэ. *все. все.*

З. А. Пластина

6. нээтэрки

даа хазілаті, нэүтүнээ балдахан эси-тэнэ,
ээктэ нэүзи зүү нии, тii бүүмбэ бүүлтүхэн
тii тii. эм инэн-дээ индэси эси-тэнэ,
таңгу тактуні-дээ залукпін дэвэ дэсини-дээ чупал залукпін,
эси-тэнэ хооні, хоңгірані залукпін. тii тii бэичимдее
эси-гдэл, нэүни зин-зин, мин-мээчи лакса лакса *грязный* діліні-дээ.
тамдее эм мудан ааңні зизүхэни. діліні чупал сигдүхэн,
чупал хаіухан-да. "нээтэрки, сии хооні сигдихэси."
"нээ агаа агаа, мимбээни-кээ эси-тэнэ хүүн күүкү пүлсиини," вэнди,
"эси-тэнэ, тii гүрсэл мимбээни дикпээри, мимбэ сілчүі,
мимбэ сигдии, хаіріі тiiті"-м-дэ.
наа тітапаарі-дее тii ааңні, тii таханзії тоокухан,
не знанзі эүзүхэн тіва, тамдее тii күүкү вэндини,
"нээтэрки күүкис, ааксі биі-нүү күүкис."
"мини аакім билэ, гівандула-ги валтумі, экүлэ эүзүми
бүүмбэ бүүлтиини," вэндини. наа тітараа хопарі-о доомаарі,
мээпээри чупал, ачумаарі тii иириити.
наамбані сілчүідујі сілчүі, зэбдэни эньюэрэзүидүјі эньюэрэзүи хаірііні,
инэн инэн тii-мээчи пүлсиити, тii *ухаживает* тii пиктэвэ.
гээ, эн ум мудан эүзүхэн ааңні.
"гээ, эзі алдачі, эзі алдачі, биі, эси эинэн нэнүэсимби,"
нэүти вэндини. *такой как я дурный девушка* билэ, ии.
эн зізалаа эси-гдэл тіісал нэнүхэн эси-гдэл эинэн-гдэл дэрэзіхэн
эси-тэнэ тii ньаузака сіріхані эси-тэнэ тітараа гүчи гүчи јааіні,
"нээтирки күүкис, ааксі биі-нүү күүкис."
"мин аакімбі-лэ гіванкі валтуіні." наа хазілаті,
"зэлэчиси биіси-нүү эси-тэнэ хаімі-даа хаімі-даа нээлэчиіпү,"
вэндини эси-тэнэ, "тээ, тээ, кэвэ, тээ, кэвэ," вэндини.
"нээ кэвэ осіні кэвэ," элээ доохон иихэн.
пааніні баала биі хүүн нии чупал иирэсини-гүни, *девять* нii.
а тii таханзi-дээ мээпи эси хоон таханзі, хоон-каа тамі эси-тэнии,
ааңні таванчі агбунзухан тітараа агбунзүмі, тii зуптумба запахані.
наа күүкүни зуптуни-тэнэ зеесілні чупал ньээзүхэн,
тii ээктэ эмкээ дэрэзэхэн эси-тэнэ, пујаңгу пүзин. "гээбүүзүү,
гээ бүүзүү," эси-тэнэ, "биі эи анаа бими мүтээсимби,"

"эси-тэнэ, хаізі-дэ
эси-тэнэ, "бүүзүи
"эн тээ мимбэ за
вэнчини эси-тэнэ
"тээ мимбэ гэли
"кэвэ." наа хазі
эси-тэнэ эйдү ха
тii дэгдэнзүхэти.
эси-гдэл тii нii н
зја нэнэхэн эси
тii ньэми тii нэн
ум сангал баахан
элзини чэк зобін
наа хоон тіні, х
эси аліјі коах, па
пүү пүүхэни эси-т
эн таханзі тii нэн
хавасі нэнзөү-нүү
амнаані баатіні-д
данлі умі хаіріі т
мапа биіни-гүни
"эн гээ эмчүү ха
эси-тэнэ, "эдэкэ з
эси-тэнэ, "нii гас
"наа хозо холдо
алікі аргалівасі-д
тондомо токоні
"эдэкэ эси-тэнэ
эмдэ хэсэвэ, зэн
хамікіні хасахамб
"эн тii таву осін
эн даізі, данліва
биі умубді тэч
умі далі будава
уміні алдандүні,
эн хоон тіла-ка
эси-тэнэ тii далі
"эн эси-тэнэ эи м
кэвэ, огамі хаірү

"эси-тэнэ, хаїзі-дээ хүм нээлэчий эси-тэнэ, эи зуптумбаји бүүзүү."
 эси-тэнэ, "бүүзүй, бүүзүй." эси-тэнэ,
 "эң тээ мимбэ запічі осіні-тэнэ, бааһііні пиктэнитаамбі,"
 вэнчини эси-тэнэ, "мин амтіі, нэнэнэс-тэни"м-дэ.
 "тээ мимбэ гэли осіні. эси биі јэдү дэрэзисимби," вэндини,
 "кэвэ." наа хазілаті, гээ хоон тіісі тэнэ, эмдэ нії хэсэ вэнчини
 эси-тэнэ эидү хаівані, зуптумбани бүүзүхэн эси-тэнэ, тіі хэбэ хэбэ
 тіі дэгдэнзүхэти. эң тіі бичин, горо бичи зіза бичи-тэнэ
 эси-гдэл тіі нії нэнини. тіі нэнини, тіі нэнини, горо нэнэхэн,
 зіза нэнэхэн эси-тэнэ үиси тоомі тіі нэнии, баа саңгалкіні
 тіі ньээми тіі нэнэхэни-тэнэ, тіі нэнэмдее
 ум саңгал баахані эси-тэнэ тіі саңгал даадуні эси-тэнэ, паатіні чэк,
 элзینی чэк зобіні, чэк эси-тэнэ, нії этэүрини.
 наа хоон тііні, хоон тіі агбумбуву эси-тэнэ таванчі
 эси апіјі коах, паһајі чес дүксүми
 пүү пүүхэни эси-тэниі гилэктэ осіраа гуаммм иихэни.
 эң таханзі тіі нэнэхэни, горо нэнэхэни, хавасі нэнэвү-нүү
 хавасі нэнэвү-нүү эси-тэнэ тіі нэнэмдее, тіла ісіндахані.
 амнаані баатіні-дэ. хагдун баакітіні ісіндахані эси-тэнэ тіі,
 даңпі уміі хаіріі тахані эси-тэнэ, үчэлэни запараа иихэни
 мапа биіни-гүни, мама биіни-гүни тэнэ, сородее, сородее.
 "эң гээ эмүчүү хаі, хаіванчі эси-тэнэ хаі гүүлэни нэниси,"
 эси-тэнэ, "эдэкэ эси-тэнэ, хаі гүүлэни нэнилэм-кэ," вэндиі
 эси-тэнэ, "нії гасані зіза-нүү горо-нүү сааксумі дичимби," вэнчини.
 "наа хозо холдоңкі хоолзүівасі-дээ саазіламбі,
 апікі аргалівасі-даа саазіла-ма эси-тэнэ,
 тоңдомо токоні таас алдачіруу," вэнчини. эң тітараа эси-гдэлэ
 "эдэкэ эси-тэнэ хоон алдачу билэ-кээ,
 эмдэ хэсэвэ, ээндэхэм, эси-тэнэ нії хэсэвэ ээндэхэми
 хамікіні хасахамбі," вэнчини. гээ.
 "эң тіі таву осіні-тэнэ эси, биі умубді тэүчий.
 эң даізі, даңпіва умубді тэүчи эси-тэнэ
 биі умубді тэүчүми ходіачі,
 ум далі будава хүүлінди бааті. эң тіі далі будавані эси тіі, хаівані,
 умііні алдандуні, *все* ході, умун-дээ ісал кэвэ опамі."
 эң хоон тіла-ка эси-тэнэ умумді тэүчихэни эси-тэнэ даіјі нээхэни
 эси-тэнэ тіі далі будавані *пшенова* чупал хүүліндэхэни нааті.
 "эң эси-кээ эи мин, эи даіјі уміі алдандуні эси-тэнэ ум ісал-дээ
 кэвэ, опамі хаіруу," вэнчини, "тэсүми, хоон тамі."

эң илзүхан. "гээ эси-тэнэ бии-гдэл хоон таву-кээ эси-тэнэ,
 баланаа амаанаа эси-тэнэ, ум таңгу накуңгујі эси-тэнэ түкүрүү,"
 вэнчини үизи-тэнэ, агді агдііні-мээчилэ зин зин,
 баа түчини-мээчилэ эүхэти,
 накусалті-тэнэ зин зин, калтаа даі мэндэмбэ-дэ эчээл уміідуні
 тії чупал наку чупал пин гүм.
 наан, дабдаасіні-гүни тії осіні. наа тараа иизүхэн,
 эси "наа эдэкэ ичэндэрүү," вэнчини,
 "эси-тэнэ тээ-нүү кэвэ-нүү"-м-дэ. э тії нії, Һээхэн,
 тітараа хоон хаі, элээ нії чупал таусіхані хаі,
 хаіду ичэиси, хаіду бакісі. эң гээ тараа инэн аунза-тани,
 индэ-тэни эси-тэнэ эси-гдэл вэндини эси-тэнэ,
 "эи тајеелані наму токондуні бии," вэнчини эси-тэнэ,
 "ум моо, моо эси-тэнэ, моо бимдээ моо вааміні
 эси-тэнэ запамі запкун дэри, наамамі надан дэри
 эси-тэнэ хазілаті моо хаідуні биини," вэнчин, эси-тэнэ,
 "хамата кэскэ, тії, тії мееваибані гэлиі."
 наа хоон тіісі, нії вэнчимбэни маңга заа тії нэнэвү-гүни
 эси-тэнэ тії нэнэхэни, горо нэнэхэни зіза нэнэхэни эси-тэнэ,
 тії нэнэмдее тэээ бис-кээ эси-тэнэ, наму токондуні биини,
 пондохон мооні эси-тэнэ наамамі надан дэри,
 запамі запкун дэри эси-тэнэ, моо бимдээ моозі ваамі,
 наа гэлэлихэн эси-тэнэ хазілаті эси-тэнэ, тії тіідуні,
 кэнги-нүү хамата-нүү эвлэ чава нааліхан.
 наа хаахан эси-тэнэ "гээ," вэндини эси-тэнэ, "сии эси,
 бии симбэ эси јэдү, *поймаи*," вэнчини, наа "запахамбі,
 симбэ хоон-даа тії-дээ кэвэ эси-тэнэ, хоон-даа тії-дээ кэвэ,"
 вэнчин эси-тэнэ, тії пүимүлти.
 "эи наму мүүвэни чупал умуруу"-м-да.
 наа хазілаті хоон тіла-кээчиіп чиіп чиіп,
 наму мүүвэни чин там уміхані тэнэ канзүмі тії канзідуні,
 зин зин хаіні, нэнэхэни горо нэнэхэн зин зин,
 үңтини апілані даксазүхані түтүхэни эси-тэнэ, тії мооті ісіндахані,
 тії мооті ісіндамі эси-тэнэ, чоко чоко мокчамі
 эси-тэнэ онголовані-дээ утулуvasи, үчэвэни-дээ утулуvasи наа
 тіікан Һиими эси-тэнэ, иихэн кэскэ, Һылау Һээридіни
 хүзүлэни так запамі эси-тэнэ хэмдэвэни чүэр пүктэхэни. наа
 хэмдэвэни чүэр пүктүмитіі мееваибані запамі тії эзүхэн
 тітамі-даа хоон тії тії наабаані тії тії тії түүндэхэн

горо түтүзүхэн, з
 тії зизүмдее тії хай
 "гээ, гээ элээ эс
 "сии-дээ мимбэ х
 хаі-даа мангавані
 вэнчини "сии-дээ
 эң чупал элээ хай
 мүү сінта сінта о
 эң хүсзүхэн, наан
 тії малаті, хагдун
 "эмчээ эси-тэнэ б
 "син кэсиси осіла
 эң тії бичин хасу
 эси-тэнэ эси нэнү
 эң хаізі нэнүвү-нү
 асіјі гаазүі. эң э
зелезный ядкий
 тараа эси-тэнэ, н
 тії зүэ нйва ум кор
 тії *корыто* доола
 тії анаа тії, тії јус
 мзантији түлители
 наа нэнүхэн-гд
 бааса-іхані эси-тэ
 хасу хаан бирүү о
 омі эси-тэнэ, тії х
 хоон тіні тіду тії
 зооктіјі иизүхэн-
 дааі хагдун, зоок
 эң зэмүлэ-гүни эс
 хаіва зэптэн-эси-т
ядигаамба Һиик
 тії *ядкий* дэктэ
 мэнэ хаі, хаматава
 дасзүхаті хаі-даа
 тії буразүхан-даа
 тії үмүхэн, эһиі

горо түтүзүхэн, зиза түтүзүхэн эси наа,
 тii зизүмдее тii хайнгутi зизүхэни.
 "гээ, гээ элээ эси-тэнэ хүзэүзүрүү жүвэрзүрүү," вэндини эси-тэнэ
 "сии-дээ мимбэ хорахан эси-тэнэ, хай-даа эрүндүни титараа
 хай-даа мангавани бакамі мимбэ хээрчисээри"-м,
 вэнчини "сии-дээдэ."
 эң чупал элээ хайхани, эи хай, сугдасал-дээ элээ элээ холзiни-гүни,
 мүү сiңта сiңта очiн-дээ наа наму тим тим, хүсэзүхэни.
 эң хүсэзүхэн, наан-даа тii тiсазухан, тii нii-даа тii нэнүхэн.
 тii мапатi, хагдунтiни нэнүхэн. эң гээ хоон таву-кээ,
 "эмчээ эси-тэнэ бии дабдахамбi-гүни," вэнчини эси-тэнэ,
 "син кэсиси осiла-ма"-м-да. ии.
 эң тii бичин хасумба аунзамi бичин-нүү хасумба аунзамi бичин-нүү
 эси-тэнэ эси нэнүвү-гүни мээнтији.
 эң хайзi нэнүвү-нүү хоон нэнүвү-нүү эси-тэнэ "гээ нэнүи."
 асijи гаазуi. эң эжээчи бии эси-тэнэ *квадратный,*
*железный ящики*и, наа, тii ээктэ *приданный*и.
 тараа эси-тэнэ, наамбаанi тii мапа ньээхэни эси-тэнэ
 тii зүэ нiiва ум *корыто*ду тээвэнчини.
 тii *корыто* дооланi зүэ нii тээхэн тii *ящики*ва нээхэн.
 тii анаа тii, тii жүсүнзүми тii. эң горо жүсүнчин, зиза жүсүнчин эси-тэнэ,
 мээнтији түлители, жүсүнчин тii *корыто*зи.
 наа нэнүхэнзи-гдэл эси-тэнэ тавасi тас, эвэси тас,
 баасачиханi эси-тэнэ хайсi iлаан хаан бирүү очинi-нүү
 хасу хаан бирүү очинi эси-тэнэ наа хазiлатi зiң зiң тii бажан,
 омi эси-тэнэ, тii хасу хасу хай, *рядов* хагдун балдаханi эси-тэнэ
 хоон тiiни тiду тii бажан эси-тэнэ тii зизүхэнзи эси-тэнэ,
 зооктiji иизүхэнзи-гдэл, хагдун-даа тес үлээн хагдун очi,
 дааi хагдун, зооктiji иизүхэти.
 эң зэмүлэ-гүни эси-тэнэ хай, хай биини,
 хаiва зэптэнэси-тэни зүү нii тээзүхэнзи-гдэл тii,
*ящика*амба ньиихэти.
 тii *ящики*... дэктэү ньиихэти, хаматаанi зэпүвү мэнэ дэрэ оjолонi,
 мэнэ хай, хаматава гэли осинi, хаматаа мэнэ,
 дасiзухатi хай-даа кэвэ-тэнэ тiду тii, бажанчiми тii, бажанчiитi тii,
 тii буразухан-даа зiң зiң эси эи *город*-мээчи опамi анзүзүханi,
 тii үмүкээн, эъии сiңгии хагдун бичини элээ. гээ элээ.

1994.8.13 Д. Данкан

7. ум хагдукаан балдахани

даа хазілаті ум чоңдо доолані, оонзо доолані
ум хагдукаан балдахані. тii хагдунду, эигэтүнзэ бичити.
эигэни нэүни-дэ. нэүни хүсэ очупі хүсэ очii тii,
эигэни хүсэ очупі хүсэ осii, тамаарі тii бичити, маңгачумаарі.
тес ларгінзі бим-дее, ум инэнэ нэүни апи́зіхан.
апи́зі-нүү, апи́зіхан. тіду-гдэл, эигэни тоокі, охо... хаи́ндамі, охотіндамі.
тапи́ сиксэ эүзүни. эчээл эүзүэдүни, ум пүктүхэ,
тоохоні, качарrrrr нааті тооітіні.
тітараа тii, иихэни. тii ээктэ-гдэ тii андахасал биидүни
кото кото акпанчін. чүү нэүдүмэ ээктэ-тама. акпанчін, тітавандаа тii,
эигэни эүзүхэн чупал зэбдэји тахан.
чупал тii андахасалбі зэпүвэнчини.
тii аагдумані асілахан, тii тii, паңсіраа асілахан-гүни.
нэүдүмэ чоор,эмдэ тii патала акпанчіні, чең чең-дэ.
үи-дээ сэрүчини-дээ тээрэси, тii аурііні. тіманані тii нэнүхээл,
эигэни, сэрүчини-дээ тii пүрүн дүвэкээмбэни алачіі.
тii нэнүхэн тii. тii андахангуні тii үи,
тii һаузака-гдэл асі анаа тii нэнүхэн.
тітапи тii, хооні-а хасумба аонзахані-нүү, пүзи тээзүхэн,
тii чупал дэңсихэни, *ЧИСТЫЙ* очоваанчіні.
тітараа, тii долбоні акпанчін,
анайее, нii-гдэл, хатанзі үисини, үчэки иихэн.
тii хаіті, эи јэдү бичин, лохомби туамі тіва,
чиилүхэн тii һiiва, тii андаха. наамбані пааһи́ндаха андаха.
зиимэхэни тii, тii бүһүрүми тii һээзүхэни-гүни.
тітараа пүзи тээрээ, мээн саліхамбі паачамбі,
тii тактамі гүдэлірээ тоскулараа ичэхэн,
тii сээксэ хэјини тii, маңгу даузухані, *не* маңгу, намува. тii даузухані.
тітараа пүзин-гдэл, хамасі мүчүичэрээ, чупал мээпи баргічіраа,
түтүлээзүрээ хаіраа, тітараа тii пүлмэчини,
тii сээксэ хэјини хасамі, тiiнэнэхэн.
нэнэмдее, ум хагдунзі, тээбэннүннүн сээксэ һээриі, тіва тii нэнэини.
наамбані ваандамі дидиі гүрсэл тii, тес,
эгди нii тii вааічамаарі тii хаһii.
тітараа эигэји, інда далаурітіні нэнэхэни.

отii һүүчкэ һоор
запчамі тii гуу а
"анайее симби н
"хаи́ндамі дичис
"тii һii-дээ бүчи
"эси, соліла би
"хоонкоду, амба
"һiiва зэптии, н
геесучу тii, хагд
тітараа пүзин тii
хүсэһии хазуні-
тітараа, тава кіра
һээлэчилині-гүни,
биидүни эікүхэн
бүчини, ваахамбі
тітараа үиңдү
тii ээктэ эікүми
чупал эһүэрээрээ
наані зэбдэни эһ
эһүэрээрээ тіва
зэптээ тii, тітапи
"Гээ, бии эси, го
"сии эи, геесува-
"эивэ теесі, хоон
"бии эси тii," нэн
наандүні бүүхэн,
тітараа вэнчин,
тii пүзин, тii мүр
тii, геесун-даа тii
тii зiмехэн һii-та
хоонко порондүні
бүчин гүрсэлэни
наані ваактамі тii
кээрэнчини, мзэн
тii пүзин тii, тii о
тітараа тii бии-де
наані эчээл эділэ
тii амбаан, наамбі
тітараа тучаванда

отii ньүүчкэ ньоодули iньаамбанi, чэң запаханi, вэчэн омонi дооланi.
 запчамi тii гуу анаа эигэни наантинi нэнэхэни.
 "анажее симби ньii эси ньii ваарiiни," вэндини.
 "хаиңдамi дичиси-кээ, тii."
 "тii ньii-дээ бүчин," вэндини. тээ тiтараа тii пүзимбэ алаусиханi,
 "эси, солiла бии хооңко биэси-кээ," вэндини,
 "хооңкоду, амбаан биини," вэндини,
 "ньiiва зэптии, ньii, ньiiзi геесучу-да. ньiiзi-мэл
 геесучу тii, хагдунду, хэрэлүм-дэ." тiла нэнэвэм вэнчини.
 тiтараа пүзин тii нэнэхэн. үи-дээ кэвэ,иихэни,
 хүсэньи хазунi-мал биини.
 тiтараа, тава кiраатинi нэнэрээ, тава iвачумi тii тээчини.
 нээлэчиини-гүни, хоон таву,амбаатi нэнэвү. тiтараа тii хаихан,
 биидүни зизүхэн тii, ум гиүмбэ,ум ньiiва гаазуханi.
 бүчини, ваахамбi ньiiва газухан.
 тiтараа үичэндү нээхэни. гиүңгүни
 тii ээктэ зизүми чупал тэлзэчихэни,
 чупал энүүэрээзүхэни, баң-да. тii, ньiiңгуванi-гдэл энүүэрээзүхэни.
 наанi зэбдэни энүүэрээзүхэни, оромчозi, баң-да.
 энүүэрээзүрээ тiва бүүхэни, тiва чупал зэкпини-гүни, тii хүсэвэ.
 зэптээ тii, тiтапi тiмананi тээхэни.
 "гээ, бии эси, горо баатi нэнийжэ," вэндини.
 "сии эи, геесува-ла, үлээңгүзи этэвүрүрүү," вэндини.
 "эивэ теесi, хоонi-даа эзи тара, үлээңгүзи этэвүрүрүү," вэнчини.
 "бии эси тii," нэнэпи, мэрхэвэ, ум сигдүпүмбэ кiңдалiраа
 наандунi бүүхэн, мээндүжи запахан, тii амбаан-тама, тii пүзиндү,
 тiтараа вэнчин, "тii, бии нэнийжэ горотi нэнийжэ," вэнчини.
 тii пүзин, тii мүрүмби гасамi тii дэрээзихэн
 тii, геесун-даа тii бии.
 тii зiiмахан ньii-тама холзохонi, холзii-да, тii ньii.
 хооңко порондунi биини. ии, тii бүчин гүрсэл-тама,
 бүчин гүрсэлзи-мэл геесулаханi, тii мэргэн.
 наанi ваактамi тii зэми тii, пүкүмбэни ачуктамi тii,
 кээрэнчини, мээн хагдумбi, хэрээлүм. тiтараа
 тii пүзин тii, тii очинi, тii эдилэи-гүни, тiзi, амбаанзi.
 тiтараа тii бим-дее, тii эдини чуп тii нэнэхэн.
 наанi эчээл эдилээни-гүни, баi, тiду тii биини. эигэни тучаванчинi.
 тii амбаан, наамбанi үлээсии, тэи ээктэвэ. тес үлээсиини.
 тiтараа тучавандаа, там-дее ичэини, хооңко пэзикини

зүүл геули-даа нэнии, ілаан геул-даа нэнии,
 тii нэнии, тii нэнии, хавасі нэниити-нүү хавасі нэниити-нүү.
 тiтараа пүзин тii пулахихані даа хазілаті,
 "анда мэргээсэл хавасі нэниисү-кээ, пүзисэл хавасі нэниисү-кээ."
 тii пүзисэл вэндини, "эи соли, хэзилэ биини," вэндини тii.
 "закпун наму заавули, хүүн наму хүјэни, тiду појоо биини," вэндини.
 "тii појоола агбумпачiiни," вэндини.
 "мэргэн бими-дээ, ларгii мэргэн, наані геуксазі,
 зүкүн нааду агбумпачiiни," вэнчин. ии, вэнчини.
 мэрхэ кiндавані, сигдипүн кiндавані гэлиини," вэнчини.
 тiiбаані нэниипү," паанін зин зин, тii гэии-мэл вэндини.
 тii, тii пүзисэл, тii эигэтүнзэ пүзикээн,
 тiiсал хэчүхэн тii, мүн пүзимбэ запахаал.
 тii нэнэхэти, горо зіза нэнэмээри-дее, ісхаті нааті-така,
 тii ум хооңко дүэдүни очіті, тii оонзомбо хэрэлүм мајака
 чаам очіні. тii мајакаанду-мэл, эгди пүзисэл биини.
 ии тiкі хайрii тii, даа хазілаті
 тiтараа, пүзин ичэзиини, тiла, тii хооңко... тii појоозізі агбунчіні
 наа хазілаті, хай, ум бүүи, бүүи вэндии-дэ хай, геукса,
 бүүи. тii геукса агбунчіні, тii дэрэ ојаатіні, тоомі,
 хаматаанзі хосінчумі њаузака агбунчіні. оңбокіні.
 ээ тiтараа тiiбаані золочіндасураа, хаматаа пүзин кэвэ
 ларгі ларгі пүзисэли, тii њаалиіті,
 тii үнээчиини тii кэвэ, гоі гоі хаалі тэң осіні.
 тii үнээчимээри тii хай-ла, зее, зее нааңгусіні.
 тамдее пүзин зололохон.
 пүзин, мэрхэ кiндавані зололохон үнээчихэни тэңи,
 сигдүхүмбэ зололохон тэңи чупал, бакухані-гүни, мээн асijі.
 тiтараа хай, таванчі тii пүзин тээ мэнэ ісхамба,
 суактама хагдумбаан нэнэрээ тiду бичини.
 тii мэргэнти хаакіні, тii гоі гоі пүзин.
 ларгі ларгі пүзисэлзи, тiзіум њiiзі асілахані, тii мајакаанду.
 хаалі, долбо њээми, ичэини. тii хооңко дүэкээндүни бии
 суактама хагдун нээм долбо чүүм чүүм нээм бии, ихэрэ.
 тiтараа тiiбаані бэихэни, нэнэхэни, горозі нэниини-нүү мэргэни.
 нэнэрээ ичэхэни, тii алдаңкіні гүрпэчихэни, тii нүү,
 наані асіні тес ларгii ээктэ тiду аурiiні. тiла азандіні.
 тii энүүэ кiраадуні ум мама, аумі, тii хагду эзэн мама.
 тiтараа тiiбаані иирээ, тii асijі тii запічіні, асіні лес паатілахані,

олончін, үчэ кiр
 асijі бакухані тi
 тii асілахані тii
 геесулахамбi ч
 мээнтији нэнүхэ
 зололороо зэгд
 тii биини тii нi

олончин, үчэ кираатини түкүндэхэни-дэ. гээ титараа, саазухани.
асији бакухани тii, ларги ээктэвэ бакухани... ии. ии таванчи,
тii асилахани тii, мээн баатiji нэнүхэти.
геесулахамби чупал бујачихани. элээ јэлэ бии. ии,
мээнтији нэнүхэни. тii геесулахамби, њиисалба-даа чупал,
зололороо зэгдихэни, *зэзчигал*. асини-даа ларги, очухани.
тii биини тii нијмаан, јэлэ бии.

8. ум хагду хэүжээ балдахани

наа хазілаті, хэхэрэхэ хэвэндүни, білзака бірандүни,
 хаста хамілані, дүлзүпү-лэ дүилэни, ум хагду хэүжээ балдахани.
 наа хазілаті тii таханзі-гдэл тii-гдэл тiду, бичин
 ум вэчэнзи, ум гааізі-дэ. наа хазілаті гааі тii доочii
 тii доочii вэчэнгүни тii дүжээ калтаа,
 хоол закладуні тii тээси. наа хазілаті тiтараа эси-гдэл,
 гааiнгүни чоонкокі хээпэ хээпэ дэгдээчиини.
 наа хазілаті горо нэнэхэн, зіза нэнэхэн, вэчэнгүни вэндээ,
 "эи, хавасi-каа нэнэхэн," вэндээ, тахан.
 наа хазілаті тiтараа тii вэчэн-гдэл, хамікіні ньээми нэнэчээ.
 наа хазілаті нэнэмдее экэсэл-дээ гэлбэхэти хаіва, түйктэвэ гачіті.
 сахарін түйктэвэ гачіті сахарін мэргэн зэбдэни,
 "сахарін түйктэвэ гадапу-ма," jaajamaari гачіті.
 наа хазілаті тiтараа тii гадараа, гадііл тii наан
 тiва тii ньааламi тii нэнэхэн тii вэчэн.
 наа хазілаті тii нэнэхэни тii нэнэхэни,
 тамдее сээгзэн түйктэвэ гадіті,
 "сээгзэн мэргэн зэбдэни, сээгзэн түйктэвэ гадіпу"-мэл.
 jauzumaari jaajamaari бичити экэсэл, паталасал.
 наа хазілаті таванчі нэнэмдее ум хагду, ум хагдунті иихэти.
 анајее иихэн, чеес хаахахахаха, чеес хаахахаха,
 тii, тii хаі, тii зампан доотіні, зампа. тii зампан доотіні.
 тiтараа тii вэчэн-гдэл, ньаазактајi гэлэзүми, *нет*.
 сахарін мэргэн тii доолані ум, хаізі, пүзинзи, хоохандіні очуха.
 тiтараа тii, тii элээ јэлэ чаалii-ла. јэлэ ходii.

даа хазілаті, ум
 хэчүвэси хэвэндү
 ии, тii доолані н
 даа хазілаті тiду
 даа хазілаті тii х
 тii пүликтii хайкi
 тамдее хаіва, тз
 наа хазілаті, тii б
 ум, үлзэн зэктэвэ
 тзэ тii, асi-там, а
 аmini тii госіліні,
 госіліні-гүни. тiта
 элээ сакта силмэ
 тамдее үи, тii үи
 "кээлэ iндајi сээк
 вэнчиини. наа хэ
 ваараа элээ-дэ ум
 аmini бааді тагдiн
 тii хаймдее гүчи,
 гүчи, тii зэктэ. х
 "сээз энии алда
 тiтараа алдачiхан.
 тiтараа, мээпи ва
 тiсал тii биини-гү
 тiтапi гүчи энүлүр
 эньзэкзэн паусiні
 тii сээксэвэни уму
 даа хазілаті тамд
 тii сээксэвэни уму
 тii сээксэвэни уму
 аmini-даа кээз, эни
 тii мэргэн эмкээ о
 хораазухан. тii зэ
 гүчи энүлүхэни, и
 "зэи-лэ мээс сээк

1994.8.13 Д. Данкан

9. ум хагду балдахан

даа хазілаті, ум хаі, хаавасі хаванду,
хэчүвэси хэвэндү ум хагду балдахан.
ии, тii доолані нүи бичин, оңбохомбі.
даа хазілаті тiду тэң ум нүи, хүсэниикээн бичин.
даа хазілаті тii хүсэни, тii *охоолі*, тii *охоолімі*,
тii пүликтii хаікі-дээ хүм тii пүликтii.
тамдее хаіва, тэээ, асiчу, асi анаані, энчү, амчу-да.
наа хазілаті, тii бимдее тii дүиси *охоотi*ндахандујi,
ум, үлээн ээктэвэ бакахані. Һавза ээктэвэ, пүзимбэ.
тээ тii, асi-там, аміні эүзүхэн. амтi ээвүзүхэни.
аміні тii госіліні, "дүирпэ пүлүми хаі, амба ээктэвэни бакахасі,"
госіліні-гүни. тiтараа тiва тii дэүдээзүмээри, тамдее асiні энүлүхэни.
элээ сакта силмэктэтини иими энсирээ, энсини.
тамдее үи, тii үи-гдэл, тii мэргэн, тii вэндини, асiні, хаіва,
"кээлэ iндајi сээксэвэ, ваараа сээксэвэни мимбэ умуванаруу,"
вэнчини. наа хазілаті тiтараа умуванчини.
ваараа элээ-дэ умуванчини,
аміні бааді тагдii-гүни. тiтараа тii тагдахан-даа хаі тii биини.
тii хаімдее гүчи, элээ сакта силмэктэтини ии... энүлүхэн
гүчи, тii ээктэ. хүмдүхэн тес, тii.
"сэвэ энини алдачуу, сэвэ энини алдачуу," вэндини.
тiтараа алдачiхан. даа хазілаті "син... син меевамбасі гэлиіјэ"-м-дэ.
тiтараа, мээпи ваараа, сээксэји умувандаа. эи хоразухан.
тiiсал тii биини-гүни, тii пэкчээрэм.
тiтапi гүчи энүлүхэндүни гүчи паңсii,
эньээкээн паңсiiні тii, гээ тii эньээкээмбэни ваахан.
тii сээксэвэни умухан. эси бааді үлээн ээктэ очухан, хораазумi.
даа хазілаті тамдее, кэкэнгүни биини, тii кэкэвэ ваахан,
тii сээксэвэни умухан. элчингүэни-дээ ваахан,
тii сээксэвэни умухан, тii чупал, тiду,
аміні-даа кэвэ, энини-дээ кэвэ.
тii мэргэн эмкээ очухані, хораазухан тii мэргэн.
хораазухан. тii ээктэ биі,
гүчи энүлүхэни, ии, гүчи энүлүхэн, эси, "анана," вэндини,
"эси-лэ мээн сээксэји отiтака Һиилирүү," вэндини, "мимби."

ии тii мэргэн мурччум-дее "аис, би, эи гангакуji,
 отiтака нyири-даа аја." гангакуji нyирээ тii сээксэзini,
 аңмаванi ньиилихэни. тii ээктэ хураазухани.
 наан-да мееванзi бүркичиини. тii ээктэ, баатi ньээзүрээ, кэвэ.
 тiду јэдү гiраучини, ньээзүми-дэ. тii мэргэн ичээзini
 тii үилэни, дүктэвү, туама дүктэвү биини.
 тiва сэлчэмдее түгбүхэни. түгбүхэн, тii доолани орхуда биини,
 тiзi октихани џаалајi. хураазухан. тii ээктэ ньээзүидүјi тii вэндини,
 "анда мэргэн, хаi, энзи сэктэпүлэрээ мин амзi
 пулталараа, кээлэ iндэзi," тii мэргэн бүдиини упамi, кэкчиини-гүни.
 "кээлэ iндэзi элзэпүлэрээ, тii үизи, тii амзi сэк... пулталараа,
 энзи сэктэпүлэрээ таву"-ам вэнчин. "тii кээлэ iндэзi элзэпүлэрээ,
 кэкэнгүзијi лаузилиi, элчингүзијi лаузилиi, таву"-ам вэнчини.
 ии мэргэн тii, досозомi хэмэ бичини. бүркичи-мээчи-лэ, тама,
 тii ээктэ, јаама, јаама. тii ээктэ, үчэвэ кэн сомумi тii чупи,
 ии тii хамилани амби эмби тii тii нээктэхэни ум бааду-да,
 кэкэнгүјi, iндаңгујi. тiтараа баргазiраа тii хамикини тii нэнэхэни.
 тii моолчii поктотi нэнэхэни. мээн моолчii поктотi
 нэнэрээ, таванчi ичини, ваис-нака тii тii ээктэ поктонi.
 тii ваис биивэни тii хасамi эүм-дее,
 хаитi, бүчини хүмүсэлтини тоохон.
 нэнэхэн эүхэн, нii гасанi тiду. ичэми, тiiбаан ичэрээ,
 тii џаазактанi бис-кэ, бүчини, тii хүмүхэни.
 ее тii, тii ээктэни-тэн тоочаа, сонгомi тоохонi,
 џаазактајi мүэвэ хүэлзүини-нүү хайриини-нүү-да.
 лотом тii үи-гдэл, тii мэргэн тii вэндини,
 "тээ, мимбэ үлээси осинi, хаiва, күүмби чаалiраа, зололоруу,"
 вэндини, "аанзi күүмби." ии, ии, тii џавзаканi-гдэл тii хаi,
 тii баi баланаа нii тii тii хүмиини-гүни,
 тii тii, отiтака, хаizi, типэ-дээ кэвэ, хаi-даа кэвэ, тii-пэкии вэнди.
 тii, наан џаазактанi күчээмбэни запараа бүүхэни. тiки зололохонi.
 тiтараа тiзi тii ээктэ элэдээ күүмби кэрүс чаалихани,
 кэрүс чаалихани. тээ хоон, хаizила-ка,
 эрис эрис эрис, энсини эүзүхэни.
 мэргэн-дээ тiки ньээзүми хамикини нэнэхэни,
 наканду тоокумi акпандидунi зiң тii күүмбэни запулсумi вааханi,
 тii ээктэвэ. тii ваараа, тii ээктэвэ ваараа тii зэгдэрээ џаалаханi,
 хаiбаан нэнүхэни, мээнбээн. аминi энини, чупал хораазухани.
 тii би, элэни.

бэбэбэбэ, энэ
 акпан-дуруу бэб
 бэбэ, бэбэбэбэ
 түргэнди үрэвү
 бэбэбэбэни бэб
 энэзэвэ амаава
 зэлүчилээни-кэ б
 бэбэлзүлмээри
 сугдатава ваази
 дүмси очүлү бэб
 нэлүлтэвэ ваази
 бэбэбэбэни бэбэ
 үлгэнди дуруу б

1994.8.23 Н. В. Мунина

10. бэбэбэбэи

бэбэбэбэи, энээ пиктэни бэбэбэбэбэи,
акпанзуруу бэбэбэбэи, эзи соңго
бэбэи, бэбээкээни бэбэбэи, үлээнзи ауми бэбэбэбэбэи,
түргэнзи үрэвү бэбэи,
бэбээкээни бэбэбэи, дааји опи бэбэбэбэи,
энээвэ амаава бэбэбэбээкээни бэбэи,
зэпүчилэси-мэ бэбэбэбэи, бэбээкээни бэбэи,
бэбэлээзүмээри бэбэбэи, ваісі очупі бэбэбэбэи,
сугдатава ваазіласі бэбэи, бэбээкээни бэбэбэи,
дүиси очупі бэбэбэбэи,
нэпүлтэвэ ваазіласі бэбэи, бүјүмбэ ваазіласі бэбэи,
бэбээкээни бэбэбэбэи, бэбэлээзүмээри бэбэи,
үлээнзи ауруу бэбэи,эзи соңго бэбэбэи.

Содержание

1. В одном доме жили дедушка и бабушка

В одном доме жили дедушка и бабушка. Дедушка охотился в горах и рыбачил в реке. Бабушка делала юолу. У них был много запасов ягоды и мяса. Однажды они увидели, как по верховью реки плывет лодка. В лодке сидели молодая женщина и мальчик. Дедушка и бабушка взяли их к себе жить. Они накормили их досыта. Женщина сказала, что у ее мужа много жен и она с мальчиком ночью убежала, так как другие жены мужа ее мучили. Дедушка и бабушка относились к ним, как к своим детям. Мальчик вырос и начал добывать белку и зайца. Когда дедушка состарился, мальчик стал добывать много зверей и рыб. Мать его тоже стала там жить. Она шила и собирала ягоды. Все.

2. На одной сопке стоял плохой дом

На одной сопке стоял плохой дом. Там жила одна очень грязная женщина в грязной одежде. Вокруг ее дома не было ни одного дома и ни одного дерева. Одни только пни березы да кочки. Однажды зимой по замерзшему морю приехал очень красивый Мэргэн на нарте. Он приехал свататься к женщине. Женщина дала согласие, и мужчина увез ее на нарте в свое село. Она взяла с собой только сумочку для рукоделия. Село, где жил мужчина, было очень большое, дом его тоже был очень большой, и у него было много рабов. Мужчина одел женщину красиво, накормил ее, и заставил ее жить в середине дома. У мужчины было девять жен, а эта женщина стала его десятой женой. Утром, когда мужчина уехал на охоту, другие жены стали ее мучить. Однажды мужчина заставил жен сшить торбаза из рыбьей кожи. Другие жены все были не только красивые, но и умели хорошо разделывать рыбью кожу, и умели хорошо шить. А эта женщина раньше редко шила, поэтому ей пришлось разделывать рыбью кожу и шить, подражая другим женам. Все жены хорошо сшили торбаза из рыбьей кожи, кроме одной новой жены. Сшиты торбаза были криво, а размер правого и левого торбазов был разный. Мужчина посмотрел как она сшила, но умолчал и лег с ней спать. Утром он обулся в торбаза, которые она сшила. На другой день мужчина заставил ее сшить рукавицы. В этот раз и рукавицы были плохо сделаны. Мужчина и в этот раз не стал ничего говорить, одел ее

рукавицы и уехал, когда муж уехал, взяв с собой толпу, приехал домой, и Он доехал до того там большой гор красивый дом и сказал: «Хозяйка из той стороны м жену назад. Жен сказала: «Однажды односельчан. Он Превратили ее в вятхую хижину. богатый и хороший односельчане стали женщины несколько вместе с ним на его своей земле, где приходилось впр жить там и тут. В

3. Одна легенда

Я рассказываю о верховье Амура. плыли вниз на д вниз. Прибыли о стали там остана было большое сел Киди, но и там н озеро Када, где с домов. Старейши на острове озер время, и однажды там существовал селение. Там же этого селения п вместе на охоту, этого селения с «Соединения дву

рукавицы и уехал. Другие жены еще хуже стали ее мучить. Однажды, когда муж уехал, женщина оделась в свою грязную одежду и ушла взяв с собой только одну сумочку для рукоделия. Вечером мужчина приехал домой, и узнав что она уехала, поехал на нарте ее догонять. Он доехал до той стороны, где раньше жила женщина, и увидел там большой город. Мужчина увидел в середине города самый красивый дом и решил туда зайти. Вдруг слуга, который был дома сказал: «Хозяйка моя запрещает пускать человека, который приехал из той стороны моря». Мужчина сказал, что он приехал, увезти свою жену назад. Жена вышла из дома. Она стала красивой Пудин. Она сказала: «Однажды приехали враги отца и убили его и всех наших односельчан. Они превратили целое село в пни березы и кочки. Превратили ее в плохую и грязную женщину, а ее дом в грязную вятхую хижину. Потом неприятели сказали: – Только тогда, когда богатый и хороший мужчина женится на тебе, село, и ты и все твои односельчане станут такими, как и раньше». Мужчина ночевал у женщины несколько дней. Потом сказал жене, чтобы она уехала вместе с ним на его Землю. А женщина ответила, что она остается на своей земле, где жили ее предки. В конце концов мужчине приходилось впредь ездить с одного берега моря на другой, чтобы жить там и тут. Все.

3. Одна легенда

Я расскажу одну легенду. Мой дед жил на горе далеко в верховье Амура. Однажды дед с нашими родными ушли оттуда. Они плыли вниз на двух лодках. Они выплыли на Амур и дальше плыли вниз. Прибыли они на то, место, где сейчас стоит Хабаровск, но не стали там останавливаться а поплыли дальше вниз, так как там уже было большое село. Приплыли они на место, где сегодняшнее озеро Киди, но и там не остановились, а поплыли дальше. Приплыли на озеро Када, где сегодня живут Ульчи. Там местами стояло несколько домов. Старейшине понравилось это место и он построил землянку на острове озеро Када. Стали они там жить. Прошло некоторое время, и однажды к ним пришел один старик из селения, которое там существовало с давних пор. Старик взял их с собой в свое селение. Там земля была богатая с хорошими деревьями. Люди этого селения помогли им построить хороший дом. Они ходили вместе на охоту, и вместе добывали зверей. Наши родные и люди этого селения справили вместе праздник. Они совершили обряд «Соединения двух Огней», и поклялись в родстве.

Был брат моего отца, дядя Амба. Они с нашими родными в пятером ходили в лес на охоту. Однажды им пришлось остаться на ночлег в лесу. Мой дядя вышел из лесного домика на улицу справить нужду. Когда он сидел и справлял нужду, земля вдруг с травой сдвинулась на два метра. Он вырвал эту траву и спрятал в грудной карман. Он пришел домой, но не стал никому рассказывать про случившееся. Однажды он запряг пять собак на нарту и поехал. Когда он погладил собаку по голове той травой, собака залаяла и потянула нарту еще сильнее и быстрее. Он приехал домой и рассказал родителям: «Я увидел сон, в котором Бог Земли дал мне магическую травку "Ходон"».

Однажды люди селения состязались в гонках на нартах до далекого утеса. Дядя тоже запряг пять собак и решил участвовать в гонках. Он хотел довести блюдо из варенной кетовой кожи в полотне своей сестре, которая жила на утесе. На других нартах собак было больше и они один за другим побежали далеко вперед. После того как последняя нарта обогнала дядину, он остановил собак. После того как дядя погладил пятерых своих собак по голове и ногам, собаки побежали так быстро, что дядя обогнал все нарты и приехал к утесу первым. Приехал он к сестре и когда открыл плотно, блюдо было еще горячим и из него еще шел пар.

Так наши родные зажили хорошо. Но сейчас из наших родных остался лишь я один.

4. Жили-были муж и жена с мальчиком

Жили-были муж и жена с мальчиком в одном доме, в одном маленьком селе. Мальчик стал охотиться с отцом. Однажды они вдвоем пошли на охоту и устроились ночевать в домике в лесу. Отец увидел такой сон: появился тигр, и под угрозой того, что он их обоих съест, заставил отца, оставить сына одного в лесу. Утром отец встал, огорченно задумался, и тайком от сына один ушел домой. Пришел домой, его встретила жена. Он объяснил, почему пришел без сына. Жена горько заплакала.

Сын проснулся, и видит, что отца нет. Он искал отца на улице, но его нигде не было. Вошел в домик, попил чаю и опять вышел. Вдруг он увидел под деревьями тигра. Мальчик вскарабкался на дерево, а тигр погнался за ним, и начал ломая ветки взбираться на дерево. Но вдруг тигр зацепился так крепко за ветки дерева, что не смог сдвинуться. Мальчик воспользовавшись этим, спустился по другой ветке вниз и убежал к домику. Попил чаю и уснул. Он увидел

сон, где тигр по
дереву и нача
удалось срубить
мальчик ночью
утром он расста
сделал все так
много соболей.

Отец зах
увидел, как из д
что с ним прои
шкурку на нарт
живого сына! За

5. Медведь

Медведь
играет плеская
никак его пойм
ты выпей всю во
его съедим». М
медведь не мог
лиса обманула

6. Жили-были б

Жили-бы
охотником. А е
грязную одежд
брат пришел
причесаны. Бра
Сестра расска
рассказала, как
рассказам сестр
стали приходи
охоту, а спрят
шкурки и вош
Лебеди-сестры
мне мою лебед
жениться на м
вернул ей шкур
пришел к дыре

сон, где тигр попросил его о помощи. Мальчик встал, пошел к тому дереву и начал рубить его топором. Вечером наконец-то ему удалось срубить дерево. Тигр посмотрел на него и ушел в лес. Когда мальчик ночью спал, тигр опять появился во сне. Тигр сказал, чтобы утром он расставил много самострелов. Мальчик проснувшись утром сделал все так, как ему велел тигр. В ловушках потом попало много соболей.

Отец захотел, собрать хотя бы кости сына. Он пошел в лес, и увидел, как из дома шел дым. Сын был живой! Мальчик рассказал все, что с ним произошло. Отец с сыном погрузили много соболиных шкур на нарту и поехали домой. Мать очень обрадовалась увидев живого сына! Зажили все хорошо. Все.

5. Медведь

Медведь пил воду в заливе. Вдруг он увидел, как один карась играет плескаясь в воде. Медведь погнался за ним, но не смог никак его поймать. Тут пришла к нему лиса и сказала: «Медведь, ты выпей всю воду этого залива, а я поймаю карася. Потом мы вместе его съедем». Медведь выпил всю воду. Брюхо стало полным и медведь не мог двигаться. Лиса поймала карася и убежала в лес. Так лиса обманула медведя.

6. Жили-были брат и сестра

Жили-были брат и сестра. Старший брат был умелым охотником. А его младшая сестра была худая-прихудая, носила грязную одежду, а волосы ее были всегда растрепанные. Однажды брат пришел домой и увидел что у сестры волосы красиво причесаны. Брат спросил, почему она сегодня такая опрятная. Сестра рассказала, что днем к ней прилетали девять лебедей. Она рассказала, как лебеди сняли свои шкуры и стали людьми. По рассказам сестры это они помыли и причесали ее волосы. Лебеди стали приходить к ней каждый день. Однажды брат не пошел на охоту, а спрятался в близи дома. Прилетели лебеди, сняли свои шкуры и вошли в дом. Брат взял шкуру младшей лебеди. Лебеди-сестры все улетели. Младшая девушка сказала: «Верните мне мою лебединую шкуру! Я – небесный человек. Если вы хотите жениться на мне, приходите на Небо, к моему отцу.» Мужчина вернул ей шкуру. Девушка улетела. Мужчина долго путешествовал и пришел к дыре в небе, которая связывает Землю с Верхним Миром.

Так как там стояли сторожа, мужчина превратился в муху и полетел. Прилетел к дому отца девушки, превратился в человека и вошел в дом. Мужчина рассказал отцу девушки о своем желании. Отец дал мужчине задание. «Сейчас я выброшу на землю мешок чумизи. Собери все зерна, пока я докурю трубку.» Мужчина обратился к небу: «Предки мои, отправьте сто куриц с неба!» Небесные курицы все зерна склевали. Так мужчина выполнил задание. На следующий день отец дал мужчине следующее задание. «В середине далекого моря стоит толстое дерево. Достань мне сердце кошки, которая сидит на том дереве.» Мужчина долго ехал и приехал к далекому морю. Там был большой морж. Мужчина попросил моржа, чтобы он выпил всю морскую воду. Морж всю воду выпил. Мужчина быстро подбежал к дереву. Поднялся на дерево и нашел дупло. Вошел в дупло и увидел кошку. Он поймал кошку и вынул из нее сердце. Потом быстро побежал назад к берегу, где ждал его морж. Морж выплюнул всю морскую воду обратно. Мужчина вернулся к отцу девушки. Отец девушки признал свой проигрыш и разрешил мужчине жениться на дочери. Отец усадил дочь с женихом в корыто и дал им железную коробку. Они ехали на корыте как на нарте. Приехали к дому мужчины. Мужчина пнул вокруг дома – и что вы думаете! Перед ними появился большой город! Потом он пнул ногой свой дом, и дом стал большим. Открыл железную коробку, а оттуда появились разные кушанья и сами накрылись на стол. Мужчина открывал коробку всегда, когда хотел есть. Еда всегда появлялась из коробки. Так они зажили счастливо и богато. Все

7. Жили-были две сестры

Жили-были две сестры. Они охотились как мужчины. Однажды старшая сестра одна пошла на охоту, так как младшая не захотела. Когда старшей сестры не было дома, два брата пришли в гости. Младшая сестра ничего не приготовила для них. Старшая сестра пришла домой, приготовила еды и накормила гостей. Старшая сестра вышла замуж за старшего брата и уехала наутро к дому мужа. А младшая сестра продолжала спать. Младший брат так и не смог на ней жениться и ушел домой. Девушка спала несколько дней, потом встала и убралась в доме. Когда вечером девушка спала, кто-то пришел и хотел напасть на нее, но пришедший по следам нападавшего, младший брат, который приходил в гости, убил нападавшего и ушел. Девушка зажгла огонь, посмотрела вокруг и увидела следы крови на земле. Девушка

собралась и пошла к
одного дома. В
от дома девуш
сказала: «На ут
делает стружки
ограда.» Младш
никого нет. В
Девушка зажгла
домой дьявол-м
Девушка сварил
целиком. Мужч
переломила на
Мужчина уехал.
девушка увидела
Спросила у жени
море, где бурлил
нерпой. Он ищет
попросила жени
девушка попл
раскидано много
сидящий верхом
никакая часть гр
девушка бросила
кусочками, котор
палатке, несмот
Мэргэн зашел и
испугалась и уд
Девушка просну
поженились, при
Мужчина уже не
костей. После че

8. Жили в одном
Жили в о
улетела куда-то
возвращалась д
собиравших кра
черную бруснику
еще дальше, вид
пелис: «Давайте с

собралась и пошла по следам крови. Следы крови привели ее до одного дома. В этом доме дрались много людей. И вдруг недалеко от дома девушка увидела, как ее сестра кормит собаку. Сестра сказала: «На утесе в верховье реки живет дьявол. Он ест людей, делает стружки из людских костей, а из этих стружек сделана его ограда.» Младшая сестра пошла к дому на утесе. Вошла в дом, а там никого нет. Внутри дома она увидела одни мужские орудия. Девушка зажгла огонь, и со страхом начала ждать. Вскоре пришел домой дьявол-мужчина с человеком и косулей в виде добычи. Девушка сварила человека, а дьявол-мужчина съел человека целиком. Мужчина сказал, что он уезжает далеко. Девушка переломила на двое свой гребень и отдала половину мужчине. Мужчина уехал. Девушка долго жила одна в доме на утесе. Однажды девушка увидела, что под утесом внизу плавает много лодок. Спросила у женщин на лодках. Женщины сказали: «В верховье на море, где бурлит вода, несколько раз появлялся красивый Мэргэн с нерпой. Он ищет вторую половину разломанного гребня.» Девушка попросила женщин, чтобы они взяли ее на лодку. Женщины и девушка поплыли туда на берег моря. Там на бухте было раскидано много палаток женщин. Вдруг с моря появился мужчина, сидящий верхом на нерпе. Женщины бросали свои гребни, но никакая часть гребня не совпадает с частью гребня Мэргэна. А та девушка бросила два кусочка гребня, которые точь в точь совпали с кусочками, которые были у Мэргэна. Когда девушка ночью спала в палатке, несмотря на ночь, только ее палатка сияла ярким светом. Мэргэн зашел к ней и хотел схватить ее, как вдруг девушка испугалась и ударила его так сильно, что он отлетел к двери. Девушка проснулась, и заметила что это был Мэргэн. Так они поженились, приехали домой на утес, где Мэргэн раньше жил. Мужчина уже не был дьяволом. Он сжег все стружки из людских костей. После чего они зажили счастливо. Все.

8. Жили в одном доме щенок и ворона

Жили в одном доме щенок и ворона. Однажды ворона улетела куда-то. Щенок покинул дом, так как ворона не возвращалась домой. Шел щенок шел и увидел, женщин, собиравших красную бруснику. Женщины пели: «Давайте соберем черную бруснику, чтобы его скушал черный Мэргэн.» Пошел щенок еще дальше, видит, опять женщины собирают бруснику. Женщины пели: «Давайте соберем красную бруснику, чтобы красный Мэргэн

их съел.» Шел щенок дальше и увидел один дом. Он вошел в дом. Там весело жил черный Мэргэн с женщиной. (Незаконченно)

9. Жил один мальчик с родителями

Давным-давно жил один мальчик с родителями. Он вырос и стал охотиться. Однажды парень нашел красивую девушку в лесу и привез ее домой. Отец сказал: «Ты ходил по лесу и нашел дьяволицу.» Однажды девушка заболела. Она попросила парня, чтобы он убил собаку и напоил ее кровью собаки. Парень сделал все так, как девушка ему велела. Девушка поправилась. Вскоре она снова заболела. Парень убил отца и напоил ее кровью отца. Каждый раз, когда она заболевала, он убивал кого-нибудь. Так он по очереди убил свою мать, потом раба, и напоил девушку их кровью. Девушка наконец потребовала крови парня. Парень порезал свой мизинец и напоил ее своей кровью. Девушка сказала: «Сделай постель из тела матери, сделай одеяло из тела отца, заставь рабов служить.» Так сказав девушка ушла. Парень вылечил свою рану женьшенем. Тела родителей и других он собрал в одном месте, и пошел по следам девушки. На берегу реки было село. Он нашел девушку, стоявшую на сельской могиле. Парень сказал: «Если ты любишь меня, отрежь свою правую грудь и отдай мне.» Парень бросил ей нож. Девушка отрезала свою грудь и убежала в дом. Парень погнался за девушкой, вошел в дом, убил ее и сжег. Когда он вернулся к себе домой, он нашел родителей ожившими. Все.

Summary

1. There lived an old husband and old wife

There lived an old husband and old wife in a house. The husband would catch animals in the woods and fish in the river. The wife made dry food from the fish he caught. They had a plenty of berry and animal meat, too. One day there came a canoe up from the river. On the canoe were a young lady and a little boy. The old husband and wife took them home and gave them a big meal. The young lady said that her husband has many wives, and these wives are so hard on her that she decided to run away in the middle of the night. The old husband and wife decided to adopt them as their stepchildren. The little boy grew up, and came to learn to catch squirrels and rabbits. He then learned to catch bigger animals and fish as the old husband got old. The young mother learned to do sewing and berry gathering.

2. There was a rickety hut on the hill

There was a rickety hut on the hill. This hut was leaning on one side. In the hut an ugly lady, wearing an ugly cloths, was living alone. Around the hut there is no single house, or even no single tree at all. The only thing that was around the hut was a stub of a white birch and a nigger head. One day in winter, there came a beautiful mergen on a big sledge from the other side of the frozen sea. The mergen asked the woman to be his wife. She went to his village, with her sewing basket alone. The village was large, and so was his house, where there were many slaves. The mergen gave her a beautiful cloths and a big meal, and let her live in the middle of his house. He already had nine other wives, and the ugly woman was to be his tenth wife. As he went out for hunting in the morning, the nine wives started to deal roughly with her. One day the mergen told the wives to sew a pair of shoes from fish skin. The nine wives were very good at working on such a task, and they were beautiful wives, while the ugly wife was not used to such a job. She just tried to follow the nine wives' way to do that. The nine wives made beautiful fish skin shoes, while the ugly wife ended up with making a pair of shoes which were different in shape, ugly, and crooked. The mergen knew it, but he slept with her. The next morning he went out wearing on the shoes that she made. A few days later, he ordered the wives to make a pair of glove. It turned out again that only the ugly wife was clumsy. The next morning he went out wearing on the shoes that she made. The nine wives started to be harder on her. One day, after the mergen went out, she eventually ran away with her dirty cloths that she used to wear, and with her sewing basket. When he came back in the evening, he found that his ugly wife had run away, so he searched for her on the dog sledge. As he went over the sea to the other side where she used to live, it had become a very big city. As he went into the most wealth house in the city a slave approached him and said "the master told me not to let enter those who are from the other side of the sea". The mergen told him that he came here to take his wife back. Then his wife appeared. She

was now a beautiful pujan. As she went, "Long ago there came enemies of my father, and they killed my father and his company. The enemy even changed everything in the village into white birches and nigger heads. They turned me into an ugly woman, and they turned my house into a dirty hut. They said that if some wealthy man came to make you a wife, everything would be back to the way it was." The mergen stayed with her for a while, and asked her to go back to his place with him. She said she would stay here in the ancestral acre. Since then the mergen would visit her place.

3. A legend

I will talk about a legend. My grandfather lived in the mountain, far up the stream of the Amur River. One day his clan left their native land, and went down the river on two boats that they made. They came down to the main stream of the Amur River, and they kept on going down to the downstream. They came as far as what we now call Khabarovsk, but it was such a big village that they went on searching for another place in the downstream. They went on going when they reached what is now called the lake Kidi. In so doing they came to the lake Kada where Ulithi live now. There were several small villages there. The head of the clan liked that place, so that they made half-basement houses on Ulithi Island. In the meantime an old man came to our clan's place from one of the villages. He took them to their village, where the soil was fertile and there were many good trees for wood. The people there helped my grandfather's clan build their great home. They went for hunting together. They performed the ritual by which they pledged to become members of one lineage. My father's elder brother, that is, my uncle, was called Amba. With four company including my grandfather he was walking in the woods. When they settled in some place Amba went into the bush for a pee. Sitting outside he saw the land and the grass on it slide two meters or so. He picked out a grass and put it in his pocket. He kept silent about it, and went down to the camp. One day he went out on a sledge with five dogs. As he stroked the dog's head, the dog barked, and as soon as he got on the sledge the dog started to run with such a high speed. As he came back home he talked to his parents about what happened. As he went "I had a dream where the god of earth gave me a magical grass called xodon". One day people in the village gathered to do the dog sledge racing. Amba joined, too, with his five dogs. He decided to bring his sisiter who was living near the cliff a boiled salmon skin in a piece of canvas. Other participants had many dogs, so he was left alone behind at first. When his sledge became the rear of the sledges, he stopped his sledge, and took the grass out, and stroked the head of all the dogs. Then his sledge started to run so fast that it went past all the other sledges, and eventually stood at the forefront, arriving at the cliff first. He came to his sister's house, opened the canvas, and found it still hot enough to give off steam. My ancestors lived a good life as was told here. But now I am the only member of the lineage.

4. There lived an old

In a house in a small
little son. The little
sleeping in a hut, the
here and go away, or I
the dream of the last
from the woods. When
son was not there. She
the hut, found his father
hut, drank tea, and went
to escape, but the tiger
tiger got stuck with two
the hut. He drank tea
asked him for a help. He
it down until he finally
woods. As he slept at
next morning, set as a
many black marten with
bones, but he could see
talked to him about what
skins on the sledge. The

5. There was a bear

There was a bear
jumping from the surface
the carp ran away here
to drink up all the water
The bear followed his
more. The fox caught it

6. There lived a elder

There lived a elder
sister wore dirty clothes
sister's hair well combed
changed into human-like
everyday. One day the
link behind. When the
behind and took off the
youngest female swan

4. There lived an old couple of husband and his wife, with their little son

In a house in a small village there lived an old couple of husband and his wife, with their little son. The little son came to go hunting with his old father. One day while they were sleeping in a hut, the father had a dream, where a tiger appeared and told him "leave your son here and go away, or I will eat both of you." The next morning he woke up and thought about the dream of the last night, and decided in distress to leave his son in the hut and go down from the woods. When he came down to his village his wife was there, and she found that her son was not there. She cried when she knew what happened. Now the son, waking up alone in the hut, found his father nowhere. He went out to look for him in vain. He came back in the hut, drank tea, and went out again, when a tiger appeared behind the bush. He ran up the tree to escape, but the tiger tried to follow him mowing down branches of the tree. Fortunately the tiger got stuck with two branches. The son went down from another branch, and ran away to the hut. He drank tea and went to sleep. He then had a dream where the tiger appeared and asked him for a help. The next morning he woke up and went out to the tree, and tried to chop it down until he finally made it in the evening. The tiger gazed at him, and went into the woods. As he slept at night the tiger appeared in his dream again and said "when you get up next morning, set as many automatic bows as you can". He did as the tiger said, and he got many black marten with the trap. The old father went up in the woods just to take his son's bones, but he could see smoke from the hut, which indicated his son was alive there. The son talked to him about what had happened during his absence. They went home with a plenty of skins on the sledge. The old mother was very glad. They lived a happy life.

5. There was a bear

There was a bear which was drinking water in an armlet. The bear saw a crucian carp jumping from the surface many times. The bear chased the carp, but it was so hard because the carp ran away here and there. Then a fox appeared and told the bear, "Hey, you only have to drink up all the water in this armlet, and I will catch the carp for you. Then let us share it". The bear followed his suggestion and drank up all the water, until he could not move any more. The fox caught the carp and went into the woods. The fox deceived the bear.

6. There lived a elder brother and younger sister

There lived a elder brother and younger sister. The brother was a good fisherman. The sister wore dirty cloths, and her hair was ugly. One day the brother got home to see his sister's hair well combed. He asked why and she said that nine swans appeared in the daytime, changed into human-like, and washed and combed my body. Since then the swans came everyday. One day the brother decided not to go out for hunting, but to stay in the house to hide behind. When the swans appeared and took off the feather, the brother showed up from behind and took off the feather of the youngest swan. The other swans fled away. The youngest female swan said "Please give me back the feather, I am a human in the world

above. If you wish to marry me, please come to my father's place up there". The brother gave it back to her, and she fled away. After a long travel he finally came to the hole through which to go to the above world. There were guards around there, so he became a fly to go through the hole. Arriving at her father's house he became a human again, and went in the house. He talked to her father about what happened to him and her, so her father told him "I'll disperse chestnuts on the ground now. Take all the chestnuts by the time I finish smoking with this cigar pipe". He called out to the sky, "My ancestors, let there be hundred chickens from above!" The chickens ate up all the chestnuts on the ground and he fulfilled the first task. Next day the father gave him the next task: "There is a thick tree in the middle of the sea which is far from here. Go and get the heart of the cat sitting on the top of the tree". The brother succeeded in getting there after a long travel. There was a big walrus there. He asked the walrus to drink up all the water of the sea. The walrus did it as he asked. He ran to the tree, and found a hollow where there was a cat. He killed the cat to take its heart out. Then he went back to the walrus, to let it pour out the water of the sea. He went back to the father's place. The father admitted that he could marry his daughter. The father made them sit on a tub, and gave them a steel box. It could be used like a sledge, and the bride and groom went home on the steel box. The man kicked around the house, and there came up a big town around the house. He kicked on the house, and it became a bigger house. When he opened the steel box, he found a plenty of food in it, and they came out of the box to be set on the table. Whenever they wished, food came out from it. They became rich and lived a happy life.

7. There lived sisters

There lived sisters. They would hunt like men. One day the younger sister refused to go hunting, so the elder sister went hunting alone. During the absence of the elder sister, two brothers visited their house. But the younger sister did not welcome them, lying on the bed. The elder sister came back, and she prepared food and welcomed the two brothers. She got married to the elder brother, and left for the brother's house. The younger sister was just lying, and the younger brother could not make her a wife and went home. After sleeping for several days, she finally got up and tidied up. In the night while she was sleeping someone attacked her. The younger brother, who was here to follow the suspicious man, killed him with a knife, and went out. She woke up and lit up with fire, and found that there was a line of blood on the ground, leading somewhere. She prepared herself and got out to follow the line, which lead to a house. In that house there were many men quarreling with each other. Beside them she found her elder sister feeding a dog. The elder sister said to her "In the upstream there is a monster, who eats people, makes knives of their bones, and put them like a wall". The younger sister decided to go there. There was no one in the house in the upstream. There were only tools that the monster man must have had. She waited for him though she was so afraid. In the meantime the monster man came back with a man and a roe deer. She cooked them, and the man ate them up. The man told her that he would depart for somewhere very far from

here, and left her for the
She lived in the house of
She asked the ladies of
place where water comes
mergen is looking for the
gulf of the sea there was
with the seal. The woman
When she threw her body
alone, when some light
was so astonished that
finally came to her senses
came back to the house
He threw away all the bones

8. There lived a little dog

There lived a little
ceiling window. The little
there were women who
black mergen". As he was
the red mergen". He was
house there was a black
(suspended).

9. There was a son with

There was a son with
beautiful woman in the
a monster woman in the
asked him to kill a dog
sick again after a while
time she got sick from
her drink their blood. I
drink the blood. She said
ding as a guide, and em
Korean ginseng. He put
was a village along the
"If you love me, cut your
be asked, and ran to a
home again, his parents

here, and left her for the place. She broke her comb and gave him a part of it. The man left. She lived in the house on the cliff alone. One day she saw many canoes going down the river. She asked the ladies on the canoes where they were going, and they said "In the sea there is a place where water comes up, and from there appeared mergen with a seal several times. The mergen is looking for two broken combs". She joined them and went down to the sea. In the gulf of the sea there were many white tents of them. From inside the sea the man appeared with the seal. The women threw their combs, but none of them fit the broken combs of his. When she threw her broken combs, they fit his ones. She came back to her place and slept alone, when some light came up around her. The mergen appeared there and caught her. She was so astonished that she hit him, so the mergen was made to fall around the door. She finally came to her sense and realized that it was him. Then they got married, and the mergen came back to the house on the cliff where he used to live. He was now no longer a monster. He threw away all the bones of his victims. They lived a happy life.

8. There lived a little dog and a crow in a house

There lived a little dog and a crow in a house. One day the crow flew away from the ceiling window. The little dog also went out because his friend did not come back. As he went, there were women who were gathering berry, singing like "Let's gather black berry for the black mergen". As he went further, he found other women singing "Let's gather red berry for the red mergen". He went further, and found there was a house, which he went in. In the house there was a black mergen living with a woman and laughing. The story ends here (suspended).

9. There was a son with his parents

There was a son with his parents. He grew up and learned to go hunting. He found a beautiful woman in the woods, and got him back to his house. His father said "You've found a monster woman in the woods, haven't you?" In the meantime she got sick. The woman asked him to kill a dog and let her drink the blood of it. She got well when he did. She got sick again after a while. The man killed his father, and let her drink the blood of him. Each time she got sick from then on, he killed his mother, a female slave, and a male slave, and let her drink their blood. Finally she came to want his blood. He cut his little finger to let her drink the blood. She said "Use your mother as a bed, use your father as a blanket, use your dog as a guide, and employ a slave." She left him with this word. He cured his finger with Korean ginseng. He put his parents' body together, and went to search for the woman. There was a village along the riverside, where he found the woman in the cemetery. He said to her "If you love me, cut your right bust and throw it to me!", and he gave her a knife. She did as he asked, and ran to a house. He chased her, and killed and burned her. When he got back home again, his parents became alive again.

要約

1. 一軒の家におじいさんとおばあさんとが二人きりでいた

一軒の家におじいさんとおばあさんが住んでいた。おじいさんは山で獣を獲り、川で魚を捕っていた。おばあさんは魚で干物を作っていた。二人にはベリーや獣肉の貯えもたくさんあった。ある時上流から一艘の舟が流れて来た。舟には一人の若い女と一人の男の子が乗っていた。老夫婦は二人を家に連れてきて、食事を腹一杯に食べさせた。女が言うには、自分の夫にはたくさんの妻がいて、彼らがいじめるので夜中に逃げてきたのだという。老夫婦は二人を自分らの子供として引き取ることにした。男の子は成長し、リスやウサギを獲り始めた。おじいさんが老いると獣や魚をたくさん獲るようになった。母親の女も縫い物をし、ベリーを集めたりして暮らした。終わり。

2. ある女がいた

ある丘の上に、粗末な小屋が傾いて建っていた。そこにはひどく汚い女が、ひどく汚い服を着て一人きりで暮らしていた。その周りには、一軒の家も一本の木さえも無い。ただ白樺の木の切り株と谷地坊主だけがある。ある時冬に、海の向こう岸から凍った海の上を犬ぞりに乗って一人の美しいムルグンがやって来た。男は女に自分の妻になるよう求めた。女は裁縫袋のみを持って、男のぞりに乗って男の村へ行った。男の村はとても大きく、男の家もとても大きく、奴隷もたくさんいた。男は女に美しい服を着せ、おいしい物を食べさせ、家の真ん中に住ませた。男にはすでに九人の妻がいて、女は十人目だった。朝男が狩りにでかけると九人の妻たちは女をいじめた。男はある時、妻たちに魚皮の靴を縫うように命じた。九人の妻たちは皆美しく、魚皮の加工も、裁縫も上手である。一方女はあまり縫い物をしたこともなく、見よう見まねで加工し、縫った。皆美しい魚皮靴を縫ったが、女の縫った靴だけは左右で大きさが違い、汚くて曲がっていた。男はそれを見たが、黙ってその女と寝た。翌朝男は女の作った靴を履いてでかけた。数日後男は手袋を作るように命じた。やはり女の作った手袋だけが、汚くてひどいできた。男はやはり黙って翌日その手袋を身につけてでかけた。九人の妻たちはさらに女をいじめるようになった。ある日女は、男がでかけた後、自分が昔着ていた汚い服に着替え、自分の裁縫袋だけを持って立ち去った。夕方帰って来た男は女がいないことを知り、犬嚮に乗ってその自分の妻を追って行った。昔女がいた向こう岸に渡ると、そこはとても大きな街になっていた。真ん中の一番良い家へ入ろうとすると、男奴隷に、「主人の言いつけで、海の向こうから来た者はこの家に入れない、」と言われた。男が、自分は妻を連れ戻しに来た、と言うと、妻自身が出て来た。女は美しいプジンになっていた。女は語った、「昔父の敵の軍勢がやって、父たちを皆殺しにした。その敵はさらに、村全てを白樺の木の切り株と谷地坊主に変えてしまった。女を汚く醜い女に買え、女の家もボロボロの家に変えてしまった。敵は、もし裕福で良い男がおまえを嫁にすれば、村もおまえも全てが元通りに戻るだろうと言った、」と。男は何日かそこに泊まってから、自分の土地へ戻ろうと言った。しかし女は先祖伝来のこの土地に残ると言った。その後は男が海の兩岸を行ったり来たりして暮らすようになった。終わり。

3. 父たちの言い伝

私は伝説を語ろう
ある時に一族でその
さらにそれを下流に
があったので、さら
現在ウリチが住んで
老はその場所が気に
ていると、以前から
た。老人は彼らを自
さんあった。集事の
館に狩りに行って敵
に合わせる、という

父の兄、私の伯父
をして森を歩いてい
で垂っていると、大
を抜いて懐にしまっ
五匹の大を懐に繋い
直すと、大はものす
見た。大地の神が私

ある時遠くにある
も、やはり五匹だけ
皮の料理を煮て帆布
番先に行ってしまう
て五匹の大の頭や足
い抜いてから、一番
く、暑気が立ち上っ
このように私の夢
まった。

4. 一つの村があっ
ある小さな村の一
裏と狩りに行くよう
が夢を見た。夢には
に、さもなくば工
き悲しみながら静か
が、息子がいない。

さて息子は目を覚
屋に入ってお茶を飲
っぱんへ駆け登って

3. 父たちの言い伝え

私は伝説を語ろう。私の祖父はこのアムール河のずっと上流の山の方に住んでいた。ある時に一族でその土地を去り、二艘の舟を作って川を下った。アムールの大河に出て、さらにそれを下流に下った。現在のハバロフスクに着いたが、そこにはすでに大きな村があったので、さらに下流へ下った。現在のキジ湖に着いたが、さらに下流へ下った。現在ウリチが住んでいるカダ湖へ着いた。そこには数軒の集落が何ヶ所かにあった。長老はその場所が気に入り、カダ湖の島に半地下式住居を作った。そこでしばらく滞在していると、以前から住んでいた集落から一人の老人が私の祖父たちのところへやって来た。老人は彼らを自分の集落へ連れて行った。そこはたいへん良い土地で良い木もたくさんあった。集落の者たちは、祖父たちが家を作るのを手伝い、立派な家ができた。一緒に狩りに行って獣を獲った。祖父たちと集落の者たちは祭を行い、二つの火を一つに合わせる、という儀式を行って、互いに親族となることを誓った。

父の兄、私の伯父さんにアムバ伯父さんという人がいた。彼は祖父たちと五人で狩りをして森を歩いていた。ある時泊まった所で、伯父さんは用を足すために外へ出た。外で座っていると、大地と草が一緒になって2メートルほども動くのを見た。彼はその草を抜いて懐にしまった。誰にもそのことを話さず、山を下りて帰って来た。ある時彼は五匹の犬を橇に繋いででかけた。例の草で犬の頭などをなでると、犬は吠え、橇に乗り直すと、犬はものすごいスピードで橇を走らせた。帰って来て両親に話した。「私は夢を見た。大地の神が私に「ホドン」という名の魔法の草をくれた、」と。

ある時遠くにある崖のところまで、村人たちが犬橇の競争をすることになった。伯父も、やはり五匹だけの犬を繋いで参加した。伯父は崖の所に住んでいる姉の所へ、鮭の皮の料理を煮て帆布に包んで持って行くことにした。他の人々の橇の犬は多く、すぐに皆先に行ってしまった。最後尾の橇に追い抜かれると、彼は橇を止めた。例の草を出して五匹の犬の頭や足を全部なでた。たちまち橇は猛スピードで走り出し、全部の橇を追い抜いてから、一番先に崖の上に着いた。姉の家に着いて帆布を開くと、料理はまだ熱く、湯気が立ち上った。

このように私の祖先たちは豊かに暮らした。しかし現在私の親族は私一人になってしまった。

4. 一つの村があった

ある小さな村の一軒の家に一組の夫婦とその小さな男の子が住んでいた。男の子は父親と狩りに行くようになった。ある時二人で狩りに行って森の小屋で寝ていると、父親が夢を見た。夢にはトラが現れて、息子をここに置き去りにして一人で山を下るように、さもなければ二人とも食べてしまう、と言った。翌朝起きて、父親は悩んだが、嘆き悲しみながら静かに息子を置き去りにして山を下った。家が近づくとも母親が出迎えたが、息子がいない。わけを聞いて母親は泣いた。

さて息子は目を覚ましたが父親がどこにもいない。外を探したがどこにもいない。小屋に入ってお茶を飲み、再び外に出ると、木々の間からトラが現れた。男の子は木のてっぺんへ駆け登って逃げたが、トラも枝を折って登って追ってくる。しかし登ってくる

途中でトラは二本の木の枝が股になっているところにガッチリとひっかかってしまった。男の子は別の枝を伝って大地に下りて、小屋に逃げ帰った。お茶を飲んで寝ると夢を見た。夢にはトラが現れて、自分を助けてくれるよう男の子に頼んだ。男の子は翌朝起きて、夕方までかかって斧でその木を切り倒した。トラは子供の方を見てから、森の中へ立ち去った。夜寝ると再び夢にトラが現れて言う、明日朝起きたなら自動弓をたくさん仕掛けよ、と。翌日そのとおりにすると、クロテンがたくさんそのわなに掛かっていた。

父親はせめて息子の骨を拾おうと森に上ったが、小屋からは煙が立ち上っていて、息子は生きていた。男の子はそれまでのことを物語った。それからたくさんの毛皮を櫓に積んで二人は家に帰った。母親はすごく喜んだ。その後彼らは豊かに暮らした。終わり。

5. 一頭のクマが行き来している

一頭のクマが入り江で水を飲んでいて、そこでフナが水面から何度も飛び跳ねるのを見た。クマはそのフナを追い掛け回したが、フナもあちこちに逃げて捕まえることができない。するとそこへ一匹のキツネがやって来て、提案した。「クマよ、おまえはこの入り江の水を全部飲んだらよい。そしたら私がフナを捕まえよう。それから二人でそのフナを分けて食べよう、」と。クマは水を全部飲み干して、お腹が膨れて動けなくなった。キツネはフナを捕まえ森の中へ逃げ去った。こうしてキツネはクマを騙した。終わり。

6. ヌートウルキ

兄と妹が暮らしていた。兄はとても良い獵師だった。妹は服も汚く髪の毛もバサバサだった。ある時兄が家に帰ると妹の頭がきれいに梳られていた。兄がそのわけを聞くと妹は、昼間に九匹の白鳥が来て、白鳥の覆いを脱いで人間の姿に変身し、自分のことを洗ったり梳ったりしてくれた、と言う。それから毎日白鳥たちは来た。ある日兄は狩りに行かず、近くに隠れた。白鳥たちが覆いを脱ぎ家に入ると、兄は現れて一番末っ子の白鳥の覆いを奪った。姉の白鳥たちは皆空に飛び去った。末っ子の女は言う、「私に白鳥の覆いを返して下さい、私は天の人間です。もし私と結婚したければ、天にいる私の父の所へ来て下さい、」と。男は覆いを返し、女は天に飛び去った。男は長いこと旅して、天上界に通じる天に開いている穴の所へ来た。そこには見張りたちがいたので、男はハエに変身して、飛んで行った。女の父たちの家に着いて、人間の姿に戻り、家に入った。男がわけを話すと、父親は男に課題を与えた。「今私は地面に一袋の粟を撒く。私がキセルのタバコを吸う間に、一粒残らずこの粟を拾え、」と。男は天に叫んだ。「先祖たちよ、百羽の鶏を天から降らせよ、」と。鶏は一粒残らず粟を食べ尽くし、男は課題を果たした。次の日、女の父親は次の課題を与えた。「遠い海の真ん中に一本の太い木がある。その木の上にいるネコの心臓を取って来い、」と。男は長いこと旅して行ってその海に着いた。そこには大きなセイウチがいた。男はそのセイウチに海の水を全部飲み干してくれるよう頼み、セイウチはその通りに水を飲み干した。男は猛スピードで走り、木にたどり着いた。木に登って洞を見つけ、その中に入るとネコがいた。男はネコを捕まえ心臓を取り出すと、再び猛スピードで走って海の岸のセイウチの所へ戻った。セイウチは海の水を吐き戻した。男が戻ると、女の父は負けを認め、女との結婚を承諾した。

父は結婚した二人を桶の中に座らせ、一つの鉄製の箱を与えた。桶は櫓のように滑り、男の家までそれに乗って帰って来た。男が家の周りを蹴ると、家の周りには大きな街ができた。家を蹴ると家は大きな家になった。鉄製の箱を開くと、いろんな食べ物が出てきて机の上に並んだ。何か食べたいものがあれば、いつでもその箱を開けばその食べ物が出て来た。そうして彼らは裕福に暮らした。終わり。

7. 一軒の小さな家が暮らしていた

姉と妹が暮らしていた。二人は男のように狩りをして暮らしていた。ある日妹が狩りに行くのを嫌がったので、姉が狩りに出かけた。姉の留守中に二人の兄弟がお客にやって来た。しかし妹は横になって全くお客の相手をしなかった。姉が帰って来て、食事を作り客をもてなした。姉は兄の方と結婚し、翌日男たちの家へ去った。女は寝たまま、弟の方は嫁を得ることができずに帰った。数日寝た後、女は起きて後片付けをした。その晩女が寝ていると、何者かが襲って来た。その後を追って先にお客に来た弟が入って来て、刀でその何者かを殺して出て行った。女が火をつけて見ると、血の跡が地面に続いている。女は身支度してその血の跡を追って行った。一軒の家まで血は続いていた。その家の中ではたくさんの者が喧嘩していた。その近くで、彼女の姉が犬に餌をやっているのに出会った。姉は言う、「上流に崖があって、そこには魔物が住んでいる。人間を食べ、人間の骨でイナウを作り、それで垣根を作って飾っている、」と。妹の女はそれを聞くとその上流の崖の家へ行った。家に入ると誰もいなかった。男の人の道具だけがあった。女は火を熾して怖れながらも座って待っていた。やがて魔物の男が一人の人間と一頭のノロジカを獲って帰って来た。女が煮ると、男はその人間を全部食べた。男は女に遠い土地へ旅に出ると言い残して去った。女は自分の櫛を二本折って、その半分のかけらを男に与えた。男は去った。女はその崖の家はずっと一人で住んでいた。ある時崖の下をたくさんの舟が下流へ行くのを見た。舟に乗っている女たちに聞くと、女たちはこう言った。「下流の海の、水が沸き立っているような所に、美しいムルグンがアザラシと共に何度か現れた。そのムルグンは二本の折れた櫛を探している、」と。女は舟に乗せてもらい、海岸に行った。その海の湾には、女たちの白いテントがたくさん並んでいた。そして海からアザラシに乗って男が現れた。女たちは櫛を投げたが、誰の櫛も彼の持っている櫛とは合わない。その女が二本の櫛のかけらを投げると、それだけがピタリと彼の持っている二本の櫛のかけらに合った。女が自分の泊まり先に戻って寝ていると、女の周りは夜なのに光り輝いた。ムルグンはそこへやって来て女をつかんだ。女は驚いて叩き、ムルグンは戸の所まで飛ばされた。女は目が覚めて、相手がムルグンであることに気がついた。そこで二人は結婚し、ムルグンが元暮らしていた崖の上の家に帰った。男はもはや魔物ではなくなった。男は自分が人間の骨で作ったイナウも全部焼き捨てた。それから彼らは幸福に暮らした。終わり。

8. 一軒の家がユラユラと暮らしていた

一軒の家に一匹の子犬と一羽のカラスが暮らしていた。ある日カラスは天窓からどこかへ飛び去ってしまった。カラスが戻って来ないので、子犬も出かけた。行くと、女たちが赤いコケモモを採っていた。女たちは歌っていた。「黒いムルグンが食べるように、黒いコケモモを集めましょう、」と。さらにしばらく行くと、また女たちがコケモモを採っていた。女たちは歌っていた。「赤いムルグンが食べるように、赤いコケモモを集めましょう、」と。さらに行くと一軒の家があって、子犬は中に入った。黒いムルグンが、女と一緒に笑いながら暮らしていた。そこまで（未完）。

9. 一軒の家が暮らしていた

一人の男の子が両親と暮らしていた。男の子は若者に成長し、狩りをするようになった。若者はある日、山できれいな女を見つけて、自分の家に連れ帰った。父親は、「森を歩き回っていて、魔物の女を見つけたか、」と言った。その後その女が病気になった。女は男に、犬を殺してその血を飲ませるようにと言った。男がそうすると、女の病気は治った。その後再び女が病気になった。男は自分の父を殺しその血を飲ませた。その後女が病気になるたびに、母、女奴隷、男奴隷を殺して血を飲ませた。ついに女は男の血を求めた。男は小指を切って、その血を女に飲ませた。女は、「母親で敷布団とし、父親で毛布とし、犬を先導犬とし、奴隷を使うがよい、」と言って出て行った。男は朝鮮人参で自分の傷を治した。両親たちの死体を一ヶ所に置き、身支度して女の足跡を追って行った。川岸に村があって、女はその村の墓にいた。男は、「私のことを好きなら、自分の右の乳房を切り取って、私に投げてよこせ、」と言って、ナイフを投げ与えた。女はそれで自分の乳房を切り取ると、走って家の中に逃げ込んだ。男はそれを追って行って、家に入ると女を殺して焼いた。家に帰ると両親たちは生き返った。終わり。

2004年9月6日 プラ
O.A. Bel'dy 氏 口述

1. um xa

一軒の家

1-001

naa xajikati, um

ナー ハジラデー、

1-002

tu xagdundu-gibi m

その家に

1-003

tu mapangum xa

そのおじいさんは何

1-004

nam wazari wazi

全て獲る。川の方へ

1-005

tu bāni

そうして暮らしていた

1-006

xagdundu-gibi makursaba

魚で 干物を

1-007

xaxaji uls-ji-gibi uls

あめで、魚肉で、魚

1-008

hander amdo

そうしていてある時

1-009

xajumdo-de tes

ベリー類を たっふ

1-010

tu xagdu jalyakam

ほうれ 家の 近く

1-011

nam amdo-gibi m

それから ある時に

2004 年 9 月 6 日 ブラバ村にて録音

O. A. Bel'dy 氏 口述

1. um xagdundu mapaji mamaŋi juənikəən bičiti
一軒の 家に おじいさんと おばあさんとが 二人きりで いた

1-001

naa xajilati, um xardu, um xagdukaan bičini.
ナー ハジラテー、一つの あれに、一軒の 家に いた。

1-002

tu xagdundu-gdəl mapaji mamaŋi juənikəən bičiti, purul-də anaa~,
その 家に おじいさんと おばあさんとが 二人きりで いた、子供も いない。

1-003

tu mapəŋuŋi xai duiŋi toopi tes usəltəwə xamatamba-də
その おじいさんは 何だ、山の方へ 上ると たつぷりと 獣を 何でも

1-004

xum waaru. waisi butəŋdamu ɣənəpi, xamatan-dəə xum xaiwa, sugdatawa waaru.
全て 獲る。川の方へ 漁に 行けば、どんなのも 全て 何を、 魚を 捕る。

1-005

tu bičiti juu ŋu. mamaŋuŋi tu makuri anjui~,
そうして 暮らしていた、二人は。おばあさんは そうして 干物を 作る、

1-006

sugdatasalji makursalba anjui~ seepulawa suilii,
魚で 干物を 作る、炒めて粉末にした魚料理を 大鍋で掻き混ぜて作る、

1-007

a xaiji, ulsəji-gdə, ulsəji-də makuri anjumi, makuri anjumi tu lokočmi.
あれで、魚肉で。魚肉でも 干物を 作って、干物を 作って、そうして 干す。

1-008

tamdee əmdə mapəŋuŋi wəndini, "buu, i xai, xaiwa,
そうして いて ある時 おじいさんが 言う、 「私たちは、あれを、

1-009

səjuxumbə-də tes xamatan-dəə xum səjuxu gadi,
ベリー類を たつぷり、どんなのでも 全ての ベリーを 採った、

1-010

təə xagdu jakpakini səjuxu, xamata səjuxu kəwə." "~~~~~"
ほうれ 家の 近くには ベリーが、どんな ベリーだって ないことがあろうか。」

1-011

taraa əmdə-gdəl mapəŋuŋi wəndini, "mamača, buə juənikəən biipu.
それから ある時に おじいさんは 言う、 「ばあさんよ、私たちは 二人きりで いる。

1-012

jəpusəl, jəpusəl-dəə jɪŋ jɪŋ xasu xasu taktu.
食べ物、食べ物も すごく いくつも いくつもの 倉に (ある)。

1-013

xai, usəltə, usəltə-dəə xasu xasu paaʃi taktusalɪ. ɲidu əi bəliripu.
あれ、獣の肉も、獣の肉も いくつも いくつも 別の 倉に (ある)。誰に 今 分けよう。

1-014

ɲidu, piktə-dəə anaa, xai-daa anaa." mamačanguni xairiɪɪ,
誰に、子供も いないし、何も いない。」 おばあさんは どうする、

1-015

"xoon tis-kəə," wəndini, "baa, ələə tɪ singgəxən-tənii
「どうしようというんですか、」と 言う、「天が もう こんな風に 苦しめたものを、

1-016

mumbə, purul-dəə anaa xai-daa anaa." naa xajilati,
私たちを、子供も いない、何も いない。」 ナー ハジラテー、

1-017

"taxan-da məən tataxambi tɪ teel."
「だけれども 自分は 慣れてしまいましたわ、 そんな風に するのに。」

1-018

xai, sugdata butɪ, bəičii, xaiwa usəltəwə tes tes xamatan-dəə usəltəwə waariɪ.
魚を 漁する、狩りする、あれを 獣を、 たっぷり どんなのでも 獣を 獲る、

1-019

naa xajilati tam-dee əmdə ičiti, soliji, um, ugda didini.
ナー ハジラテー、ところが ある時 彼らは見る、上流から、一艘の 舟が 来る。

1-020

tɪ um ugda didini tokonduni, um xai piktə təsini,
その 一艘の 船が 来る、その真ん中には、一人の あれ、子供が 座っている、

1-021

otɪ ɲuučikə piktə. i, xai tɪ ugdadu um, əəktə ɲɪ, geulɪɪ.
とっても 小さな 子だ。で、あれ、その 舟に 一人の 女の 人が 櫂で漕いでいる。

1-022

taraa tootɪɪ tɪ mamaʃi mapaji
それから 岸边に (下りる)、その おばあさんと おじいさんとは、

1-023

andaxa didini-guni, andaxa dičɪn, tootɪ əurərəə xairiɪɪ,
お客が 来るのだ、お客が 来た、岸边へ 下りて どうする、

1-024

xalačɪɪ. taraa tɪ ugda-gdəl xawasi, xaaxan, tɪ naantɪɪ.
彼らは待っている。それから その 舟は そこへ、着岸した、その 彼らの所へ。

1-025

taraa, naa xajilati
それから、ナー ハジラテー、

1-026

tɪ mapačan
その おじいさんは

1-027

a mamačanguni
一方 おばあさんは

1-028

trwa əljəmi
彼女を 手をとって

1-029

xai utulɪ
どうして 理解でき

1-030

um ənuə puisi
ひとたび 鍋が 沸騰

1-031

tɪ mamačan
その おばあさんは

1-032

tɪ piktəwəni jəp
その 子供を 食

1-033

gajələə~ jɪŋ jɪŋ
かわいそうに、すこ

1-034

naa xajilati
ナー ハジラテー、

1-035

taraa əsi-gdəl tɪ
それから 今

1-036

"xadu bis-kəə"
「どこにいたのか、

1-037

"buxələmi dičimbi"
「逃げて 来たんで

1-025

taraa, naa xajilatı əsi-gdəl, tı baaračumaarı tı tı, piktəwəni xai,
それから、ナー ハジラテー、今、 そうして 喜んで、 その、 その子供を あれ、

1-026

tı mapaçan mootoxon, mootomı toobuıı~ xusə piktə.
その おじいさんは 腕に抱えて運んで行った、腕に抱えて 運び上げていく、男の子だ。

1-027

a mamačangonı tı tı əktəwə-gdəl tı mərgə, xai puıı. ńawja əktə,
一方 おばあさんは その、その女、 その プジン、若い 女だ、

1-028

tıwa əljəmi toobuıı~ məənti baaračumı
彼女を 手をとって 上らせる、自分らの所へ 喜びながら、

1-029

xai utulu~ jəpu,
どうして 理解できようかというほど（驚くべき）たくさんの 食べ物を、

1-030

um ənuə puisiləni, xas xas jəpuwə anjuktaxanı,
ひとたび 鍋が 沸騰してから、さまざまな 食べ物を 作った、

1-031

tı mamačan baaračumı, tı xai, tı tı mərgəmbə
その おばあさんは 喜んで、 その あれ、 その、そのムルグンを、

1-032

tı piktəwəni jəpučičəmi tiisəl-dəə jəmsiməəri jəmsiməəri bičin
その 子供を 食べさせると、彼らは 飢えて お腹を空かせて いた、

1-033

gujələ~ jıj jıj tı, tı jəptiiti, xəbələməəri jəptiti.
かわいそうに、すごく そうして、そうして食べる、ガツガツ夢中で 彼らは食べる。

1-034

naa xajilatı gəə, jəkpın, jəmi xodaxaal.
ナー ハジラテー、さあ、食べた、食べるのを 彼らは終えた。

1-035

taraa əsi-gdəl tı, tı mapaça paqsını, "xawançı didisi-kəə," wəndini,
それから 今 その、おじいさんは 訊く、「どこから 来たのか、」と言う、

1-036

"xardu bis-kəə"-m-də. naa xajilatı tı tı, tı əsi diči puıın wəndini,
「どこに いたのか、」と。ナー ハジラテー その、その 今 やって来た 女は 言う、

1-037

'buusələmi dičimbi,' wəndini,
「逃げて 来たんです、」と言う、

1-038

"piktəji, piktəji tɯ ʒaparaa buusələmi dičimbi," wəndini,
「子供を、子供を こうして つかんで 逃げて 来ました、」と 言う、

1-039

xai, xai tamɯ-ə~s, ədiji buusələxə-nuu, xaiji tučamɯ dičɯn.
どう、どう したのか、夫から 逃げたのか、 何から 逃げて 来たのか。

1-040

piktəji ʒaparaa, piktəji ʒaparaa tɯ tɯ aoridunɯ tɯ tɯ tučamɯ tɯ,
自分の子をつかんで、子をつかんでから、そいつが 寝ている時に そうして 逃げて、

1-041

tɯ-gdəɭ xai siŋgərəmsini naksɯči bičɯn-nuu xoonɯ bičɯn-nuu
そいつは あれ、いじめようとする、叩くの だったか、どうするの だったか、

1-042

əgdi asɯsal tɯ asɯsalnɯ, tɯ asɯsalnɯ-daa tɯ tɯ gosɯ, tɯ.
たくさんの 妻たち、その 妻たちが、その 妻たちも そうして 憎む、そうして。

1-043

"tɯ tuji tučamɯ dičimbi," wəndini.
「そうして そこから 逃げて 来ました、」と 言う。

1-044

"gəə tɯ tawu osɯnɯ jədu bisu," wəndini,
「さあ そういうこと なら ここに いなさい、」と 言う、

1-045

"gəə-dəə, gəə, xai, mun piktəpu osuruu," wəndini.
「一緒に、だ。一緒に、 私たちの 子供と なれ、」と 言う。

1-046

gəə~ tɯ tɯ əktə, tɯ puʒiŋgupu tɯ tɯ mapaji mamaʒi
さあ その 女は、その プジンは その、 そのおじいさんと おばあさんと (暮らす)、

1-047

puʒin xamɯ očiɯnɯ, tɯ piktəni-dəə, piktəwəni-dəə tes salɯtɯ, xai suɯnaa,
プジンの あれは、 その 子供も、 子供を すごく 可愛がる、革紐、

1-048

əi ʒulikini suɯnaa suɯnalamɯ nəučəwu bičɯni-guni, xusə purusəlbə.
この 以前には、革紐で 繫いで おいて いさせて いたの だったのだ、男の子たちを。

1-049

suɯnaa saarɯsɯ. əi-məəči-lə uičəmi ŋda-məəči-lə uičəmi,
革紐を 知っているかい。 こんな風に 繫いで、犬みたいに 繫いで、

1-050

ŋolmɯ~ suɯnaa, tɯ mapəča, jaktanʒunɯ anʒuxanɯ~, buriʒuni anʒuxanɯ,
長~い 革紐、その おじいさんは、彼のための 矢を作った、 彼のための 弓を作った、

1-051

tɯ piktə-gdəl, suonaa xoonɯ isɯ tɯ xərəlʃum puliktini,
その 子供は、 革紐が どうして 足りようか、 そうして そこいら中を 走り回る、

1-052

čindəwə jaktačɯ, xarwa jaktačɯ, tɯ tɯ, xai waamɯ, xuluwə~ waarɯ,
小鳥を 射る、 あれを 射る、 その その、 あれを 獲って、 リスを 獲る、

1-053

tuksawa~ xauli waarɯ tɯ tɯ tɯ, tusal, tɯ piktəʃi, tɯ piktəkəčuməəri tɯ,
ウサギを、 なんとか 獲る、 その、 彼らが、 その 子供と、 その 子守りをして、 そうして

1-054

tɯ bičiti, tɯ urəxəti. tɯ,
そのよう だった、 そうして 育った。 その、

1-055

tɯ əktəwə-dəə məən piktəʃuəri tɯ ʃapaxati.
その 女も 自分らの 子供として そうして 彼らは引き取った。

1-056

tɯ xusə piktə-gdəl daai, tɯ naandu tɯ daai očɯ,
その 男の 子は 大きく、 そのように 彼らの所で そうして 大きく なった、

1-057

tɯ xai, daamɯ, daamɯgɯ tɯ tɯ mapaača,
その あれ、 お祖父さん、 お祖父さんである、 その、 その おじいさんが、

1-058

ələə mutəsi očɯ, tɯ piktə-gdəl, tɯ tɯ-məəči-lə xai
もう できなく なったら、 その 子供が、 そんな風に あれ、

1-059

usəltəwə tes, xai bəičii tes waarɯ, sugdatawa tes waarɯ,
獣を たくさん、 狩りする、 たくさん 獲る、 魚を たくさん 捕る、

1-060

tɯ mamaača-dəə mutəsi očɯ, xarwa-dəə mutəsi očɯ,
その おばあさんも できなくなると、 何も できなくなると、

1-061

taraa tɯ xusə piktə xarwa-dəə xum tɯ. tɯ əñini-dəə xai,
それから その 男の 子が 何でも 全て する。 その 母親も あれ、

1-062

xarwa-dəə xum urpičii, xarwa səʃuxumbə taučɯ tamɯ tɯ,
何でも 全て 縫う、 あれを、 ベリーを 集めたり して そうして、

1-063

tɯ bičiti, tɯ urəxəti.
そうして 彼らは暮らした、 そんな風に 育った。

1-064

gəə, ələə. tii, tii bajamaari tii bičiti.

さあ、終わり。そうして、そうして 裕福に そうして 暮らした。

2004年9月6日 ブラ

O. A. Bel'dy 氏 口述

2-001

gəə ŋijmaa, əi ŋij

さあ 昔話、この昔話

2-002

bii-dəə, balanaa~ doo

私も、ずっと昔に 聞いた

2-003

tis ŋijmaamba səbj

すごく 昔話を 喜ぶ

2-004

maa xajlati, xaw

ナー ハジラテー、どの

2-005

xaxəə xəwənduni,

硬口蓋の 湖にか、

2-006

aunja bimi aunja-d

小屋であって 小屋で

2-007

kəkti porənduni,

小さな丘の てっぺんに

2-008

maa xajlati, xaw

ナー ハジラテー、今

2-009

anii~ singi tətuni-d

ひどく 汚くて 服も

2-010

aymakni jəksani tur

口には 涎が 胸

2-011

tətuni-də anii singi

服も ひどく 汚い

2004 年 9 月 6 日 ブラバ村にて録音

O. A. Bel'dy 氏 口述

2. um əəktə bičini

ある 女が いた

2-001

gəə ŋŋmaa, əi ŋŋmaamba, baŋguʃi ŋui-dəə saarasini-guni.
さあ 昔話、この 昔話を、 たまたま 誰も 知らないのだ。

2-002

bii-dəə, balanaa~ dooldixambi əgdi ŋŋmaasal min Jeesilbi
私も、ずっと昔に 聞いた、 たくさんの 昔話を、 私の 仲間たちは

2-003

tis ŋŋmaamba səbjənsii bičiti. čupal ŋŋboxombi əjəəkəəmbə əjəčii.
すごく 昔話を 喜ぶもの だった。全部 忘れてしまった、ただこれだけを 覚えている。

2-004

naa xajilati, xawasi xawandu~ baačuwası, biljaka biranduni,
ナー ハジラテー、どの 支流の川にか、 出会うこともない、 水源地のある 川にか、

2-005

xəxərə xəwənduni, um xagdu-nuu, xagdu bimi xagdun-daa bisi,
硬口蓋の 湖にか、 ある 家だか、 家で あって 家で なく、

2-006

aunja bimi aunja-daa bisi, daura bimi daura-daa bisi,
小屋であって 小屋で なく、 白樺製テントで あって テントで なく、

2-007

kəkti poronduni, kočusa~ bičin.
小さな丘の てっぺんに、 傾いて 建っていた。

2-008

naa xajilati əsi-gdəl tawanči-kəə ŋəərəs-kəə, um əəktə.
ナー ハジラテー、 今 そこから 出て来るじゃないか、 一人の 女が。

2-009

ənii~ singi tətuni-dəə kax kax bii. moksani jing jing, tungunʃini xəjəjuui,
ひどく 汚くて 服も ドロドロだ。 鼻水が ひどく、 胸の所に垂れて 流れている、

2-010

anmakini jiluksani tungunʃini ələtini, tətə ələtini~ xəjəjuini.
口には 涎が 胸を通して 裾へ、 服の 裾へ 流れている。

2-011

tətuni-dəə ənii singi xai. taraa niərəə ičəjəini, solı ičəi~ xəjə ičəi.
服も ひどく 汚い。 それから 出してから 見る、 上流を見る、 下流を見る。

2-012

xəɾəljum um moo-daa kəwə, um xai-daa kəwə.

周りを見渡しても、一本の木さえも無く、一つの何さえも無い。

2-013

təŋ xai, moo duksunjini, pee pee... xai, moo dukundu xai daača,
ただあれが、木の梢と、白樺、白樺の、あれ、木の梢に、あれ、切り株、

2-014

daačasaljini xaiji, biini. umu, sunpu, sunpusəli-dəə.

切り株と、あれとがある。 谷地坊主、谷地坊主も。

2-015

isal xooni~ ičəini xooni tu-məəči-lə moo duksu xami daačani,
目でどんなにか、見るに、どうにも そんな風で、木の梢と、あれ、切り株、

2-016

xai sunpusəli-dəə. təə~ bəisi ičəini ana xai badila,
谷地坊主も、だ。ほうれ遠く 向こうを見るに、ああ、あれ 向こう岸に、

2-017

pakari~ didini, didini-nuu xai pəŋəlini-nuu xairi-nuu.
黒々と やって来る、来るのか、 転がっているのか、 どうしているのか。

2-018

naa xajilati əsi-gdəl tiwa tu ičəjəini
ナー ハジラテー、今 それをそうして 見ていると、

2-019

čokto čokto tu ičəjəini ilsimi~
パチ パチ瞬きして 見ていると、止まっている、

2-020

isalmi-dəə min-məəči-lə xarwa-daa ičəəsini, tu ičəjəmi ilsimi,
彼女の目も 私のように 何も 見えない、そうして 見ていると 止まっている、

2-021

tu tu xai didini bis-kəə jɪjalaa~ jɪjalaa jɪjalaa osini.
そうしてそうして来るではないか、近くに、近くに近くに なった。

2-022

tamdee jɪjalaa očindoni ičəini, anai-a~, xai nuskudaurini, nuskudaurini.
そうして近くに なった時に 見る、ああ、 犬櫓が 渡って来る、犬櫓が。

2-023

tu, tu nuskudu xami, um ŋu təəsini.
その、その犬櫓に あれ、一人の人が 座っている。

2-024

taa tiwa tu pəskəmi tu ičəjəini~ naa xajilati əsi-gdəl,
遠くに それをそうして 注意して見て そうして 見ていると、ナー ハジラテー、今、

2-025

tu tu nuskudaurini

その、その犬櫓は

2-026

xairi-nuu tula to

どこへか、そこに上

2-027

anai-a~ ŋaarakta la

ああ、 すごく

2-028

məən paŋaani m

自分の姿で 自

2-029

taraa xai, tu-gda xai

それから、彼は

2-030

"gəə, əsi bii si

「さあ、今 私は あ

2-031

tu ŋu, tu əəkto

その人、その 女は

2-032

taraa asijoji

それから 自分の妻に

2-033

"əjəna,

「ちょっと待って、

2-034

daurati-nuu, xai, daurati-nuu

テントだか、 小屋

2-035

koču ələə luop

傾いて 今にも グシ

2-036

ničjuni. əni

出ようとする。ひと

2-037

xuəmbə ŋəjəna

裁縫袋を 持って出て

2-025

tɪ tɪ nusku-gdəl xartɪ, toorɪ naanɪ xartɪnɪ, daurati-nuu, xagduntɪ-nuu,
その、その 犬櫓は どこへ、上って来る、彼女の あれへ、テントだか、家だかへ。

2-026

xartɪ-nuu tɪla toorɪnɪ. naa xajɪlatɪ laŋ osɪjɪnɪ gəsə ičəɪnɪ
どこへか、そこに 上って来る。ナー ハジラテー、近くになるや いなや 見るに、

2-027

anai-a~ ɲaarakta largɪ mərəgə, paɲaa,
ああ、 すごく すてきな ムルグンだ、 姿は、

2-028

məən paɲaanjɪ mənə xadaɕɪ mərəgə.
自分の 姿で 自分が びっくりするぐらいの ムルグンだ。

2-029

taraa xai, tɪ-gda xai, turumi naantɪnɪ didiini.
それから、彼は 櫓を止めて、彼女の所へ 来る。

2-030

''gəə, əsi bii simbə ɲaaɕɪxambɪ, '' wəndini, ''asɪjuɪ.
「さあ、今 私は あなたを 連れ去りに来た、」 と言う、 「自分の妻に。」

2-031

tɪ ɲɪ, tɪ əəktə-gdə taŋgaɲaxan.
その 人、その 女は 驚いた。

2-032

taraa asɪjuɪ ɲaaɕɪxan osɪnɪ ɲənəu-guni.
それから 自分の妻にと 連れ去りに来た なら 行くべきなのだ。

2-033

''əjɪənə, bii əsi xuurəmbə ɲaanjuɪ-ta. '' tawasɪ tɪ, xoču xagduntɪ-nuu
「ちょっと待って、私は今 裁縫袋を 持って行くわ。」 そこへその 傾いた 家へだか、

2-034

daurati-nuu, xai, aɒnjatɪ-nuu iɪjuxəni učəni-dəə ʃɪŋ ʃɪŋ ənii singɪn
テントだか、 小屋だかへ また入った、その戸も すごい、ひどく ボロい、

2-035

koču ələə luəp tukini. iɪjurəə ələə-dəə xamasɪ
傾いて 今にも グシャンと 潰れそうだ。入ってから、今にも 元来た方へ

2-036

niəɲuni. ənii singii xarwa, ɲəəwɪjuni, xuurəmbə.
出ようとする。ひどく 汚い あれを、持って出ようとする、裁縫袋を。

2-037

xuurəmbə ɲəəɲurəə xawandu kapuraraa, tučilə, tučiduni təəxən.
裁縫袋を 持って出してから、小脇に 挟んで、 櫓に、櫓に 乗った。

2-038

naa xajilati əsi-gdəl tui mərəgə-gdəl jing jing xai,
 ナー ハジラテー、今 その ムルグンは すばやく、あの、

2-039

ingdanguji xərəljuwəmi jing jing tui dauras-kəə~
 自分の犬の向きを すばやく変えて、すばやく そうして 渡るではないか、

2-040

mangu xarwa namuwa daujuni tawasi,
 大河、あれを、海を 渡って行く、向こうへ、

2-041

kis tui daujumi tui, tui-gdəl, təjə-nuu kəwə-nuu,
 まっすぐに そうして 渡って行く そうして、彼女は 現か 夢か、

2-042

xawasi-daa ɣənəi-dəə saarasi, tui mun mərəgə, pujingupu, tui tido tui,
 どこへ 行くのかも 知らず、そうして 私たちの プジンは、そして そこで そうして、

2-043

tamdee naa xajilati əsi-gdə xai namu taja kaltaani jɣjalaa osini ičəini bis-kəə,
 それから ナー ハジラテー 今 海の 向こう側が 近くになると 見えるではないか、

2-044

jaa~m biruu, biruu. naa xajilati, tui tui biruu ičəini anajr-a~,
 たくさんさんの家の村、村だ。ナー ハジラテー、その、その村を 見るに、ああ、

2-045

daarlan~ xooni isal ičəini xooni jing jing xagdusalı-mal,
 大きさといたら、どんな 目で 見ても、どうにも すごく 家ばかりだ、

2-046

xai too~ tokonduni um daar xagdu biini bis-kəə, tui tula kis,
 その一番 真ん中に 一軒の 大きな 家が あるではないか、彼は そこに まっすぐに、

2-047

tui tui mun mərəgəngupu dau... gaajumi, tui tui əktəwə tui pujiwə.
 その、その 我らの ムルグンは 連れて行く、その、その 女を、その プジンを。

2-048

naa xajilati xai tuliduni xai turuxəni ingdanguji əsi-gdəl, taraa xai,
 ナー ハジラテー、中庭で 止めた、犬を、今、 それから、

2-049

tawanči tui xagduñji ɳəəriini, əkəsəl, kəkəsəli, xaisalı
 そこから、その 家から 出て来る、女たち、女奴隷たちだの 何だの、

2-050

daarpusalı xaisalı ɳəəriini. gəə əsi, əi
 男の奴隷だの 何だのが 出て来る。さあ 今、この、

2-051

əi əktəwə gaaj...
 この 女を 連れ

2-052

"iirwujurəə wak...
 「入れてから よく

2-053

tamanı mangasalı...
 値の 高い (宝

2-054

"asijuji daa...
 「自分の妻を 私

2-055

kəkəsəli tui...
 女奴隷たちは その

2-056

tui tui əktəwə...
 その 女を、 手

2-057

xoču xagduñ...
 傾いた 家に

2-058

tui məəpi...
 その 自分のこと

2-059

tui iirwujur...
 そうして 彼らは

2-060

daarpusalı...
 男の奴隷たちだの

2-061

ələə silčumi...
 今にも 洗って

2-062

taraa, daa...
 それから、ダー

2-063

daar xagdu...
 大きな 家には、

2-051

əi əktəwə gaajui... "iwwujksu," wəndini,
この 女を 連れて行く、 「入って下さい、」と 言う、

2-052

"iwwujurəə wakaji silčuwu, wakaji taturəə uləə uləə xai,
「入れてから よく 洗え、 よく 着せてから、 良い 良い あの、

2-053

tamani mangasalba tətuwənu, uləə uləə tətuwəənduksu," wəndini,
値の 高い (宝石類) を 身につけさせよ、 良く 良く 着せろ、」と 言う。

2-054

"asijuji daawujuxambi." naa xajilati əsi-gdəl tui
「自分の妻を 私は渡して連れて来たのだ、」と。 ナー ハジラテー、 今 その

2-055

kəkəsəli tui, daarposali, tui tui əktəwə əljəmi iwwujul jugbaani.
女奴隷たちは その、 男の奴隷たちは その 女を 手を取って 入らせる、 家の方へ。

2-056

tui tui əktəwə mun əktəngupu-gdəl jing jing ənii singin daurandu xagdundu
その 女を、 我らが 女は すごく ひどく 汚い テントに、 家に、

2-057

xoču xagdundu bičinjī tui tui xagduntī uləən xagduntī iiriini~ tawasi ičəjəi,
傾いた 家に いたのから、 その 家へ、 良い 家へ 入る、 そっちを見る、

2-058

tui məəpi ŋui əljiiwəni. naa xajilati~
その 自分のことを 人が 手を取って入れてくれるのを。 ナーハジラテー、

2-059

tui iwwujuxəti~ əsi-gdəl gərəə ŋui... gərəə kəkəsəli~ xaisal
そうして 彼らは入れた、 今 全員の 人が、 全員の 女奴隷たちだの 何だの、

2-060

daarposali xaisali tui əsi tui əktəwə-gdəl
男の奴隷たちだの 何だのが そうして 今 その 女を

2-061

ələə silčumi joomboluxati, silčui tui uləə uləə tətusəlbə tətuwənči~n,
今にも 洗って 働き出した、 洗う、 そうして 良い 良い 服を 着せた、

2-062

taraa, daa xajilati əsi-gdəl, xai tamsi bičin-guni balanaa~ tui tamsi
それから、 ダー ハジラテー、 今、 板寝床が あったのだ、 昔は その 板寝床が、

2-063

daai xagdu, xagdu xərəəlum tamsi.
大きな 家には、 家の 中じゅうぐると 板寝床だった。

2-064

tɯ tamsɯ toko~ntɯ tæŋdæwənçiti æktəwə.
その 板寝床の 真ん中へ 座りに行かせた、女を。

2-065

mun mun puŋguwəpu tæŋdæwənçin, taraa manju dərəni,
私たちの、私たちの プジンを 座りに行かせた、それから 中国風の 机、

2-066

ñučikuu manju dərəni, tɯ manju dərəni juliləni nəəxəti.
小さな 中国風の 机、 その 中国風の 机を 彼女の前に 置いた。

2-067

tɯ tɯ, mun, tɯ mærgə tɯ ŋaaçixan mærgən-də jəkpadunɯ tæxən,
その 私たちの その ムルグンはその 連れて来た ムルグンも 彼女のそばに 座った、

2-068

taraa tɯ, tɯ dərə ojolonɯ xamataa jəpusəlbə nəəktəxəti~, tara tɯ mun, xai,
それから その 机の上に いかなる 食べ物も 全て置いた、それから その、私たちの

2-069

puŋgupu, tɯ tɯwa jəptii~ xaal-ma tamatamba jəkpi-nuu
プジンは、そうしてそれを 食べる、いつだって そんな物を 食べたことがあろうか、

2-070

kəwə-nuu tɯ tɯ tɯ amtasumɯ tɯ xaiwa, tɯ xarwa-də xum tɯ tɯ jəptii,
ないのか、そうして味わって、その あれを、その あれも 全部 そうして 食べる、

2-071

tɯ mun mærgəngupu-də tɯ tidu jəkpadunɯ jəptii,
その 私たちの ムルグンも そうしてそこで そばで 食べる、

2-072

içəi, xairumɯ, təsuməəri jəptəmi... jəməəri urçulondɯ.
見ているに、どうする、二人は座って 食べて、 食べながら 話をする。

2-073

naa xajlatɯ taraa əsi-gdəl tɯ, tɯ mun mærgəngupu asɯ xuju asɯ biçini.
ナー ハジラテー、それから 今 その 私たちの ムルグンの 妻は 九人の 妻がいた。

2-074

tɯ, əsi əsi gaajuxanɯ, uzhe juə asɯ oçimɯ-guni.
そうして、今、今 連れて来た、すでに 十人の 妻と なったのだ。

2-075

taraa tɯ daai tɯ xaitɯ, juə asisalɯ jɨŋ jɨŋ uləə uləə gursəl tɯ,
それから その 年上の その、 前の 妻たちは ととても 良い 良い 人たちは そうして、

2-076

tɯ bajučamɯ ičəjəi tɯ, tɯ æktəti, ənii singin adakaul tətumi xai,
そうして 敵視して 見る、その 女へ、 ひどく 貧しく 汚く 着ていれば、あれ、

2-077

tawasɯ bajučamɯ ičəjəiti.
それへ 敵視して 彼らは

2-078

čuu daai asimɯ-guni ju
一番 年上の 妻なのだ、

2-079

tɯ tɯ æktəwə. naa
その、その 女を。 ナー

2-080

tamar~ bala boičumɯ
次の日朝 早くに 狩りしに

2-081

mun puŋguwəpu-gdə~
我らが プジンのことを

2-082

tɯ, mun puŋgupu
その、我らが プジンは

2-083

amda, tɯ mærgə,
ある時、その ムルグン、

2-084

"gə, əsi sua,
「さあ、今 おまえたち

2-085

tɯ uləə asɯ osɯ."
それが 良い 妻と なる、

2-086

urpumi, čupal nam
縫うことを、とても 機織

2-087

uləəŋji urpiçiti. tara
うまく 彼らは縫う。それ

2-088

tɯwa xai, ičəiçini,
それを 見ようとする、

2-089

taraa, naa xajlatɯ
それから、ナー ハジラテ

2-077

tawası baǰučamı ičǰǰiti. taraa tı daarduma
それへ 敵視して 彼らは見ている。それから その 年上の方の、

2-078

čuu daar asını-guni jıj jıj gosoloxanı
一番 年上の 妻なのだ、ひどく 嫌った、

2-079

tı tı æktəwə. naa xajılatı əsi-gdəl mun mǝrgǝngupu-gdəl tımar,
その、その 女を。 ナー ハジラテー、今 私たちの ムルグンは 次の日、

2-080

tımar~ bala beičumi ǰanı, siksə~ jıjui, tı, tı tı jılə asısalrı-gdəl
次の日朝 早くに 狩りしに 行く、夕方になると 戻る、その、その 前に 妻たちは、

2-081

mun puǰınguwəpu-gdəl tı xoonı-dəə xum singǝrəmsiti.
我らが プジンのことを そうして どんなことでも 全てして いじめようとする。

2-082

tı, mun puǰıngupu xəmə~ xəmə tı biini. naa xajılatı əsi-gdəl xar,
その、我らが プジンは 黙って、黙って そうしている。ナー ハジラテー 今、

2-083

əmdə, tı mǝrgə, mǝrgə wəndini,
ある時、その ムルグン、ムルグンが 言う、

2-084

”ǰəə, əsi suə, urpuksu mindu, poǰdowa. ǰui wakaǰı tımar osını,
「さあ、今 おまえたち、縫え、 私に、 魚皮靴を。誰が より上手にした ならば、

2-085

tı uləə ası osı.” tı jılə asısalrı-la saarını-guni,
それが 良い 妻となる、」と。その 前の 妻たちは よく知っているのだ、

2-086

urpumi, čupal namtinga manǰusal-us. xar, urpičiti uləən-guni,
縫うことを、とても 機敏で、 満州人だろうか。縫うことが 上手なのだ、

2-087

uləənǰi urpičiti. taraa əi, əsi əsi gaajuxambı ası
うまく 彼らは縫う。それから この、今、今 連れて来た 妻は、

2-088

tıwa xar, ičǰǰini, xoonı-dəə urpiwəni.
それを 見ようとする、どうやって 縫うのかを。

2-089

taraa, naa xajılatı tı, jılə asısalrı-dəə sugbowa sugbusixati,
それから、ナー ハジラテー、そうして、前の 妻たちは 魚皮を 加工した、

2-103

”gəə ičəwənuksu,” wəndini, ”məən tɯ taxambari.”

「さあ、見せろ、」と 言う、「自分らが そのように した物を。」

2-104

naa xaijalatɯ tɯ ʒulu asisal čupal ʒakpadonɯ nəəktəxəni,

ナー ハジラテー、その 前の 妻たちは 皆 彼の近くに 並べた、

2-105

məən urpəčixəmbəri ʒiŋ ʒiŋ čupal largɯ largɯ, tapɯ~

自分らが 縫った物を、 すごく、全部が すてきだ すてきだ、しばらくして、

2-106

mun xai, puʒiŋgupu, iraxani, əniɯ siŋgi xoču

我らが あの、プジンが 持って来た、ひどく 汚く 曲がっていて、

2-107

xawası-gdəl tɯ poŋdowa ʒakpadonɯ nəəxəni.

どうにも変な その 魚皮靴を 彼のそばに 置いた。

2-108

taraa tɯ mərəgə, xaiwa-daa wəmi-dəə kəwəni.

それから その ムルグンは、何も 言いも しない。

2-109

naa xaijalatɯ guči, aumɯ tɯ tɯ mun mərəgə...

ナー ハジラテー、さらに、寝ると、その、その 我らが

2-110

puʒi tɯ adakaol puʒi gaajuxan puʒiŋji-məl aorɯmɯ. tɯ

プジン、その 汚い プジン、連れて来た プジンとだけ 寝る。その

2-111

goɯ asisalʒi aumɯ-daa aurasɯmɯ. tɯsal-dəə baadı gosɯtɯ tɯ xaiwa, tɯ puʒiwə.

他の 妻たちとは 寝る時も 寝はしない。彼らは さらに 憎んだ、その、 その プジンを。

2-112

naa xaijalatɯ taraa tɯmana-gdəl, təəxəni tɯ ʒəkpi,

ナー ハジラテー、それから 次の日、 起きた、そうして 食べた、

2-113

tɯ mun mərəgəŋgupu.

そうして 我らが ムルグンは。

2-114

taraa tɯ əsi əniɯ siŋgi xoču xawası-daa xum adakal poŋdowo tətuini.

それから そうして 今 ひどく ボロい 曲がった どうにも 汚い 魚皮靴を 履いた。

2-115

tɯ ʒulu uləən uləən poŋdosolbo xarɯsɯ ansıraa,

その 前の (妻たちの) 良い 良い 魚皮靴を 別の方へ 除けてから、

2-116

tɯ adakal poŋdowa tətuxəni~, paani, umundoma ŋuučikə, umundoma daai,
その 汚い 魚皮靴を 履いた、 ある方、一方が 小さくて、もう一方が 大きい、

2-117

xoon-dəə xum xoču, timai təerəə, tɯ bəičiŋdəmi tɯ ŋənəxən.
どうにも 全部 曲がったのを、次の日 起きてから、そうして 狩りしに そうして 出かけた。

2-118

naa xajilati tamdee xasulta~ bimi guči wəndini,
ナー ハジラテ、それから 数日 経つと、また 言う、

2-119

”gəə əsi mindu wagbangɯ anjoksɯ. ŋui xoon timi,”
「さあ 今 私に 手袋を 作れ。 誰が どのように するか、」と、

2-120

tɯ tɯ mun puŋgupu-dəə tɯ-məəči-lə anjuxani~,
あの、あの 我らが プジンは あんな風に 作った、

2-121

ənii singin anjumi-dəə utiləsi xawasi-gdə-nuu. naa xajilati titami siksə guči
ひどく 汚く 作って、 どうするの。 ナー ハジラテ、そうして 夕方に また

2-122

tɯ-məəči ičəbdəni nəəxəti, tɯ jakpaduni nəəxəti.
あのように 彼が見るようにと 彼らは置いた、彼の そばに 彼らは置いた。

2-123

tɯ mun puŋgupu-dəə tɯ məən anjuxambi wagbangɯwa,
あの 我らが プジンも そうして 自分が 作った 手袋を、

2-124

poroni xawasi poroni xawasi bii-nuu, um poroni xoču,
ある指があっち向いたり、別の指が こっち向いたりなんだか、ある 指は 曲がっていて、

2-125

um poroni xooni-gdəl-nuu, tɯ tɯ-məəči anjuxani
別の 指は どうなってんだか、そんな、そんな風に 作った、

2-126

poru xai, saarasi poru xai.
指があれば、わかっていない、指が どうだか。

2-127

naa xajilati timana-gdəl tɯ mun mərgəŋgupu xaiwa-dəə wəmi-dəə kəwəni.
ナー ハジラテ、次の日 その 我らが ムルグンは 何も 言いも しない。

2-128

taraa tɯ, tumanani guči bəičiŋdəmi ŋənəmi tɯ adakal asiji,
それから その、次の日に また 狩りしに 出かけて、その 汚い 妻が

2-129

anjuxan poŋdo tətujɯ
作った 魚皮靴を 履いた、

2-130

tɯ anjuxani wagbangɯ
彼女が 作った 手袋を

2-131

tɯ tɯ, tɯ julu
そうして、その 前の

2-132

naa xajilati tɯ
ナー ハジラテ、

2-133

daarduma asini tɯ-də
年上の方の 妻は、そう

2-134

ədi kəwənduni xoon
夫がいない時に、どん

2-135

taraa tɯ, goro
それから その、長い

2-136

sokrashennyj budu rass
短縮したのを 私は物語

2-137

tɯ tɯ mun xai, puŋ
その 我らが あれ、プジ

2-138

tətusəlbə čupal ačuxani
服を 全部 脱いだ

2-139

səurəmə tətusəlbə təcə
絹製の 服を 着て

2-140

ənii singi məən
ひどく ボロい 自分が

2-141

xuurəmbi japaŋxani t
裁縫袋を つかんだ、そ

2-129

anjuxan poŋdo tətujuxəni. tɯ trwa
作った 魚皮靴を 履いた。 その それを、

2-130

tɯ anjuxani wagbaŋgiwa xoču adakal wagbaŋgiwa trwa tətuxəni,
彼女が 作った 手袋を、 曲がった 汚い 手袋を、 それを 身につけた、

2-131

tɯ tɯ, tɯ ʒulu asisal baadı gosoluxatɯ tɯ æktəwə.
そうして、その 前の 妻たちは さらに 嫌がった、その 女を。

2-132

naa xajɪlatɯ tɯ tɯ bimdee~ tɯ tɯ ʒuə xai,
ナー ハジラテー、 そうしていて、 その あれ、

2-133

daaiduma asɪni tɯ-dəə xooni-dəə xum tɯ æktə, ədini,
年上の方の 妻は、そうして どんなことでも 全てして その 女を、彼女の夫が、

2-134

ədi kəwənduni xooni-dəə xum singərəmsini.
夫が いない時に、どんなことでも 全てして いじめようとする。

2-135

taraa tɯ, goro əi ɲɲma, daai, ɲolmɯ ɲɲmaa, daai, oŋboxombɯ,
それから その、 長いんだ、この 話は、 大きい、長い 話だ、 大きい、私は忘れた、

2-136

sokrashennyj budu rasskazyvat'. taraa, əmdə-gdəl bəiçɪŋdəmi ɲənəxənduni,
短縮したのを 私は物語ろう。 それから、ある時に 狩りしに行つて 行つた時に、

2-137

tɯ tɯ mun xai, puʒɪŋgupu, xawasi... tɯ məən gaajuxambi,
その 我らが あれ、プジン、どこへだっけ、その 自分が 持って来たのを (出して)、

2-138

tətusəlbə čupal ačuxani~ tɯ ulə səurə, largɯ largɯ səurə...
服を 全部 脱いだ、その 良い 絹の、すてきな すてきな 絹の、

2-139

səurəmə tətusəlbi təsčəxəmbi čupal ačuxani.
絹製の 服を 着ていたのを 全部 脱いだ。

2-140

əniɪ singɪ məən təsčəxəmbi tətujɪ tətujuxəni,
ひどく ボロい 自分が 以前着ていた 服を 着た、

2-141

xuurəmbi ʒapaʒuxani tɯ ɲəəxən.
裁縫袋を つかんだ、そして 家を出た。

2-142

tɯ ɲæɾæ əsi-gdəl naa xajɪlatɪ ədini sikə jɪjuxəni, tɯ asɪni kəwə.
そうして出てから 今、 ナー ハジラテー、夫は 夕方 戻って来た、その 妻は いない。

2-143

''xardu biini.'' tɯ daaɪ asɪsalɪ wəndini, ''saarasɪmbɪ,'' wəndini,
「どこに いるのか。」その 年配の 妻たちは 言う、「知りません、」と 言う、

2-144

''xawasɪ ɲənəxəni, xaila saawu.'' naa xajɪlatɪ əsi-gdəli,
「どこへ 行ったかなんて、どこから 知り得ましょう。」ナー ハジラテー、今、

2-145

tɯ mun mərgəŋgupu xai, tɪmana nuskuwə xalɪxani, nusku
その 我らが ムルグンは、 次の日 犬櫓の 真ん中の引き綱を繋いだ、引き綱を

2-146

xalɪraa tɯ tɯ, tɯ namu daurɪni, tɯ xai, asɪjɪ ɲaənɟomɪ daurɪni.
繋いでから、そうして、その 海を 渡る、その あれ、妻を 取り戻しに 渡る。

2-147

tɯ daurɪni~daurɪni daumɪ-dəə ičini, anai-a~tɯ, mugdusəli,
そうして 渡る、 渡る、 渡って 見る、ああ、 その、谷地坊主のように、

2-148

xai xaisali, bičɪn tɯ-gdəl, xoto očɪn daaɪ ixon, daaɪ xoto, biruu.
あの あれたちが あった そのように、街となっていた、大きな 村、大きな 街、村だ。

2-149

jaa~m anai-a~, largɪlanɪ daaɪ naani, naani xotonɟɪni-dəə
ぎっしりと、ああ、 そのすごいことは 大きい、ウルチャの、ウルチャの 街よりも、

2-150

naani biruuɟɪni-dəə goro daaɪ.
ウルチャの 村よりも はるかに 大きい。

2-151

čuu~tokon tokondunɪ čuu uləə xagdu biini, tawasɪ iixəni, tawasɪ iiriini.
一番 真ん中の 真ん中に、一番 良い家が ある、そこへ 入った、そこへ 入る。

2-152

kəkəsəli, daarpusali, iiwəəndəsɪl, ''xai mun əjəpu wənčini,'' wəndini
女奴隷たち、男奴隷たちが 中へ入らせない、「我らが 主人は 言いました、」と 言う、

2-153

''ɲuiwə-dəə, namu, namuɟɪ daurɪni gursəlbə ɲui-dəə əjɪ iiwəəndəksu'-m-də. taraa
「誰をも、海、海から 渡って来る 者たちを、誰をも 入らせるな、」と。 それから

2-154

tɯ-gdəl tɯ naamčamɪ tɯ, ''bii naani ədini, naambanɪ ɲaənɟuxambɪ,''
そうして彼は 説得して そうして、「私は 彼女の 夫だ、彼女を 連れ戻しに来た、」と

2-155

tɯ naamčamɪ, ''a
そう 説得して、「伝

2-156

bii naambanɪ ɲaənɟ
私は 彼女を 連れ

2-157

daaɪ daarpuɲ ɲən
大きな 男奴隷は 行

2-158

naa xajɪlatɪ
ナー ハジラテー、

2-159

ɲæmi tɯ, əd
出て来て、その、自

2-160

pəñəmugdəɾəə w
来てひざまずいて 言

2-161

''xaila tɯ
「どうして ああして

2-162

ədiji iiwujuxə
自分の夫を 入らせた

2-163

naani xagduɲɪni-dəə
彼女の 家は、

2-164

goro uləən xagd
はるかに 良い 家だ

2-165

əsi-gdəl naa xajɪlatɪ
今 ナー ハジラ

2-166

tɯ juə ɲɪ tɯ
その二人は そうして

2-167

manɟusal-daa tɪs
満州人も すごく

2-155

tɯ naamčami, "aldačuksu," wəndini, "min dičimbi-dəə,
そう説得して、「伝えてくれ、」と言う、「私が来たことを、

2-156

bii naambani ɲaanjumi dičimbi'-m-də. xai naamčini tɯ xai,
私は彼女を連れ戻しに来た、」と。説得すると、そのあれ、

2-157

daaɪ daarpun ɲənəxən, aldačɪŋdami.
大きな男奴隷は行った、伝えに。

2-158

naa xajɪlatɪ əsi mun, mun puʃiŋgupu, ɲəəriini.
ナー ハジラテー、今 我らが、我らが プジンが 出て来る。

2-159

ɲəəmi tɯ, ədiji, ədiji ʃakpaduni ɪlɪxan tɯ ədini-gdəl,
出て来て、その、自分の夫のそばに 立った、その夫は、

2-160

pəŋəmuŋdəɾəə wəndini, "bii simbə ɲaanjuxambi," wəndini,
来てひざまずいて言う、「私はあなたを連れ戻しに来た、」と言う、

2-161

"xaila tɯ dauʃuxasi-kəə"-m-də. naa xajɪlatɪ tɯ-gdəl xai,
「どうしてああしてあなたは渡ってしまったのか、」と。ナー ハジラテー、そうして、

2-162

ədiji iiwuʃuxəni, məən xagdu tɯ, ʃiŋ ʃiŋ largɪ largɪ xagdu ʃiŋ ʃiŋ,
自分の夫を 入らせた、自分の家に それは、すごく すごく すてきな 家だ、すごく、

2-163

naani xagdunʃini-dəə, 'dooldowu aja.' naani xagdunʃini-dəə
彼女の 家は、[聞いても聞いてもよいよ]、彼の 家よりも

2-164

goro uləən xagdunɪ~ tas largɪ, xagdu.
はるかに 良い 家だ、すごく すてきな 家だ。

2-165

əsi-gdəl naa xajɪlatɪ ədini xasomba aɯŋjačixan-nuu xasomba aɯŋjačixan-nuu
今 ナー ハジラテー、夫は 何日 泊まったんだか、何日 泊まったんだか、

2-166

tɯ ʃuə ɲɪ tɯ basakačumaari tɯ tɪdu biiti.
その二人は そうして 互いに優しくし合って そうして そこに いる。

2-167

manʃusal-daa tɪs əgdi. taraa naa xajɪlatɪ
満州人も すごく たくさんだ。それから ナー ハジラテー

2-168

tɯ ədini, paŋsɯni, "xamɯ, tɯ bičisi, əi ʃulikini."
その夫は、訊く、「どうして、あんな風だったのか、この前には。」

2-169

tɯ mun puʃiŋgupu wəndini, "naa xaʃɯlatɯ əi min ambɯ,
その我らがプジンと言う、「ナーハジラテー、この私の父は、

2-170

əi daaɯ biruu, əʃəni," wəndini, "əʃəni bičini. baʃun, baʃun,
この大きな村の長、」と言う、「長だった。敵、敵、

2-171

daaɯ baʃusal xai, ambɯ baʃun, daaɯ baʃusal xaɯxatɯ," wəndini,
大きな数の敵たち、私の父の敵が、大きな敵たちがああした、」と言う、

2-172

"min, min ambajɯ, aaksalɯbaʃi ʃupal waaktaxaal.
「私の父を、兄たちを全部殺してしまった。

2-173

xaiʃi, ʃupal waaktaraa ənbəʃi-dəə waaxan. mimbə, əi min,
あれで、皆殺してしまって、私の母も殺した。私を、この私の、

2-174

əi biruuwə-gdəl ʃupal, xaiʃi, upančɯtɯ, upančɯtɯ," wəndini,
この村を全部、魔法でならせてしまった、変えてしまった、」と言う、

2-175

"xai, tɯ dəksusəli-dəə, peesali, xai daača, mugdusəli, upančɯtɯ," wəndini,
「その谷地坊主だの、白樺の木の、木の根、切り株に変えてしまった、」と言う、

2-176

"a mimbə-gdəl əi, əi min xagdəmbajɯ ənii ŋiŋgi upandaraa,
「そして私を、この、この私の家をひどくボロくしてしまってから、

2-177

mimbə-gdəl ənii ŋiŋgi xai, adakal əəktə-nuu, adakal əəktə upančɯtɯ," wəndini,
私をひどく汚い、汚い女か、汚い女に変えてしまった、」と言う、

2-178

"taraa upančɯtɯ... tɯ, daaɯ baʃun wənčɯn-təni, 'simbə uləə,
「それからそう変えた、その大きな敵が言うには、『おまえを良い、

2-179

uləə bajan mərgə uləəsiini osɯni, məən əi xoton-dəə daaɯ,
良い裕福なムルグンが好きになったなら、自分のこの街も大きな、

2-180

xoton-məəči-lə očɯi~, sii-də, məən mərgə, xai puʃi bičɯn puʃi očɯi
街のようになる、おまえも、自分がプジンであつたようなプジンになる、

2-181

ʃupal əi, məən bi
全部がこの、自分がそ

2-182

əi-məəči-lə adakal
このように汚いのを

2-183

wənčɯni, tɯ tɯ asɯ
言った、そうその妻

2-184

"tawasɯ." asɯni w
「向こうへ。」妻は言

2-185

tɯxalɯ osɯni əwəsi
同意するならこっちへ

2-186

əwəsi daurɯ~ t
こっちへ渡ったり、あ

2-187

tawasɯ dauʃɯi ə
あっちへ渡ったりこ

2-188

"bii əwəsi ŋaalam
「私はここを捨てな

2-189

"min, min xai, amsalɯ
「私の父たちの

2-190

"əi, əi baa. ŋ
「この、この地は、替

2-191

tɯ mun mərgəŋg
その我らがムルグン

2-192

əi, əilə xai puləʃi
この、ここにより長

2-181

čupal əi, məən bičin-məəči očuni, wəndini, 'a simbə gui-dəə
全部がこの、自分がそうだったようになる、』と 言うのです、『だが おまえを 誰も、

2-182

əi-məəči-lə adakal gui-dəə uləəsisini osmı tı biləsi,
このように 汚いのを 誰も 好きにならないなら その ままだろう、』と

2-183

wənčini, tı tı asmı aldačını. naa xajılatı, "gəə əsi-gdəl daujusı," wəndini,
言った、そう その 妻は 話した。ナー ハジラテー、「さあ、今 渡ろう、」と 言う、

2-184

"tawası." asmı wəndini, "sin, sindu tıdu əgdi asısalı.
「向こうへ。」 妻は 言う、「あなたには、あそこに たくさんの 妻がいますが、

2-185

tıxalar osmı əwəsi dauruu.
同意する なら こっちへ 渡れ。

2-186

əwəsi dauru~ tawası dauru, tar, tar biruuwə-dəə mənə,
こっちへ 渡ったり、あっちへ 渡ったりする、する、 村も、 自分で、

2-187

tawası daujui əwəsi daujui tamı biisu," wəndini,
あっちへ 渡ったり こっちへ 渡ったり して いろ、」と 言う、

2-188

"bii əwəsi ñaalasımbı, ñaalasımbı," wəndini,
「私は ここを 捨てない、捨てない、」と 言う、

2-189

"min, min xar, amsalrı daarı xarsal xamı, daačan, daačanı," wəndiini,
「私の 父たちの、上の 人々の 故郷、 根拠地だ、」と 言う、

2-190

"əi, əi baa. ñaalamı ɣənəsımbı," wəndini. taraa tı,
「この、この 地は、捨てては 行かない、」と 言う。 それから その、

2-191

tı mun mərgəngupu-gdəl, taitı, məən, taitı daujui~, əiti daujui,
その 我らが ムルグンは、 向こうへ、自分が 向こうへ 渡り、 こっちへ 渡りする、

2-192

əi, əilə xar puləji bimi, tı bičiti. gəə, ələə.
この、ここに より長く いて、そうして 彼らは 暮らした。 さあ、 終わり。

1994年3月2日 ブラバ村にて録音
M. S. Duwan 氏 口述

3. amaanaa tælunguni
父たちの 言い伝え

3-001

gəə, buu əsi joombipu, amaanaa tælunguwəni.
さあ、私たちは今 思い出す、父たちの 言い伝えを。

3-002

amaanaa tælunguwəni joombipu.
父たちの 言い伝えを 思い出すと。

3-003

mæn sagdilbi, dičimbəni, səgbənjumi joombi-ta.
自分の 先祖たちが、やって来たことを、喜んで 思い出そう。

3-004

bii songoroo xodri ələ. gəə balanaa~biuxən, buu,
私は 泣いて 終えるだろう、今に。さあ 昔、 暮らしていた、私たちの、

3-005

gori baadu baldaxan, mun amımpu amını.
別の 地で 暮らしていた、私の 父の 父は。

3-006

mun amımpu, amnaam amını, gori baadu baldaxati.
私たちの 父の、父たちの 父は、別の 地に 暮らしていた。

3-007

tawanči tı dičiti, tı ərəkəjini, tı dičiti.
そこから そうして 彼らは来た、そうして ゆっくりと、そうして 来た。

3-008

xasu xurəəmbəni ŋaalamı dičiti-nuu, xasu namu ŋaalamı dičiti-nuu.
いくつの 山を 越えて (捨てて) 来たのか、いくつの 海を 越えて 来たのか。

3-009

tıwa ŋui-dəə saarasını. tı diməəri-dee~unaamba, um daaji,
それを 誰も 知らない。そうして 来て、 支流の川を、一つの 大きな、

3-010

um, tı unaamba, bakaxati. taraa daaji daama wəndini,
一つの、その 支流の川を 見つけた。それから 曾祖父が 言う、

3-011

gəə, moowa xooruksu, tes waamı xasta moowani xooroo,
「さあ、木を おまえたちは伐れ、とても 太い エゾマツの木を 伐ってから、

3-012

ugdaŋuŋi anjusu.” ugda
船を 作れ。」 船

3-013

”tı ugdaŋi, əi
「その 船で、この」

3-014

”mangu, mangu xəjə
「大河、大河へ 下る

3-015

gəə taraa tı g
さあ それから その 妻

3-016

tes largın gur
とても すぐれた 人々

3-017

ugda juul ugda a
船、二艘の 船を

3-018

juulbə anjuxan. tretij
二艘を作った。三、

3-019

xaulı mangu bakax
何とか大河を 見つけ

3-020

tı xəjəməəri t
そうして 下って

3-021

ŋu gasan-dəə biini-
人の 村も ある

3-022

bujumbə pokto,
クマを、その足跡を、

3-023

nu xoon, əsi ŋ
さあ どうする、今 行

3-024

gəə taraa mangu
さあ それから 大河を

3-012

ugdaǰuǰi anǰusu.” ugda anǰutɪ.
船を 作れ。」 船を 彼らは作った。

3-013

”tɪ ugdaǰɪ, ɔi unɪkɪ xɔi,” ɲɪ wənčini balanaa ɲɪ wənčini,
「その 船で、この 川に沿って 下る、」と 人が 言った、昔 人が 言った、

3-014

”mangu, mangu xəjəini, tɪla əurusu,” wəndini, ”tɪ ɲənəwu.”
「大河、大河へ下る、そこに 下りよ、」と 言う、 「そうして 行くべきだ、」と。

3-015

gəə taraa tɪ gursəl xai goro,
さあ それから その 者たちは どうして 長いこと (していようか)、

3-016

tes largɪn gursəl, xai tutɪ,
とても すぐれた 人々だ、どうして していよう、

3-017

ugda ǰuul ugda anǰuxan mooǰɪ, čupal anǰuxan. ələə xodaxaal.
船、 二艘の 船を 作った、木で、 すっかり 作った。 もう 終えた。

3-018

ǰuulbə anǰuxan. tretɪj, dui inəŋi-lə, uzhe tɪ unɪkɪ xɔi, mangu gələməəri.
二艘を 作った。 三、 四 日目には、もう その 川に沿って 下る、大河を 求めて。

3-019

xaulɪ mangu bakaxatɪ, ɔi mangowa. ɔi tɪ mangu xɔi xəjəi.
何とか 大河を 見つけた、この 大河を。 この、 そうして 大河を 下流へ 下る。

3-020

tɪ xəjəməəri tɪ, əuməəri əuxəəl.
そうして 下って そうして、下って 彼らは下った。

3-021

ɲɪ gasan-dəə biini-guni~ xamataa kəwə.
人の 村も あるのだ、何だっ て ない ことがあろうか。

3-022

bujumbə pokto, əuriiduǰɪ, naakɪ ɲəniwəni ičəxən.
クマを、その足跡を、 下りて行く時に、地面に 続いているのを見た。

3-023

nu xoon, ɔsi ɲəni dooloni, xoon waawu. barbar-guni.
さあ どうする、今 行く 途中で、どうして 獲れるだろうか。無理なのだ。

3-024

gəə taraa mangowa bakuxan-tan. mangowa bakaraa
さあ それから 大河を 見つけた。 大河を 見つけてから、

3-025

tii mangowa, tii xəjəsiti. ɪlaan ugda.
その大河を そうして 下る。 三艘の 船だ。

3-026

daai daama wəndini, "xaidu uləən mesto bakawu-nuu,
曾祖父が 言う、 「どこに 良い 場所が 見つけれられるだろうか、

3-027

xaidu uləən bəsumbə bakawu-nuu. xaila saara," wəndini.
どこに 良い 場所を 見つけれられるだろうか。どこから 知りえよう、」と 言う。

3-028

"suu mənə ičəməəri saarɪŋas-tani, mənə muruči məəri ɔtɪlɪlasi-ma,"
「お前達は 自分で 見て、 知る ように せよ、 自分で 考えて 理解するだろう、」と

3-029

wəndini. mangʊ dooni xai-daa, xai-daa gasan-daa kəwə, tii ərundu.
言う。 大河の 流域内には 何も、 何の 村も 無かった、その 頃。

3-030

xai-daa kəwə. bai, prostoj, xai-daa kəwə. ɲii gasan-daa kəwə xai-daa kəwə.
何も 無い。ただ、そのままで、何も 無い。人の 村も 無い、何も 無い。

3-031

diməəri xəjəməəri-dee, xaiwa, xabarovskawa ičəxən tii.
来て、 下って行って、あれを、ハバロフスクを 見た、そうして。

3-032

xabarovska, buri, gəlbuni buri-guni, mun naaɲdamɪ buri, xabarovska.
ハバロフスク、ブリ、その名前はブリなのだ、我ら ウルチャ語ではブリだ、ハバは。

3-033

"gə tɪla xaŋdisu. xaŋdamɪ tɪdu apɪɪsu."
「さあ、あそこに行つて停泊する。着岸して そこで 休む。」

3-034

xaŋdaxa~n, əɲuərəjixən, jəkpi, ɔrčʊlʊndɪ,
行つて着岸した、煮て料理した、食べた、話す、

3-035

məən dooloji pərgələiti, təjɪrəə-də. jədu omɪ baɪbaɪ-guni.
自分たちの 間で 話し合う、座ってだ。ここに 落ち着くのは 無理なのだ。

3-036

ɲii daai gasa ɲii anjumi. daai xotomba ɲii anjumi.
人は 大きい 村を 人は 作った。大きい 街を 人は 作った。

3-037

gə guči əwəsi ɲənəwu, tii ɲənəwu.
さあ また ここから 行くべきだ、そうして 行くべきだ。

3-038

gə tii xəjəməəri
さあ そうして 流れて

3-039

tii xəjiləni gasa,
そうして 下流に 村を

3-040

gə, tɪla guči xaa
さあ、そこにまた 行

3-041

daai daawon.
大きな 渦巻きが (ある

3-042

muu, pulsumi,
水の上を 行き来して、

3-043

tii saman gora,
あの シャーマン 山の

3-044

tes daai almi, pu
すごく 大きな 湖、その

3-045

tii pojoti, pojo
その 渦巻きへ、渦巻き

3-046

mama, mənɔ
帆船は 丸ごと (その中

3-047

gə taraa xoon e
さあ それから どうする

3-048

naawa bakawu
土地を 見つけれられ

3-049

diči gursəl bii-tan
誰か来た 者が いる

3-050

xəjəməəri kijiwa
下って行って キジ湖を

3-038

gəə tɪ xəjəmæəri tɪ-də. tɪ xəjəmæəri-dee,
さあ そうして 流れて そうして (行く)。そうして 下って行って、

3-039

tɪ xəjiləni gasa, bakaxatɪ, sapɪska-nuu, sapɪska-dəə bilə.
そうして 下流に 村を、見つけた、サフィースクか、サフィースクだろう。

3-040

gəə, tɪla guči xaŋdal-tan, tɪ naa duwəni, əi daawun,
さあ、そこに また 行って着岸した、その 地の 端に、 この 渦巻きが、

3-041

daar daawun. sapɪska taɪkɪnɪ tɪ.
大きな 渦巻きが (ある)。サフィースクの 向こうに、そうして。

3-042

muu, pulsumi, xairɪni, saman gora, xamɪ.
水の上を 行き来して、 どうする、シャーマンの 山の、あれだ。

3-043

tɪ saman gora, porondunɪ, alminɪ biini, daar almi.
あの シャーマン 山の 頂上に、 湖が ある、大きな 湖だ。

3-044

tes daar almi, puisɪ. manʃu maimanɪ, xamɪ xajʊnɪ, tɪ doolanɪ biini.
すごく 大きな 湖、 その下に。満州の 帆船が、何の 財宝が、その 中に あるのか。

3-045

tɪ pojotɪ, pojo kak raz tɪ pojowarɪ, bakaŋdaxatɪ,
その 渦巻きへ、渦巻き、ちょうど その 渦巻きを 行って見つけて、

3-046

mama, məŋdə iixəni. manʃu maimanɪ.
帆船は 丸ごと (その中へ) 入った。満州の 帆船は。

3-047

gəə taraa xoon. e~s, "gəə əsi guči xəjəŋjisɪ. ajapsɪ.
さあ それから どうする。 「さあ 今 再び おまえたちは下流へ流れよ。もういい。

3-048

naawa bakawu aja. ʃn-dəə biini-dəə-tənii. mun ʃulikən
土地を 見つけられれば よい。誰かが いるはずだ。我らの 前に

3-049

diči gursəl bii-tənii xar." gəə tɪ xəjəŋčini. tɪ
誰か来た 者が いるはずだ。」さあ そうして 再び下って行った。そうして

3-050

xəjəmæəri kijiwə baaxatɪ. kiji xurəəmbəni iči čakčaxaar biini.
下って行って キジ湖を見つけた。キジの 湖に ばったり出くわしたのである。

3-051

gəə kiʃi teelanɪ daawon, daaɪ daawon. tɪla xaaxan.
さあ キジの 向こうに 渦巻き、大きな 渦巻きが (ある)。そこに 着岸した。

3-052

gəə jədu omɪ-daa baɪbaɪ. "baɪbaɪ," wəndii, "ŋɪn gasandunɪ omɪ,
さあ ここに 定住することも ダメだ。「ダメだ、」と言う、「人の 村に 住むこと、

3-053

ʃiʃalaa baɪbaɪ." xəwən luntun daaɪ xəwən biini-guni, tawasi.
近いのは ダメだ。」 湖を まっすぐに、大きな 湖 なのだ、 そこへ。

3-054

xəwən daanɪ, kəwə xai... gəə tɪ ɲənəi.
湖の 湾、 じゃない、何だっけ、さあ そうして 行く。

3-055

guči tawanči guči, guči, guči xəjəŋdə-tən. xəjənčini,
再び そこから また、また、また 下っていくのだ。下って行った、

3-056

ŋɪn gasan tɪdu jədu um xagdu juu xagdu bii. nu xoonɪ tawu.
人の 村が あっち こっちに、一軒、二軒と ある。さあ どう すべきか。

3-057

tɪ xəjəmæəri-dee, kada, mun kada, tæti bii kada.
そうして 下って行って、カダ、我らのカダ、ほうれあそこにある カダだ。

3-058

tuwa, tuwa ičəxəti. tɪ um daaɪ mafa wəndini,
それを、それを 彼らは見た。その 一人の 偉大な おじいさんが 言う、

3-059

"tɪ min murundu xai-daa naambɪ gasan, xamaa,"
「あれは 私の 心に、 何とも 静かな 村だ、たぶん、」と

3-060

wəndini, "uləən." xəwən, luntun doobaanɪ xəwən, daaɪ xəwən.
言う、「良い。」 湖を まっすぐに 中の方へ、湖は、大きな 湖だ。

3-061

"tɪdu opɪ aja," wəndini. tɪdu ŋɪn, amban malxu,
「ここに 住むのが 良い、」と 言う。 ここに 人は、まあまあ 多い、

3-062

ŋɪn gasan amban malxu kadandu. taraa kadan baačanɪ,
人の 村は やや 多い、カダに。 それから カダの 島、

3-063

tɪla oŋdoxon. zemljanka anjuxatɪ-nuu xaɪxatɪ-nuu,
そこに 行って 住んだ。 半地下式の 家を 彼らは 作ったんだか、どうしたんだか。

3-064

tɪ xoonɪ-kaa bi
そうして どうにか 着

3-065

jələ, tɪla da
こっちへ そこに 彼ら

3-066

əsi-dəə biini bəsun,
今も ある、家を 建

3-067

gəə, tawudu~ tɪla
さあ それから、そこ

3-068

aunjui-nuu, moon
横になるのか、木も

3-069

gəə, tawudu~ kad
さあ、それから、カタ

3-070

"gəə," wəndini.
「ああ、」と 言う、

3-071

"ŋurwə saarasɪ g
「人間を 知らない者

3-072

"ŋɪn gasantɪni xə
「人の 村へ お客

3-073

"xai baajɪni di
「どの 土地から 来

3-074

"ŋɪn gasambanɪ ba
「人の 村を 見

3-075

ŋɪn biini osu ŋɪn
人が いるなら 人の

3-076

"gəə, bii sumba,
「さあ、私は おまえ

3-064

tɪ ʔooni-kaa bičiti-nuu, taraa kadandu, kadandu
そうして どうか 暮らしていた、それから カダに、 カダに、

3-065

jələ, tɪla dauxatɪ. əsi biiti, xai, bəsun biini.
こちへ そこに 彼らは渡って来た。今 彼らがいる、何だっけ、地所である。

3-066

əsi-dəə biini bəsun, mun amnaajɪ bičɪn bəsun.
今も ある、家を建てる土地、我らの 父さんたちが いた、地所だ。

3-067

gəə, tawudu~ tɪla xaŋdaxa~l, jəkpi, xodaxan, ʊrčʊlundɪ, jadaxan,
さあ それから、そこに行つて着岸した、食事した、終わった、話し合う、疲れた、

3-068

aunjuɪ-nuu, mooni-daa tes daaɪ uləən moo. largɪ xasta moo-guni.
横になるのか、木も すごく 大きい、良い 木だ。すばらしい エゾマツなのだ。

3-069

gəə, tawudu~ kadan dookɪni kadan dookɪni ʊm mapɪ xoolɪni.
さあ、それから、カダの中を、 カダの中を 一人のおじいさんが 歩き回っている。

3-070

''gəə, '' wəndini, ''ənəi-ə~ gursəlɓə, '' wəndini, ''suu-təmə, '' wəndini,
「ああ、」 と言う、「そこに行く者たちよ、」 と言う、「おまえたちは、」 と言う、

3-071

''ñu wə saarasɪ gursəl-nuu, ñu wə xairasɪ gursəl-nuu, '' wəndini.
「人間を 知らない者たちなのか、人間を 知らない者たちなのか、」 と言う。

3-072

''ñu gasantɪni xəčumi xairɪni tawu-kaa, '' wəndini.
「人の 村へ お客に行ったり 何したり すべきじゃないのか、」 と言う。

3-073

''xai baajɪni didiisi, xai baajɪni didii-dəə, ʊmutu-guni, '' wəndini,
「どこの 土地から 来たのか、どこの 土地から 来たって 同じなのだ、」 と言う、

3-074

''ñu gasambani bakaxan osɪni ñu gasan xəču wu,
「人の 村を 見つけた ならば、人の 村を 訪ねるべき、

3-075

ñu biini osɪni ñu jaraŋdawu. '' gəə, tɪ mapɪ wəndini,
人が いる なら 人の所へ 話をしに行くべきなのだ。」 さあ、その おじいさんは言う、

3-076

''gəə, bii sumbə, məəmbəəni gaajɪ, kada, kadambaan gaajɪ. ''
「さあ、私は おまえたちを、自分の所へ 連れて行く、カダ、カダの方へ 連れて行く。」

3-077

”gəə ɲənisu.” čupal təučiɣən, təučiɣən. kadambaani gaajuxan.
「さあ、おまえたちは行け。」全部 櫓に積んだ、積んだ。カダの方へ 連れて行った。

3-078

gəə, xagdun bəsuni bakawu əgdi aja. moo-daa tes malxu.
さあ、家を 建てるべき場所も 見つかる、たくさんだ、良い。木も すごく 多い。

3-079

xurəəndu bii xai, xooni bii moo. xagdumba anjumi ŋni bələčiini aja.
湖に ある、 どのような 木でも。家を 作るのに、人は 助けてくれる、良い。

3-080

xagdun-daa xagdumba anjui-dəə ŋni čupal bələčiini. manjui-daa əgdi.
家も、 家を 作るのも 人は 全部 助けてくれる。中国人も 多い。

3-081

gəə əsi xooni tawu. tu gaajuxan, taraa tu mapa wəndini,
さあ 今 どう すべき。そうして 連れて来た、それから その おじいさんは 言う、

3-082

”gəə jədu osuwu, jədu opuwu,” wəndini,
「さあ、ここに 住むべきだ、ここに 定住すべし、」と 言う、

3-083

”əsi ɲasɪ-tani,” wəndini, ”aja.” gəə tu bisi.
「今 住むが良い、」と 言う、「良い、」と。さあ そうして 暮らしている。

3-084

gəə, ələə ələə ələə ələə čupal xagdun bəsumbəni čupal anjuxan,
さあ、もう 今にも 今にも 全部の 家の 地所を 全部 作る、

3-085

čupal tikəni čupal nəxən. xasolta bimi ələə xagdu uzhe ələə xodi,
全部の 家の土台を 全部 据えた。何日か あって、今にも 家が、もう、もう 終わる、

3-086

naa xagdun, daai xagdun. juu bujumbə gurəə xupuwu tu doolani.
大地の 家、 大きな 家だ。二匹の クマが 自由に 遊べるくらいだ、その 中で。

3-087

min daambi ɣəlbuni dəən mafa. tu aaj, min aambi-daka,
私の 祖父の 名は ドゥーン じいさんだ。その 兄 (の方の子が)、私の 父だ、

3-088

nəudumə, mun pundaʃuʃi əgdi. duin-dəə, pundaʃuʃi.
妹たちの方、我らの 女の親戚は 多い。四人だ、女の親戚は。

3-089

gəə tu mafa wəndini, ”kadan bajan tu, kadan daaji bajan.”
さあ その おじいさんが 言う、「カダは 豊かなだ、カダは 大きくて 豊かだ、」と。

3-090

gəə, anjumi xodaxa
さあ、作り 終わっ

3-091

gəə ɲənu xəwəəmbə
さあ 行け、湖の方へ。

3-092

ɲənəxən əsi. ɲənəxən
行った、今。行った、

3-093

uzhe əiwə, bujumbə
もう これを、獣を

3-094

gəə əsi xooni, tu
さあ 今 どうする、ま

3-095

”buu sumbə
「我々は おまえたち

3-096

buu əsi, sumbə,
我々は 今、おまえたち

3-097

tu siumbə, um
その 火打石を、ある

3-098

anjumi tawuwaandɪ,
作って 火を熾す、

3-099

voɬ, duxa oɕuxan
ほれ、仲間と なった

3-100

sugdatani tes mab
魚も すごく 多い

3-101

tu bičin-guni. jə
ああ だったのだ。こ

3-102

gəə, min aagbi,
さあ、私の 伯父さん、

3-090

gəə, anjumi xodaxan. "gəə bujumbə waangdawu əsi, mapawa,
さあ、作り 終わった。「さあ 大型獣を 獲りに行くべきだ、今、クマを、

3-091

gəə nənəu xəwəəmbəəni. xəwəən kirakini pulsiini bujun mapa."
さあ 行け、湖の方へ。 湖の 縁に沿って 行き来している、獣や クマが。」

3-092

nənəxən əsi. nənəxən xai goroni, uručolonditi.
行った、今。行った、 どうして 遠いことなどだろう、 彼らは話し合う。

3-093

uzhe əiwə, bujumbə, tugbuxən, gaajuxan.
もう これを、獣を 倒した、 運んで来た。

3-094

gəə əsi xooni, tu mapa wəndini,
さあ 今 どうする、あの おじいさんは言う、

3-095

"buu sumbə əsi duxajuji Japaxan, xalajuji Japaxan.
「我々は おまえたちを 今 仲間として 迎えた、 親戚として 迎えた。

3-096

buu əsi, sumbə, uləənji balduji, largin, siun,
我々は 今、おまえたちを、 良く 暮らすように、 素敵に、 火打石、

3-097

tu siumbə, um siumbə, um siunji
その 火打石を、ある 火打石を、ある 火打石で、

3-098

anjumi tawowaandii, tu tawawa kap, tawa očowaandii."
作って 火を熾す、 その（二つの） 火を 一緒に、一つの火にするのだ。」

3-099

voŋ, duxa očuxan. ələə, agaa nəku-məč očuxati.
ほれ、仲間と なった。もう、 兄弟のように 彼らはなった。

3-100

sugdatani tes malxu~ nəpultə-dəə tes malxu. tu əi, əi jəki čupal
魚も すごく 多い、 毛皮獣も すごく 多い。 そうしてこの ここいら 一帯は

3-101

tu bičin-guni. jəki bai xurəən bičini-guni xai, əi-məč bičini.
ああ だったのだ。ここいらは 単なる 森 だったのだ、 このよう だった。

3-102

gəə, min aagbi, min amba agaa, wənditi, min ambi aganguni.
さあ、私の 伯父さん、私の アムバ 伯父さん、と人は呼んでいた、私の 父の 兄さんだ。

3-103

tii puræmbə tii pulikti, ulæn doolduksu.
その森を そうして 彼らは歩き回る、よく 聞けよ。

3-104

tii puræn puliktəwændee, tunja ŋii puliktəxəti.
その森を 歩き回らせていて、五人で 彼らは歩き回った。

3-105

tunja ŋii puliktəmi, um xai-kaa, namodu-nuu, solo... xai,
五人で 歩いていて、ある 何とかいう、海だか、 何だっけ、

3-106

tii namu gəlbuwəni oŋboxombi, oŋboxombi tii namu gəlbuwəni.
その海の 名前を 私は忘れた、私は忘れた、その海の 名前を。

3-107

min... min daambi, min daambi, giləmi æktəwəni bakaxani, asijoji.
私の、私の 祖父、私の 祖父は ギリヤークの 女を 得た、 自分の妻に。

3-108

adawu. adawu mama. tii bujumbə waari,
双子だ。双子の 妻たち。 そうして 獣を 狩りする、

3-109

mənə mamanguji gəsə pulsii-dəə, tii bujumbə waari, bičini,
自分の 妻と 一緒に 歩き回って、そうして 獣を 狩るの だった、

3-110

min daamanguji. giləmi baači, duomačumi,
私の 祖父は。 ギリヤークと 出会い、競争する、

3-111

naani ŋiŋwə dabdaxan. bujumbə meeutoči, ŋiŋwə dabdaxan.
彼は 人を 負かした。 獣を 撃つことで、 人を 負かした。

3-112

tes largiŋi bičini min daambi. voŋ, əsi tii min... amba agaa wəndini,
すごく すばらしかった、私の 祖父は。 ほれ、今 その 私の、アムバ 伯父さんが 言う、

3-113

"tii jiju," wəndini, goi namodu baldaxan, jijuxən.
「そうして 戻れ、」と 言う、 別の 海に 暮らしていた、戻って 来た。

3-114

gəə, təlungučini. "bii-kəə," wəndini, "um baadu aunjaxapu, tunja ŋii.
さあ、彼は 物語る。 「私は、」と 言う、 「ある 場所で 泊まった、五人で。

3-115

taraa tumai bii niəpəçindəmi ɣənəxəmbi," wəndini. "taraa
それから 次の日 私は 小便をしに 外へ出た、」と 言う。 「それから

3-116

min ɳəpəçidiuji
私が 外へ出ている時

3-117

naa paikta mənɣə
大地と 草が 一緒に

3-118

tii xəreliini, t
そうして 動く、そ

3-119

bargajraa, ɣənə
着直してから、行っ

3-120

tii paikta tee biini
その草は このよう

3-121

ɣui-dəə saarasi.
誰も 知らない。山

3-122

gəə, tii taw
さあ、そうして そ

3-123

"bii pərgii," t
「私は 試す、」と 王

3-124

taraa ɳda xalux
それから 犬を 繋い

3-125

xəmdə, xai doolani
懐、あの中には

3-126

tii diliwani,
犬の頭を (なでる)

3-127

ɳda waaçini-guni, v
犬が 吠えるのだ、

3-128

puñaam-guni, kəələw
速いのだ、俊足の

3-116

min ñəpəčiiduji təəsiiduji, metr, juu metrdu-kəə bičini-nuu.
私が 外へ出ている時に、座っている時に、メートル、 2 m ほどだったろうか、

3-117

naa paikta mənɔdə tɪ xərəliini, tɪ xərəliini, tɪ xərəliini,
大地と 草が 一緒に そうして 動く、 そうして 動く、そうして 動く、

3-118

tɪ xərəliini, tɪ xərəliini, tɪ. taraa čupal məəpi
そうして 動く、 そうして 動く、 そのように。それから すっかり 自分の身を

3-119

bargaŋiraa, ŋənərəə, daačakını, pəŋ, japaxanı.
着直してから、行ってから、その根っこから、ズボッと、抜き取った。

3-120

tɪ paikta tee biini, suakta. čaatumak kaatumak, xəmdəti ɣɪdalaxan.
その 草は このようだ、背の高い草だ。バサバサ、ボサボサと 懷に 差し込んだ。

3-121

ŋui-dəə saarası. əuŋuxən. aldačumı-daa kəwə, xaimı-daa kəwə.
誰も 知らない。山を下りてきた。(誰にも) 教えるも しない、何も しない。

3-122

gəə, tɪ tawanči tɪ jɪjuxən. gəə əsi xooni.
さあ、そうして そこから そうして 戻って来た。さあ 今 どうする。

3-123

''bii pərgii,'' tɪŋja ɪŋdawa japaraa ɣoi ɪŋdaŋi pərgii, tuə.
「私は 試す、」と 五匹の 犬を つかんで、別の 犬で 試す、冬だ。

3-124

taraa ɪŋda xalixan. xaliraa tuči japaxan, kaorin japaxan.
それから 犬を 繋いだ。繋いでから 轡をつかんだ、轡の制御棒をつかんだ。

3-125

xəmdə, xai doolani pası tɪ xai dooloni bičimbə, tuwa japaraa,
懷、 あの中には かけらが そうして あの中に あったのを、そいつをつかんで、

3-126

tɪ dıɪwani, tɪ tɪ tɪ, tɪŋja ɪŋda čupal buučixəti.
犬の 頭を (なでる)、そうしてそうしてそうして、五匹の 犬が 全部 遠吠えした。

3-127

ɪŋda waačımı-guni, wow wow xai..., xai. tučidu təəjuxən,
犬が 吠えるのだ、ワウワウ、 轡に 乗り直した、

3-128

puñaam-guni, kəələwə, tɪs kəələwə. xodon, xodon wəmbuwə.
速いのだ、 俊足の犬を、すごく 俊足の犬だ。ホドン、ホドンと言う。

3-129

gəə, taa xamas jijuxən, xamas jijuxən-tə xai, puñam jijuxəni.
さあ、そうして 元来た方へ 戻って来た、元来た方へ 戻って来た、高速で 戻って来た。

3-130

ələə čupal əñəə amaa čupal ačuktaxan, ıgda čupal uijuxən.
もう 皆 母親も 父親も (出迎えて)、全部 (狩りの服を) 脱いだ、犬を 全部 繫いだ。

3-131

gəə tidu wəndiini, "tı xodombo bakaxambı. bii
さあ そこで 彼は言う、「このようにして ホドン を 私は 見つけた、私は

3-132

tolčixambı," wəndiini, "naa əjəni buuxəni, xodon, naa əndurni buuxən."
夢を見た、」と 言う、「大地の 主が くれた、ホドン を、大地の 神が くれた、」と。

3-133

gəə tıjı buu əsi uləñji bii, largıñjı bii.
さあ これで 私たちは 今 良く 暮らしている、すてきに 暮らしている。

3-134

gəə tapı guči kadakaan, too duisi,
さあ しばらくして また 小さな崖の所で、 ほうれずっと 山の方の、

3-135

bogorodskoe tailanı kadakaan. tidu bujun xupiini.
ボゴロツコエの 向こうにある 小さな崖だ。そこで クマが 遊んでいる。

3-136

bujun xupiitini tıla ɣənəini. xası tunja ıgda.
クマが 遊んでいる所へ そこへ 行く (皆で 橇で 競争しながら)。 他にも 五匹の 犬だ。

3-137

ñı ıgdanı tıs malxon naambanı tı siimi,
他の人の 犬は すごく たくさんだ、彼の 橇を そうして 通り過ぎて、

3-138

tı ɣənəi. tujumbə anjuxan.
そうして (追い越して) 行く。御馳走を 作った。

3-139

dawaksañı anjuxan, əlbəə, doola xukurəə, tı olbıñm.
鮭の皮で 作った、帆布の 中に くるんで、そうして 持って来た。

3-140

ɣəə~ jukəən ɣənəini tı-gdala. čupal ñı čupal siixən.
さあ、ゆっくり 行く、そうして。他の 全員が 全部の 橇が 追い越し 通り過ぎて 行った。

3-141

əisi, mənə mudalañı, mənə mudala.
これは、自分で わざと 気取っているのだ、自分で 自惚れている。

3-142

taraa, kaurın,
それから、 制御棒を

3-143

ñoorom ıgdı
橇の 先頭の 犬の 所へ

3-144

xəmdə doolanı biči
懐の 中に あった

3-145

bəgdıwəni, xarw
その犬の 足を、 あれ

3-146

gəə, əsi təəndəjuxən
さあ、今 乗り直した

3-147

kaurımačıxan,
ブレーキを かけよう

3-148

too~ balanaa
ずっと 先の、 ずっと

3-149

čupal siixən.
全部 追い越した。

3-150

vot xodon
ほうれこれが ホドン

3-151

"əñəi-ə~ piktəji,
「あれあれ、息子よ、

3-152

sugdum biini,
まだ湯気が 立っている

3-153

xai, doroga warila ch
何、道中で 煮たのか

3-154

"kəwə~ jugduji na
「違うよ、家で 入

3-142

taraa, kaorin, gıdaluoxan, taraa ııda
それから、制御棒を刺して（櫓を止めた）、それから犬の、

3-143

ııoorom ııdatı ııənərəə, dılrwanı bulčini, tı aısı,
櫓の先頭の 犬の所へ 行ってから、その頭を なでた、そうして 金色の、

3-144

xəmdə doolanı biči jıparaa, suaktajı, tı bulčın, tı bulčın,
懐の 中に あったのを 取り出して、その草で、そうして なでた、そうして なでた、

3-145

bəgdiwəni, xarwanı čupal bulčın, tunja ııdawarı čupal-da.
その犬の足を、あれを 全部 なでた、五匹の 犬を 全部だ。

3-146

gəə, əsi təəndəjuxən, tučitıjı. sıla sıla təəndəjuxən,
さあ、今 乗り直した、自分の櫓へ。 やつとのことで 行って跳び乗った、

3-147

kaorımaçıxan, poııaam, xarı alını-kəə jıj jıj dəgdi umutu.
ブレーキをかけようとしたが、速い、 何とも 驚くべき、すごい、飛んでいるようだ。

3-148

too~ balanaa naambanı siixən gursəlbə čupal xarıpanjuxan
ずっと先の、ずっと前に 彼を 追い越した 人々 全部に 追いついた、

3-149

čupal siixən. uzhe kadakaantı tooxon.
全部 追い越した。 もう 小さな崖に 上った。

3-150

vot xodon. taraa daada əuxən, daajı daada.
ほうれこれが ホドンだ。それから 祖母が 出て来た、祖母だ。

3-151

”ənəi-ə~ piktəji,” wəndini. gəə, ııənəxən. əlbənə ačuxan, daada.
「あれあれ、息子よ、」 と言う。 さあ、行った。 帆布を 解いた、祖母は。

3-152

sugdum biini, ”anarı-a~, xarı pıktodu əııuərəjıxəsi.
まだ湯気が 立っている、「あらまあ、何！？ 来る道の途中で 煮たの？

3-153

xarı, doroga warıla chto l’.”
何、道中で 煮たのか？」

3-154

”kəwə~ jıgduji nəəxəti,” wəndini, sugdum.
「違うよ、家で 入れたんだよ、」 と言う、 まだ湯気が立っている。

3-155

”xoon tu, dičisi xar, muu umi-də kəwə xamı-daa kəwə.” usa.
 「どうやってそんなに速く、来れるのか、水も 飲まず、何もせずにか。」 さあね。

3-156

”əgəə, mindu biini,” wəndini. ”əndur buuxən, naa əndurni buuxəni.
 「姉さん、私にはあるんだ、」と 言う、 「神が くれた、大地の神が くれた。

3-157

gəlbuni, sinti gəlbuləwu-nuu, xoon tawu-nuu. xodon.
 その名を、あなたに 名を告げるべきか、どう しようか。ホドンだ。

3-158

dəgdəmi ɲəni-məəči bii, tamatamba bakaxatı.
 空を 飛んで行くかのような んだ、 そんなのを見つけた。

3-159

tu oxotamı bakaxatı. naa əjəni buuxəni. naa əjəni buuxəni.”
 ああして 狩りしていて 見つけた。大地の神が くれた。大地の神が くれた、」と。

3-160

tıjı largın bičiti-guni,
 これで すてきに 彼らは暮らしたのだ、

3-161

mun sagdılmı, buə manga xala. manga xala bičipu.
 我らが 祖先は、我らは 強い 氏族だ。強い 氏族 なのだ。

3-162

xar-daa təɲsiini gursəl bičipu buə, mun amnaamu.
 何にでも 打ち勝つ 者たち である、我々は、我らが 父たちは。

3-163

bii əsi əmkəə očuxambı, ɲui-də ɲui-də kəwə, xar-daa xar-daa kəwə.
 私は 今 たった一人に なってしまった、誰も、誰も いない、何も、何も 無い。

3-164

əgəə-də kəwə, nəku-də kəwə, xamatan-daa kəwə, čupal kəwə.
 姉さんも いない、弟妹も いない、どんな親族も いない、みんな いない。

3-165

umu, əmkəə očuxambı, tıtaraa tu. jadamı jaar,
 一人、一人きりに 私はなった、それから こうして。疲れながら 歌ったり、

3-166

dudəngijı duəɲii, soolıjı songrı, vot
 便利なので 縄を 綯ったり、豆の料理で 泣いたり、ほうれ

3-167

tu baldaxan, tu baldı, gəə ələə, əi təəlungu,
 そうして 暮らしてきた、そうして 暮らしている、さあ これまでだ、この 言い伝えは。

3-168

mun amnaamu bič
 我らが 父たちが 暮

3-169

vse, ələə.
 終わりだよ、もう。

3-168

mun amnaamu bičini tælunguni ələə, jələ duwəni.

我らが父たちが暮らしていた 言い伝えはもう、ここまででおしまいだ。

3-169

vse, ələə. oturtakan bii-dəə tes largi.

終わりだよ、もう。ほんの短いのだけれど、とても すてきな (言い伝えだ)。

1994年8月23日 ブラバ村にて録音

N. V. Munina 氏 口述

4. um gasan bičini

一つの 村が あった

4-001

gəə sorodee sɪsasali, əsi sunti wəndini, ŋɪmamba aldačɪni,
さあ こんにちは、日本人たちよ、今 あなたがたに 言う、昔話を 教える、

4-002

naaŋɪ əəktəni, mənɪna nina vasil'evna.
ウルチャの 女、ムニナ、ニーナ・ワシーリエブナが。

4-003

əi ŋɪma balaptɪ ŋɪma, balanaa~ biči ŋɪma.
この 物語は 古い 物語だ、長いこと あった 昔話だ。

4-004

daa~ xajɪlatee əsi-gdələ, um, gasan bičini.
ダー ハジラッテ、今、一つの 村が あった。

4-005

jiŋ daajɪ-də bisi, jiŋ ŋuučkə-də bisi.
そんなに 大きくもない、そんなに 小さくもない。

4-006

tɪ gasandu bičiti, čuu gasan doodoni, um xagdu bičini.
その 村に いた、一番 村の 真ん中の所に、一軒の 家が あった。

4-007

tɪ xagdondɪ bičiti, amɪni, əŋini, i čuu ŋuučkə piktəni, xusə piktə.
その 家に いた、父親と、母親と、それから 最も 小さな 子供、男の子だ。

4-008

tɪ bii~ tɪm, tɪ mapadu-ma tɪ bəičiŋdəsui~
そうしている、そうしておじいさんはそうして 狩りに行き来する、

4-009

tɪ bəičiŋdəmi tɪ tookpačɪ
そうして 狩りに行って。そうして いつも 山に上る、

4-010

tɪ tookpačɪ tɪ tookpačɪmi-dee~ məŋɪji gəsə tookpačɪluxan,
そうして 山に上る、そうして 上って、自分と 一緒に 上り始めた、

4-011

toobomi, sup orpičɪn tɪ xusə piktəji. tatučumi orpičɪni.
上らせる、いつも 連れて行った、その 男の 息子を。教えて 連れて行った。

4-012

gəə əmdə-gdə tɪm
さあ ある時 朝、

4-013

tookuxanji-gdə~
上ると、

4-014

xərə xərə bəičixən
少し 少し 狩りをし

4-015

daa~ xajɪlatee
ダー ハジラッテ

4-016

amɪni tolčičɪni,
父親は 夢を見る、

4-017

"gəə, mapa,"
「さあ、じいさん」

4-018

"sii, məŋɪji
「おまえは 自分の

4-019

xusə piktə jədu
息子は ここに、

4-020

"juəŋii gəsə
「二人で 一緒に 下

4-021

gəə əsi-gdələ, xos
さあ 今、ど

4-022

sənəgəə,
目が覚めてから、

4-023

"əsi xooni tawu.
「今 どう したら

4-024

juəŋii čupal əju
二人 一緒に 下り

4-012

gəə əmdə-gdə tımai, tookpačı piktəji juəñii, xusə piktə juəñii.
さあある時 朝、 上る、 子供と 二人で、 男の子供と 二人でだ。

4-013

tookuxanji-gda~ əsi-gdələ, tookuxa~n, apijıxan, jəkpı,
上ると、 今 上った、 休んだ、 食べた、

4-014

xərə xərə bəičixən xaıxan, siksəjuxən. taraa~ jəptərəə akpanjuxatı.
少し 少し 狩りをした、 ああした、 日が暮れた。 それから 食べてから 横になった。

4-015

daa~ xajılatee əsi-gdələ, tı aumaarı-dee aumaarı-dee~ əsi-gdə tı,
ダー ハジラッテー、 今、 そうして 寝ていて 寝ていて、 今 そうして、

4-016

amını tolčıını, daajı amba wəndini, naa ambanı wəndini,
父親は 夢を見る、 大きな トラが 言う、 大地の 主が 言う、

4-017

"gəə, mapa," wəndini, "əsi-kəə," wəndini,
「さあ、 じいさんよ、」 と言う、 「今、」 と言う、

4-018

"sii, məntiji əjuruu," wəndini. "əsi təpi, məntiji əjui,
「おまえは 自分の所へ 下りろ、」 と言う。 「今 起きたなら、 自分の所へ 下りる、

4-019

xusə piktə jədu ñaalı, mən əmkəə əjuxəri," wəndini.
息子は ここに、 置き去りにする、 自分一人で 下りろ、」 と言う。

4-020

"juəñii gəsə əjui si osını, sun juəñiiwə čupal jədu waarı-ja," wəndini.
「二人で 一緒に 下りる なら、 おまえたち 二人を 共に ここで 殺すぞ、」 と言う。

4-021

gəə əsi-gdələ, xoon tawu. mapa aumi-dee sənəxəni.
さあ 今、 どう すべきだろう。 おじいさんは 寝ていて、 目が覚めた。

4-022

sənərəə, muručini, "ənənə songopsı," muručini,
目が覚めてから、 考える、 「ああ、 泣けるなあ、」 と思う、

4-023

"əsi xoonı tawu. piktəji-dəə muñalsı, məpi-dəə muñalsı,
「今 どう したらいいのか。 息子も 大切だし、 我が身も 大切だし、

4-024

juəñii čupal əjuwu osını mumbə čupal waarı,"
二人 一緒に 下りる ならば 私たちを 共に 殺すというし、」

4-025

tami-dee muručixəni, "gəə xoon tisi, ñaalamı tən aja
 そうして考えた、「ああ どうしよう、置き去りにするのが 一番 良い、

4-026

piktəwə jədu. bučin osini-dəə, gıramsakaamba-gdəl tawučıŋdaŋula-ma," muručixəni.
 息子を ここに。死んだ なら、 骨を 拾いに来よう、と 考えた。

4-027

taraa, ərəkəə~ təxəni. daa~ xajilatee əsi-gdələ, təərəə, piktəji, alawusixanı,
 それから、静かに 起きた。ダー ハジラッテー、今、 起きて 自分の子に キスした、

4-028

dəragbəni ərəkəə ərəkəə ačıkılaxanı. taraa palantı ərəkəə nakanjı əurəə,
 その顔を そっと そっと なでた。 それから 床へ そっと オンドルから 下りてから、

4-029

učə ərəkəə~ somıraa, tı songomı tı əujuxən məəntiji.
 戸を 静かに 閉めて、そうして 泣きながら そうして 下りて来た、自分の家へ。

4-030

daa~ xajilatee əsi-gdələ tı əujumi-dee xagdu jıjalaa~ očını.
 ダー ハジラッテー、今 そうして 下りて行って 家が 近くに なってきた。

4-031

xagdu jıjalaa očinjı-gda, mamangunı, ñiəčəə kəwə.
 家が 近くになると、 おばあさんが 出て来た。

4-032

ñiəmi~ ačambumı toorını xaalı-da omoto.
 出て来て、出迎えようと 上って来る、いつもと同じだ。

4-033

gəə, əsi-gdələ, jıjalaa jıjalaa očını. mapa tı miəndini,
 さあ、今 より近くに 近くになった。おじいさんは ひどく うろたえる、

4-034

"ənənə~," muručini, "əsi xarwa wəmbu-nu, xoon tı wəmbu-nu,
 「ああ、と 考える、「今 何と 言うべきか、どう これを 話したらよいだろうか、

4-035

əsi piktəji gələjula-mə, piktəji paŋsıla-ma."
 今 自分の子を 求めるだろう、自分の子のことを 訊くだろう。」

4-036

gəə laŋ laŋ omı~ paŋsını, "gəə mapa, xaixan piktə.
 さあ 近くに 近くになって 訊く、「ああ、おじいさん、どうしたの、息子は。

4-037

xardu ñaalaxası. xoonı tamı əmkəə əujuxəsi. wənu."
 どこに 置いてきたの。どう して 一人で 下りてきたのか。言え。」

4-038

mapa xəmə
 おじいさんは 黙っ

4-039

"wənuruu, bala
 「言え、 すぐに」

4-040

mapa wənd
 おじいさんは 言う

4-041

"naa əjən daajı
 「大地の 主、 大い

4-042

"piktəji jədu
 「『息子を ここに 置

4-043

"juəñii əujuisi o
 『二人で 下りる な

4-044

taraa tı ña
 それから それで 下

4-045

muñalı~ piktəji~
 大事な 我が子よ、

4-046

piktə anaa xoon
 子供 無しで どうし

4-047

amba aŋmatını iŋ
 トラの 口へ 入

4-048

mama xoon
 おばあさんは どう

4-049

jugbaanı iŋjuxə~n
 家の方へ 入った、

4-050

gəə tı
 さあ、そのままに

4-038

mapa xəmə xəmə bii~ dılı pəisi tugbuxən.

おじいさんは黙って黙っている、頭を下へ垂れた。

4-039

''wənuruu, bala turgən wənuruu, xamı xəmə biisi, xamı ñaalaxası.''

「言え、すぐに早く言え、何で黙っているのか、何で置いてきたのか。」

4-040

mapa wəndini, ''gəə mama,'' wəndini, ''xooni tıs-kəə,'' wəndini,

おじいさんは言う、「ああ、ばあさんよ、」と言う、「どうしよう、」と言う、

4-041

''naa əjən daajı amba wənčini,'' wəndini, ''tolčıxambı,'' wəndini.

「大地の主、大いなるトラが言った、」と言う、「その夢を見た、」と言う。

4-042

''piktəji jədu ñaalasarı, əji əujurə, mənji gəsə, əmkəə əujusəri'-m-də.

『息子をここに置き去りにせよ、下りるな、自分と一緒に、一人で下りよ、』と。

4-043

''juəñii əjuisi osını sumbə čupal waajılambı gəsə jədu.'

『二人で下りるなら、おまえたちを全部殺すぞ、一緒にここで、』と。

4-044

taraa tı ñaalaxambı,'' wəndini. ''ənənə~ songopsı~ əjəjə~jəi,

それからそれで下りて来た、」と言う。「ああ、泣きたい、ああ、

4-045

muñalı~ piktəji~ əjəjə~jəi, xoon ačı-kaa~ jə~jə~jə~jəi,

大事な我が子よ、ああ、どうして耐えられよう、ああ、

4-046

piktə anaa xoon biwu-kəə muñalı~, gujala~ ə~iəi,

子供無しでどうして生きられよう、大事な(子よ)、可哀想に、ああ、

4-047

amba aŋmatını iijiləsi-ma-ı a~ıa~ıa~ıa~ı.'' tı songoxo~n

トラの口へ 入るんだろうか、あ~あ~あ~、」と そうして泣いた、

4-048

mama xoonı tısı əsi. taraa tı jıgbaanı iijuxəti.

おばあさんは どうする、今。それから そうして家の方へ 入った。

4-049

jıgbaanı iijuxə~n, tı bičın, jıgdu tı biiti.

家の方へ 入った、そうしていた、家に そうして いる。

4-050

gəə tı bijiini əi.

さあ、そのままにしておこう、これは。

4-051

əsi-gdə duişi tookpačisu. gəə duilə-gdə~ tui piktə-gdə tui
今 山の方へ上って見てみよう。さあ、山の方では、その子供は そうして

4-052

aurii~ ambı əjuxən tui aurii
寝ている、父は 下りてしまったのに そうして 寝ている、

4-053

tui aurii, tui aumi-dee~ sənəxəni. isal ɲiixən.
そうして 寝ている、そうして 寝ていて、目が覚めた。目を開いた。

4-054

xawasi-dəə ičini-dəə čupal paktuli, oi ɲəəgǰəə~n xawasi-daa ičini-dəə
どっちを 見ても、全て 明るい、どっちを 見ても

4-055

čupal ɲəəgǰəən, amıni kəwə, tartı əiti ičəjini amıni kəwə.
すっかり 明るい、父さんが いない、あっちへ こっちへと 見るが、父さんは いない。

4-056

”xoonı tawu əsi, ənənə.” palantı pučumi əučəə,
「どう しよう、今、ああ。」 床へ 跳んで 下りて、

4-057

nakanji palantı pučumi əumi učəwə-gdə tas baasalačəə kəwə.
オンドルから 床へ 跳んで 下りて、戸を バンツと 蹴っ飛ばした。

4-058

učəwə baasalami baatı tutulixən. baatı tutulirəə ambı ičəjəini,
戸を 蹴っ飛ばして 外へ 走り出した。外へ 走り出して よく 見る、

4-059

duişi ičəi, waişi ičəi xawasi ičəini-dəə amıni kəwə.
山の方を 見る、川の方を 見る、どっちを 見ても 父さんは いない。

4-060

”ənənə songopsı,” muručiini, ”xoonı tawu-kəə,
「ああ、泣きたいなあ、」と 思う、「どう しよう、

4-061

əsi bii xoonı biwu-kəə, amaa mimbə xamı ɲaalaxan-kəə~
今 ボクは どう すべきだろうか、父さん、ボクを なんて 置き去りにしたのか、

4-062

ənənə xam ɲaalaxan-kəə xoonı tawu-kəə.” xaması iijuxən Jugbaani.
ああ なんて 置き去りにしたのか、どう しよう。」 元来た方へ 入った、家の方へ。

4-063

iijurəə, čarkaamba xuldurəə, čar umoraa, daa xajilatee əsi-gdələ
入ってから、お茶を 沸かして、お茶を 飲んでから、ダーハジラッテー、今

4-064

xaması ɲəəjuxən
逆に また外へ出

4-065

tulidu~ ilsumi-dee
中庭に 立っていて

4-066

daaji amban isarɲi
大きなトラ、その

4-067

tui piktə-gdə čupa
その子供は すっ

4-068

xoonı tawu-kaa xoonı
どう しよう、どう

4-069

tami-gda tui piktə
そうして その子供

4-070

moobaanı čapakčaku
木の方へ 爪を引っ

4-071

um garatı il,
また一本の枝へ 立

4-072

tıdu~ ičəjəini. amba
そこで 見る。トラ

4-073

moobaanı didəçəə ta
木の方へ 来てからそ

4-074

tui gara-gda bu
そうして 枝を い

4-075

piktə muručiini, ”əsi
子供は 考える、「今

4-076

gəə taraa-gda əsi-gdə,
さあそれから 今、

4-064

xaması ñəǵuxən ñəərəə~ tui əsi-gdə, tulidu~ ɪlsɪɪ.
逆に また外へ出た、出てから、そして今、 中庭に 立っている。

4-065

tulidu~ ɪlsɪɪ-dee ičəini, anajee~ moo dooǵɪɪ-də əsi-gdələ agbundaraa
中庭に 立っていて見る、 ああ、 木の中から 今、 現れる、

4-066

daajɪ amban ɪsaɳɪ iɣərə~, iktəni jaajə tɪs ɲələpsuli.
大きなトラ、その目は 灯りのようで、歯を むき出した、 すごく 恐ろしい。

4-067

tui piktə-gdə čupal siǵɪluxəni, "xoonɪ tawu-kaa əsi ənənə~,
その 子供は すっかり 震え出した、「どう しよう、今 ああ、

4-068

xoonɪ tawu-kaa xoonɪ tawu-kaa," muručini,
どう しよう、 どう しよう、」と 思う、

4-069

tamɪ-gdə tui piktə-gdə tutulis-kəə too moobaani tutulumi-gdə
そして その 子供は 走り出した、 ほうれあの 木の方へ 走って、

4-070

moobaani čapakčaku~ toororoo əsi-gdələ garatɪ, gara, um garatɪ ɪɪ
木の方へ 爪を引っ掛けて よじ登って、 今 枝へ、枝、一本の 枝へ 立ち、

4-071

um garatɪ ɪɪ, xaulɪ xaulɪ moo porontɪni tookuxani.
また一本の 枝へ 立ち、 なんとか なんとかして 木の てっぺんへ 上った。

4-072

tɪdu~ ičəjəini. amba-gdə əsi-gdə naatɪ ɪsɪɳdaraa ɪsɪɳdaraa didərəə,
そこで 見る。トラは 今 下の地面の所へ 着いて、着いて、来てから

4-073

moobaani didərəə tamɪ ǵɪɲ ǵɪɲ moobaani-də toororoo kaaparɪ~
木の方へ 来てから そして、さあなんと 木の方へ 登り出して、バキバキと、

4-074

tui gara-gdə bujaačɪɪni əsi-gdə əsi-gdə, "xoonɪ tawu ənənə,"
そして 枝を いくつも折る、今、 今、 「どう しよう、ああ、」と

4-075

piktə muručini, "əsi xoonɪ tawu, mimbə ələ ələ ǵəptiini əsi.
子供は 考える、「今 どう しよう、ボクを 今にも もう 食べてしまう、 今。

4-076

gəə taraa-gdə əsi-gdə, um moo garatɪni tooxon, tui-gdə ǵuəl,
さあそれから今、 一本の 木の 枝へ 登った、そして 二本の、

4-077

juəl gara aldandulanı lakpaxan tı amba. tiŋ tiŋ taaxanı.
 二本の枝の間に ひっかかった、そのトラは。ガッチリと ひっかかった。

4-078

xooni-dəə tamı-dəə mutəsini. xooni-dəə əujumi-dəə mutəsini,
 どうにも しょうにも できない。どうにも 下りようにも できない、

4-079

xooni-dəə palan... xamı-daa mutəsini naabaanı əujumi-dəə mutəsini xooni-dəə tamı.
 どうにも、 どうしても できない、地面に 下りようにも できない、どう しても。

4-080

taraa tı piktə-gdəl taja kaltaajı tı garakı xaulı~ əujumi,
 それから その 子供は 向こうの側から、その枝に沿って 何とかして 下りて、

4-081

gəə~ ənənə galatanı xoon tı turgən mən,
 さあ、ああ、まあなんと、 どんなにか そうすばやく 自分の、

4-082

tučəjuxanı tı mən xangutıjı, aonjatıjı.
 逃げ戻った、 その 自分の あれへ、 小屋へ。

4-083

xəxəxəxəxə jadaxan tı piktə tes ɲələxəni tes siljundini.
 ハアハアハアハアと 疲れた、その 子供は ひどく 怖れた、 ひどく 震える。

4-084

taraa əsi-gdələ, čarkaamba umuraa tı akpanjuxan, tı amba-gdəl
 それから 今、 お茶を 飲んでから そうして 横になった、その トラは

4-085

tı moodu teŋ teŋ lakparaa tıdu tı biini.
 そうして 木に ガッチリ ガッチリと ひっかかって そこに そうして いる。

4-086

aumi-dee~ tolčičımi. tı amba wəndini, "gəə~ nəku, gujələsuruu,"
 寝ると、 夢を見る。そのトラが言う、「ああ、おまえ、憐れんでくれ、」と

4-087

wəndini, "bii simbə waarčaxambı xangısı oçuxa~n," wəndini,
 言う、「私は おまをを 殺そうとしたが、全然違うはめになった、」と 言う、

4-088

"əsi. bii simbə waarčaxan. bii teŋ teŋ jədu taaxan.
 「今。私は おまをを 殺そうとしたが。私は ガッチリと ここに ひっかかった。

4-089

tookuu," wəndini, "əsi. əi moowa xoŋkaa~n-dəə xoosori," wəndini,
 来い、」と 言う、「今。この 木を 何とかして 伐れ、」と 言う、

4-090

"mimbə xorısarı,"
 「私を 救え、」と

4-091

"bii simbə,
 「私は おまえに、」

4-092

xamatan-dəə buju
 どんなのでも 大型

4-093

tı piktə-gdə~l tı
 その 子供は

4-094

sakpimbə Japaraa
 斧を つかんで

4-095

tımar dəruuxənji
 朝に 始めてから、

4-096

tı moowa. les
 その 木を。 ドタン

4-097

ambanı-dəə gəsə
 トラも 一緒に

4-098

jadaxanı-gumi tı
 疲れたのだ、ああ

4-099

taraa ılıraa
 それから 立ってから

4-100

tartı ičəjii, əiti
 あつちを見、 こつ

4-101

daa xajılatee, ...
 ダー ハジラッテー、

4-102

tıdu tı ısu
 そこに そうして 立

4-090

"mimbə xorisari," wəndini. "tu tapı-kaa," wəndini,
「私を 救え、」と 言う。 「そうしたならば、」と 言う、

4-091

"bii simbə, sindu xamatan-dəə nəpultuwə,
「私は おまえに、 おまえに どんなのでも 毛皮獣を、

4-092

xamatan-dəə bujumbə xamatan-dəə xarwa čupal buuktiləmbi," wəndini.
どんなのでも 大型獣を、どんなのでも あれを 全部 与えよう、」と 言う。

4-093

tu piktə-gdə~l tımar təəxənji-gdə tu moobaani, tutuluɣən,
その 子供は 朝 起きるとすぐに その 木の方へ、駆け出した、

4-094

sakpimbə ɟaparaa ɲənəxəni, tutuluɣəni, tu moowa-gda xooxoni, xooxoni.
斧を つかんで 行った、走り出した、その 木を 切った、切った。

4-095

tımar dəruuxənji siksədələ~xoomi xəəpə~ sɪla sɪla tugbuxən
朝に 始めてから、夕方まで、切って、ハアハアと、やっとのことで 倒した、

4-096

tu moowa. les tugbuxən tu moo, tu moo tukijini gəsə tu,
その 木を。 ドタンと 倒した、その 木を、その 木が 倒れるやいなやその、

4-097

ambani-dəə gəsə les, xəəpə~ xəəpə sɪla sɪla~ əərsilɣən.
トラも 一緒に ドサンと、ヒイヒイ ヒイヒイと やっとのことで 息をしていた。

4-098

ɟadaxani-guni tu taraa taraa bičın tu, garadu.
疲れたのだ、ああ してから ああしてから いた、そうして 枝の上に。

4-099

taraa ɪlraa tawasi əwəsi ləŋgə ləŋgə ɪlsɪraa
それから 立ってから あっちへ こっちへと フラフラしながら 立っていて、

4-100

tartı ičəji, əiti ičəji, piktəti ičəji. tamı-dee əsi-gdələ,
あっちを見、 こっちを見、 子供の方を見た。 そうして 今、

4-101

daa xajılatee, ... daa xajılatee əsi-gdələ tu piktə-gdəl taraa-gdəl,
ダー ハジラッテー、ダー ハジラッテー、今 そうして 子供を 見てから、

4-102

tıdu tu ɪlsı tu amba-gdəl ərkə~ ərkə tes ɟadaxan
そこに そうして 立っている、その トラは ゆっくり ゆっくり、ひどく 疲れた、

4-103

moo dootini xəpəpə xəpəpə xəpəpə əərsumi sɪla sɪla
森の中へ、ヒーハーヒーハーヒーハー息をしながら どうか こうにか

4-104

iijuxən, jukə jukə gɪrawčini, tes jadaxan. tɪ piktə-gdə
入って行った、やっとのことで歩いている、ひどく 疲れた。その 子供は

4-105

taraa məəntiji ɲənuxə~n, mənə əunɟatɪ ɲənuxən ʃəbdii əñuəɾəjuxən,
それから 自分の所へ 戻った、 自分の 小屋へ 戻った、 食事を 煮た、

4-106

ʃəkpɪn, akpančɪn, aumi-dee guči tolčičini. "gəə~nəku," wəndini,
食べた、横になった、寝ていて また 夢を見た。「ああ、おまえよ、」と 言う、

4-107

"kəsi, banxa," wəndini, "sii mimbə xorɪxasi. tumana təpi-kəə,"
「どうも、ありがとう、」と 言う、「おまえは 私を 救った。明日 起きたなら、」と

4-108

wəndini, "bəičikuwə teečisari," wəndini, "xakɪ-dəə xum."
言う、「自動弓を たくさん仕掛けろ、」と 言う、「そこいら中 全てに。」

4-109

taraa wagbangɪ təturəə, wagbangɪjɪ simata ojokɪ ɲaalajɪ,
それから 手袋を 身につけて、手袋で 雪を その上を、手で、

4-110

xaisɪ tirənsirəə tasari," wəndini.
さらに 押さえつけたり しろ (人の匂いがしないように、)と 言う。

4-111

gəə tɪmai təərəə tɪ piktə-gdələ, ɲənərəə bəičikuwə,
さあ 次の日に 起きてから その 子供は、 行って 自動弓を、

4-112

teečiraa naanɪ wəndini-məət-lə wagbangɪ təturəə,
仕掛けてから、彼が 言うとおりに 手袋を つけてから、

4-113

wagbangɪjɪ simatasalba xərə xərə tirənsirəə tɪ jɪjuxən.
手袋で 雪を 少し 少し 被せて押さえてから そうして 戻って来た。

4-114

tɪ əunɟaxan. tɪmai təəxənɟiji-gdə~l əsi-gdəl, ičəŋdəjuxən
そうして また寝た。次の日に 起きると 今、 見に行った、

4-115

tɪ bəičikusəlbə. tes, tučuxəti. tɪ bəičikudu
その 自動弓たちを。たくさん、かかっていた。 その 自動弓に、

4-116

jɪŋ jɪŋ~ səpə
すごい、クロテン

4-117

čəpal tɪwa tauču
全部 それを 集め

4-118

aja. čəpal, xam
良い。全部、あ

4-119

inəŋ inəŋ tɪ
毎日 毎日 そうし

4-120

piktə jədu tɪ
子供は ここに そ

4-121

daa xajɪlatɪ
ダー ハジラッテ

4-122

əsi gəə xoon taw
今 さあ どう すべ

4-123

bučɪn osɪn-dəə
死んだのなら

4-124

gɪramsani-dəə ba
骨でも 見

4-125

wəndini mama,
言う、 おばあさ

4-126

"bučɪn osɪn-dəə
「死んだとしても

4-127

bagda čəpal bargaj
喪服を 全部 着て、

4-128

anaə~ əunɟa jɪ
ああ、 小屋が 近

4-116

jɪŋ jɪŋ~ səəpə tɛŋ tɛŋ aja bəiçiku taundoni čupal biini.
すごい、クロテンが たっぷり、よい、自動弓 ごとに 全部 ある。

4-117

čupal tɪwa taučujuxan japaɟuxani~, čupal gaajuxani, mæn aonɟati gaɟoraa
全部 それを 集めた、 取った、 全部 持って来た、自分の 小屋へ 持って来たら、

4-118

aja. čupal, xarraa čupal lokočixani. tes baaračini tɪ piktə.
良い。全部、ああしてから 全部 掛けた。 すごく 喜んだ、その 子供は。

4-119

inəŋ inəŋ tɪ waaxani, inəŋ inəŋ tɪ, tɪ-məəçilə bəiçixəni. gəə əi, əi
毎日 毎日 そうして 獲った、毎日 毎日 そんな風に 狩りした。さあ この、

4-120

piktə jədu tɪ biɟini. əsi-gdəl waisɪ əuɟuisu, amatini.
子供はここに そうして おこう。今 川の方へ 下りて見てみよう。その父の所へ。

4-121

daa xajɪlatɪ əsi-gdələ amini-daa~ əsi onɟibusɪ
ダー ハジラッテー、今 その父親は 今 忘れようはずもない、

4-122

əsi gəə xoon tawu. toomi-təŋ aja-guni,
今 さあ どう すべきか。上ってこそ よいのだ、

4-123

bučɪn osini-dəə ɡɪramsakaambani-dəə əuɟilə-mə.
死んだのなら 少しの骨でも 持って下ろして来よう。

4-124

ɡɪramsani-dəə bakui-nuu xooni tai-nuu. "gəə tooroo,"
骨でも 見つけるだろうか、どう するだろうか。「さあ、上れ、」と

4-125

wəndini mama, "xoon tɪs-kəə," wəndini,
言う、 おばあさんは。「どう するのか、」と 言う、

4-126

"bučɪn osini-dəə ɡɪramsawani tooboɟui, əuɟuləsi-mə," wəndini.
「死んだとしても 骨を 上って、持って下りて来るでしょう、」と 言う。

4-127

bagda čupal bargajuraa~ sultajɪ tətɟurəə guči tɪ tookui tɪ tookui tɪ tookui.
喪服を 全部 着て、 スキーを 履いて、また そう 上る、そう 上る、そう 上る。

4-128

anace~ aonɟa ɟɟalaa~ om-dɪ ičəxən. puɟari~ puɟari~ tɪ saŋɲa.
ああ、 小屋が 近くに になると 見た。 モクモク、モクモクと そのようだ、煙が。

4-129

"ənənə," muručiiini, "ujun-tənii," wəndini,
 「あれ、」と 思う、 「生きているんじゃないか、」と 言う、

4-130

"min piktə," muručiiini, əmkəə-dəə aṇmakı-dəə wəndii,
 「私の 息子は、」と 考える、 一人でも 口の中で 言う、

4-131

"bučini bimčən xai saṇña ui waačımı-kəə,"
 「死んだの だったら、 何で 煙が、 誰が 火を 焚いているのか、」と

4-132

wəndini. "piktə, ujun bilə," wəndini.
 言う。 「我が子は、 生きているの だろう、」と 言う。

4-133

"ujun bilə," wəndini. turgən tii aunjabaanı ḡəṇəxəni,
 「生きているの だろう、」と 言う。 急いで そうして 小屋の方へ 行った、

4-134

turgən ḡəṇəmi učəwə ṇiixəni. piktə nakandu~ təəsumi~ biini.
 急いで 行って 戸を 開いた。 子供が オンドルに 座って、 いる。

4-135

piktəni-dəə ambı ičəmi tutulixəni jıṇ jıṇ naamaṇdaxanı,
 子供も 自分の父を 見て 走って来た、 強く 行って抱きしめた。

4-136

monggokını naamančını alaıxatı songoxotı baaračumaarı.
 首に 抱きついて キスした、 泣いた、 喜んで。

4-137

piktə əsi-gdə amtıjı čupal aldačıxanı xai-daa xoonı-daa bičimbəni~
 子供は 今 父親へ 全部 説明した、 何でも どんな風 だったのかを。

4-138

xai-daa xoonı-daa taxambanı xai, amba xoonı-daa naambanı taxambanı
 何でも どんな風に したのかを、 トラが どのように 彼に したのかを、

4-139

xoonı-daa moolo taaxambanı xoonı-daa taxambanı čupal.
 どのように 木に ひっかかったのかを、 どのように したのかを、 全て。

4-140

amını-gda~ ičini aunjə xəə~lum tes lokoočıxanı səpəsəlbə
 父が 見るに、 小屋は ああ、 ぐるりと たくさん 掛けてあった、 クロテンたちを、

4-141

xamata xaisalba nəpultəsəlbə tes lokoočıxanı.
 いかなる あれを、 毛皮獣たちをも たくさん 掛けてあった。

4-142

taraa~ əsi-gdə
 それから 今

4-143

tis təučin
 たっぷりと 積ん

4-144

məənbəəni tu
 自分らの方へ そ

4-145

ənini tis baara
 母は すごく 喜ん

4-142

taraa~ əsi-gdəl juəñii-gdə tiwa-gdə čopal tučitiŋi təučuxəti.

それから今 二人は それを 全部 自分らの櫓へ積んだ。

4-143

tis təučirəə čopal kataračiraa ti waisi əujuxəti.

たつぷりと積んでから、全部 縛り付けてから そうして 川の方へ 下りて行った。

4-144

məənbəəni ti pulməməəri ti əujuxəti.

自分らの方へ そうして 歩いて そうして 下りて行った。

4-145

ənini tis baaračixan, ti bajaamaari ti biiti, gə ələə.

母は すごく 喜んだ、 そうして 裕福に そうして 暮らす、 さあ 終わり。

1994年8月23日 ブラバ村にて録音

N. V. Munina 氏 口述

5. um bujun pulsini

一頭のクマが 行き来している

5-001

daa~ xajlati~ əsi-gdələ, əmdə-gdə~l um bujun-gdə~l um,
ダー ハジラッテ、今、 ある時 一頭のクマが、 一頭、

5-002

tawası ɣəni əwəsi ɣəni, moo dookını apijumı~ pulsini.
あっちへ 行き、こっちへ 行き、木々の間で 休み、 行き来している。

5-003

tı pulsumi-dee~ əsi-gdə um oonjotı əuxən.
そうして 行き来していて、今 ある 入り江に 下りた。

5-004

daa~ xajlati əsi-gdəl tı oonjodu-gdə~l muu umıgdaxan.
ダー ハジラッテ、今 その 入り江に 水を 飲みに行った。

5-005

tı ilsum-dee~ muručiini, ''ənənə~ jədu apıju-nuu~,
そうして 立っていて 考える、「ああ、ここで 休むべきかなあ、

5-006

duisi tookuraa guči moo dookını-kəə pulsu-nuu~,
山の方へ 上って また 木の中を 歩き回るべきかなあ、

5-007

moo dookını apijumı pulsu-nuu, xəɾə nəwə.
木の中を 休みながら 歩き回っているべきかなあ、少し 風が無くて静かな様子だ、

5-008

jədu-kəə muuwə umumı-kəə ilsu-nuu, muručiini.
ここで 水を 飲んで 立っているべきかなあ、と 考えている。

5-009

anai-a, tı muručiini-dee ičini, um xango-gdə~l pučunusini,
あれあれ、そうして 考えていると 見る、一匹のフナが 何度もとびはねる、

5-010

čəpak čəpak tıla puči jələ puči agbunjui, iijui tını.
パチャパチャと そっちで とびはね、こっちで とびはねて、現れたり、潜ったり する。

5-011

tamı-gdə tı bujun-dəə əsi-gdə tı xanguwa nəə waaičamı xasasını,
それで そのクマも 今 その フナを 今にも 捕ろうと 追いかける、

5-012

čəpak čəpak
パチャ パチャと

5-013

pulsini, xasası
行き来する、追う、

5-014

muubəəni purunə
水の中へ 潜った

5-015

''xoonı tawu ə
「どう しよう、今

5-016

tı tısnı,
こうして 奥へ歩く

5-017

əiti ɣəni, taw
こっちへ 行き、あ

5-018

daa~ xajlati
ダー ハジラッテ、

5-019

tı jəbudoji-d
そうして 苦勞して

5-020

um soogjo sulı,
一匹の 黄色い キツネ

5-021

sulı xəčm
キツネの 性格とい

5-022

xarwa tısnı,
何を しているのか、

5-023

''ənənə~ jədu b
「ああ、ここで、毛

5-024

xoonı-daa~ waaičamı
どうにも 捕ろうと

5-012

čapak čapak muubəəni tısaxanı, tawası əwəsi tı muudu.
バチャ バチャと 水の方へ 岸から離れて行った、あっち こっち、その 水の所で。

5-013

pulsini, xasasını, tı xangu-gda čup iijui~, agbunjui
行き来する、追う、その フナは ポチャンと 入ったり、現れたり、

5-014

muubəəni purunəsini.
水の中へ 潜ったりする。

5-015

”xoonr tawu əsi, ənənə~ xoon-dəə tıčımı-dəə, tı muuwəni-dəə
「どう しょう、今、ああ どうにかしたいけれど、この 水を

5-016

tı tısi, guči xaması, xangu-gdu tıla pučuıui,
こうして 奥へ歩くと、また 逆方向へ、フナは あっちで とびはねると、

5-017

əiti ɣəni, tawası ɣəni tı xai pučunəsimi ɣəni muu dookını.
こっちへ 行き、あっちへ 行き する、何度もとびはねて 行く、水の中を。

5-018

daa~ xajılatı əsi-gdəl, an tı jəbu tı jəbu,
ダー ハジラッテー、今、 とても そうして 苦勞する、そうして 苦勞していると、

5-019

tı jəbıduji-dəə ičini, duijə~, um sulı əurərəə-kəə
そうして 苦勞している時に見る、山の方の側を、一匹の キツネが 下りてきて、

5-020

um soogjo sulı, tartı iči, əiti iči, kət busəwu.
一匹の 黄色い キツネだ、あっちを見たり、こっちを見たりして、ひどく 気まぐれだ。

5-021

sulı xacım tı biini-guni. ”gəə bujun,
キツネの 性格というのはそういうものである。「ああ、クマよ、

5-022

xarwa tısi, xarwa tamı jədu ılsısı sii-jə,” paɣsını.
何を しているのか、どう してここに 立っているのか、おまえは、」と 訊く。

5-023

”ənənə~ jədu bii jədu um xangu ičəxəmbi
「ああ、ここで、私はここで 一匹の フナを 見たが、

5-024

xoonı-daa~ waarčamı mutəəsımbi. tı xasası-a~ tartı əiti,
どうにも 捕ろうとして できないのだ、そうして 追っている、あっちへ こっちへ、

5-025

min, tiipak xərljuduji-məl naanı too~ tıla agbunjui,
私が やっと あちこち回って行く間に、ヤツは ずっと あっちに また現れる、

5-026

too~ tıla agbunjui tını, ənənə~ galatani xoon ti, xoon ti,
ずっと 向こうに 現れたり する、ああ、 もう 何とも、どう しよう どう しよう、

5-027

xoon ti tawu xoon ti, xoon-dəə waaičamı mutəəsımbi.
どう しよう、どう するのか、 どうにも 捕ろうにも できないんだよ。

5-028

jeptičəmi muručii-guni tı xanguwa xooni-dəə~ mutəjusımbi.”
食べようと 思っているんだが、その フナを どうにも できない。」

5-029

sulı wəndini sulı, ”gə əjənə əjənə əjənə əjənə aja,
キツネは 言う、 キツネは、 「ああ、 待て 待て 待て 待て、大丈夫、

5-030

bii joombuxambı əsi, gəə bujun, sii əsi, sapsı kiraadunı, oonjo,
私は 考えついた、今、 さあ クマよ、おまえは 今、 川の 岸边に、 入り江の

5-031

kiraadunı ılıraa, tı muuwə-gdə~l oonjo muuwəni čupa~l umıs-kəə gəə.
岸边に 立って、その 水を、 入り江の 水を 全部 飲んだら よい。

5-032

tıtapı-gdəl bii-gdəl tı sulıwa, waaşıla-ma, tıtapı juəñii borılap-ma.”
そうしたら 私が その フナを、捕まえよう、そうしたら 二人で 分けよう。」

5-033

”gəə jəbə jəbə~, joombuxası uləən-guni gəə əsi juəñii, gəə pərgisu,
「おお、よしよし、 おまえの思いつきは 良いぞ、 さあ 今 二人で、 さあ 試そう、

5-034

bii əsi muuwə umıı, tı muuwə čupal umıı, taraa sii-gdəl xarıı
オレが 今 水を 飲む、その 水を 全部 飲む、それから おまえが ああする、と、

5-035

gəə, pərgisu.” tı bujun-dəə əsi-gdəl tı tısaraa
よし 試そう。」 その クマも 今 そうして 岸から離れて行ってから、

5-036

talşıla~ tısaraa tı muu umuloxanı.
岸から離れた所に 行ってから そうして 水を 飲み始めた。

5-037

xu~p, xu~p, xu~p umınasıııı ənənə~, xəmdəji-ə, xəmdəni teŋ te~ŋ oçııı.
ゴクン ゴクン ゴクンと 飲んでいく、ああ、 腹が、 腹が パンパンになった。

5-038

tı oonjo
その 入り江の

5-039

xarıı-daa
どうすることも

5-040

sulı-gdə tı
キツネは、そうし

5-041

tıla puči
あっちで はね、

5-042

xap iktəmənı
カプツと くわえた

5-043

duisi tučajus-ı
山の方へ 逃げ去る

5-044

ənənə bujun
ああ、 クマは そ

5-045

xooni-daa tamı-daa
どうにも しように

5-046

tı bujumba.
その クマを。 終

5-038

tɪ ɔonjo muuwəni čupal umixan. tunčum-də mutəəsi,
その 入り江の 水を 全部 飲んだ。動くことも できない、

5-039

xaimi-daa mutəəsi očini əsi-gdəl tɪ bujun-gdələ.
どうすることも できなくなった、 今 その クマは。

5-040

soli-gdə tɪ muu čupal umiɟiani gəsə əsi-gdələ ɟin ɟin,
キツネは、そうして水を 全部 飲むや いなや、 今 すばやく、

5-041

tɪla puči ɟələ puči tɪ xanguwa ələə-də bakuxan,
あっちで はね、こっちで はね、している フナを すかさず 見つけた、

5-042

xap iktəmənčəə kəwə tɪ xanguwa. iktəməmi əsi-gdə
カプッと くわえた、 その フナを。 くわえて 今

5-043

duisi tučajus-kəə moo dootini čup tutuluɟuxən.
山の方へ 逃げ去るではないか、 木々の中へ パッと姿を消して 走って行った。

5-044

ənənə bujun tawası tunčii əwəsi xooni-daa tunčumi-də mutəəsi,
ああ、クマは そっちへ 動こうにも、こっちへも どうにも 動こうにも できない、

5-045

xooni-daa tamı-daa mutəəsi, tɪ soli, soli tɪ argalaraa xodaxan,
どうにも しようにも できない、その キツネ、キツネは そうやって 騙して しまった、

5-046

tɪ bujumbə. vse. vse.
その クマを。 終わり。 終わり。

ブラバ村にて録音
Z. A. Plastina 氏 口述

6. nəətərki
ヌートウルキ

- 6-001
daa~ xajlati, nəutunja baldaxan əsi-tənə~,
ダー ハジラッテー、下の兄弟と一緒に 暮らしていた、今、
- 6-002
əktə nəuji juu nii, tui bujumbə bujultuxən
女の 下の兄弟と 二 人で、そうして クマを 狩りしていた、
- 6-003
tui tui. əm inəŋ-dəə indəsi əsi-tənə,
そうして そうして。 一日も 休まずに、今、
- 6-004
tangu taktoni-dəə jalukpm dəwə dəsinini-dəə čupal jalukpm,
百の 倉も 一杯になった、四十の 棚も 全部 一杯になった、
- 6-005
əsi-tənə xooni, xongiranı jalukpm. tui tui bəičimdee~
今 どうする、自分らの倉が一杯になった。そうして そうして 狩りしていて、
- 6-006
əsi-gdəl, nəuni jiq-jiq, min-məəči laksa~ laksa grjaznyj dılını-dəə.
今、 妹は ひどく、私のように バサバサ、バサバサの 汚い 頭なのだ。
- 6-007
tamdee əm mudan aagrı jıjuxəni. dılını čupal sigduxən,
そうして いて ある時、 兄が 戻って来た。彼女の頭が すっかり 梳られていた、
- 6-008
čupal xaruxan-da. "nəətərki, sii xoonı sigdixəsi." "nəə~
すっかり ああなっていた。「ヌートウルキよ、おまえ どうやって 梳ったのか。」「さつき、
- 6-009
agaa agaa, mimbəəni-kəə əsi-tənə xujun kuuku pulsiini," wəndi,
兄さん、兄さん、私の所へ 今 九羽の 白鳥が やって来た、」と言う、
- 6-010
"əsi-tənə, tui gursəl mimbəəni dikpəəri, mimbə sılčui,
「今、 その 者たちは 私の方へ やって来ると、私のことを 洗い、
- 6-011
mimbə sigdii, xarırı tıtır"-m-də.
私を 梳ったり、何したり、彼らはした、」と（言う）。

- 6-012
naa titapaari-de
ナー、そうして
- 6-013
ne znanji əujux
知らないで 下り
- 6-014
"nəətərki
「ヌートウルキよ
- 6-015
"mini aakım bil
「私の 兄 な
- 6-016
bujumbə bujultıini,
クマを 狩りして
- 6-017
məpəəri
自分らの（鳥の覆
- 6-018
naambanı sılčuiduj
彼女を 洗うとき
- 6-019
inəŋ inəŋ tui-məəči
毎日 毎日 そんな風
- 6-020
gəə, ə~ŋ um m
さあ、 ある時
- 6-021
"gəə, əji aldači,
「さあ、教えるな、
- 6-022
nəuti wəndini. tak
妹へ 言う。 こん
- 6-023
ə~ŋ jılalaa əsi-gdəl
近くに、 今
- 6-024
əsi-tənə~ tui nəuja
今、 その 若者

6-012

naa titapaari-dee tui aagui, tui taxanji tookuxan,
ナー、そうしていると、その 兄は、そうしてから 森へ上った、

6-013

ne znanji əujuxən tiwa, tamdee tui kuuku wəndini,
知らないで 下りて来た、それを、そうしていて その 白鳥は 言う、

6-014

''nəətərki kuukis, aaksi bii-nuu kuukis.''
「ヌートウルキよ、クーキス、おまえの兄は いるか、クーキス。」

6-015

''mini aakim bilə~, grwandula-gi waltumi, əkulə əujumi
「私の 兄 なら、夜明けに 明け方の狩りをして、近くに下りてきて、

6-016

bujumbə bujultiini,'' wəndini. naa~ titaraa xopari-o~ doomaari,
クマを 狩りしている、」と 言う。 ナー、それから 羽ばたいてとまって、

6-017

məəpəəri čupal, ačumaari tui iiriiti.
自分らの（鳥の覆い）を 全部、脱いでから そうして 彼らは家に入ってくる。

6-018

naambani silčuiduji silčui, jəbdəni əñuəəjuiduji əñuəəjui xairumi,
彼女を 洗うときには 洗い、彼女の食事を 煮る時には 煮たり、ああしたりする、

6-019

inəŋ inəŋ tui-məəči pulsiiti, tui uxazhivaet tui piktəwə.
毎日 毎日 そんな風に 彼らは通ってくる、そうして 世話を焼く、その 子供を。

6-020

gəə, ə~ŋ um mudan əujuxən aagui.
さあ、 ある 時に 下りて来た、兄は。

6-021

''gəə, əji aldači, əji aldači, bii, əsi əinəŋ ɳənuəsimbi,''
「さあ、教えるな、教えるな、オレは今、今日は 狩りに行かないぞ、」と

6-022

nəuti wəndini. takoj kak ja durnyj devushka bilə, ii.
妹へ 言う。 こんな 私のように 頭の悪い 女の子なんでしょう、ね。

6-023

ə~ŋ jɳjalaa əsi-gdəl tusal ɳənuxən əsi-gdəl əinəŋ-gdəl dəəjixən
近くに、 今 彼らは来た、 今 今日 居残った、

6-024

əsi-tənə~ tui ɳəuʃaka sɳɳixani əsi-tənə titaraa guči guči jaami,
今、 その 若者は 隠れた、今 それから また、また 歌う、

6-025

"nəətirki~ kuukis, aaksı bii-nuu kuukis."
 「ヌートウルキよ、クーキス、おまえの兄さんは いるか、クーキス、」と。

6-026

"min aakımbı-lə ırwanrı waltını." naa xajılatı,
 「私の 兄は 夜明けに 明け方の狩りをしている。」 ナー ハジラッテ、

6-027

"jələčisi biisi-nuu əsi-tənə~ xaimı-daa xaimı-daa ɣələčiiipı,"
 「騙しているんじゃないの、今、 何だか 何だか 私たちは怖いわ、」と

6-028

wəndini əsi-tənə~, "təjə, təjə, kəwə, təjə, kəwə," wəndini.
 言う、 今、 「ホント ホント、いないわ、本当にいない、」 と言う。

6-029

"nəə kəwə osını kəwə," ələə dooxon iixən.
 「さあいないというのなら いないのでしょう、」と もう 降りた、家に入った。

6-030

paanını baala bii xujun nii čupal iirəsini-guni, devjat'ñıı.
 何人かは 外に いる、 九人 全員は 入らないのだ、 九 人だ。

6-031

a~ tıı taxanrı-dəə məəpi əsi xoon taxanrı, xoon-kaa tamı əsi-tənii,
 一方、ああ していたが、自らを今 どうかすると、どうにか して今、

6-032

aagrı tawançı agbunıoxan tıtaraa~ agbunıjumi, tıı jıptumba japaxanı.
 兄は そこから 現れた、 それから 現れて、 その 鳥の 覆いを取った。

6-033

naa kuukuni jıptuni-tənə~ jeesılını čupal ñəəjuxən,
 ナー、その白鳥の 覆いを、 仲間たちは 全員 出て行った、

6-034

tıı əəktə əmkəə dəreəjəxən əsi-tənə, pujangu pujin. "gəə buuıjuu,
 その 女は 一人きり 残った、 今、 末っ子の プジンだ。「ああ、 返して、

6-035

gəə buuıjuu," əsi-tənə, "bii əi anaa bimi mutəəsımbı,"
 ああ 返して、」と 今、 「私はこれが 無ければ 飛べないんです、」と

6-036

"əsi-tənə~, xaiji-dəə xum ɣələčii əsi-tənə, əi jıptumbaji buuıjuu."
 「今 何にも 全てに 怖れています、今、 この 私の覆いを 返して下さい。」

6-037

əsi-tənə~, "buuıjui, buuıjui." əsi-tənə,
 今、 「返すよ、返すよ、」と。 今、

6-038

"ə~ɣ təjə~ mimb
 「本当に 私の

6-039

wənčini əsi-tənə,
 言った、今、

6-040

"təjə mimb
 「本当に 私のこ

6-041

"kəwə." naa x
 「決して。」ナー

6-042

əsi-tənə əidu x
 今 ここで

6-043

tıı dəgdənju
 そうして 飛んで行

6-044

əsi-gdəł tıı nıı
 今 その人は

6-045

jıja ɣənəxən
 短いこと 行った、

6-046

tıı ñəəmi tıı
 そうして 出て、そ

6-047

um sangal ba
 一つの 穴を 見つ

6-048

əljini
 連れて行く人も き

6-049

naa xoon tııı,
 ナー、どう する、

6-050

əsi apıjı
 今 首の後ろの

6-038

”ə~ŋ təjə~ mimbə ʃapɪɕi osɪnɪ-tənə~, baaŋɪmɪ piktəni taambɪ,”
「本当に 私のことを捕まえたいのなら、 天の人の子供なんです、私は、」と

6-039

wənɕini əsi-tənə, ”min amtɪɟɪ, ŋənəŋəs-tənii”-m-də.
言った、今、 「私の父の所へ、行って下さい、」と。

6-040

”təjə mimbə ɡəlɪi osɪnɪ. əsi bii ʃədu dəɾəʃisimbi,” wəndini,
「本当に 私のことが欲しいのなら。今 私はここに残りません、」と言う、

6-041

”kəwə.” naa xajɪlatɪ, ɡəə xoon tɪsɪ tənə~, əmdə nɪ xəsə wənɕini
「決して。」ナー ハジラテ、さあ どうする、まさに 一度人が言葉を口にしたらには、

6-042

əsi-tənə əidu xarwanɪ, ʃɔptumbani buuʃuxən əsi-tənə, tɪ xəbə xəbə
今 ここであれを、覆いを 返した、今、 そうして バサバサはばたいて

6-043

tɪ dəɡdənʃuxəti. ə~ŋ tɪ biɕin, ɡoro biɕi ʃɪʃa biɕi-tənə~
そうして 飛んで行った。 そのようだった、長いこといた、短いこと いた、

6-044

əsi-ɡdəl tɪ nɪ ŋənini. tɪ ŋənini, tɪ ŋənini, ɡoro ŋənəxən,
今 その人は出発する。そうして行く、そうして 行く、長いこと 行った、

6-045

ʃɪʃa ŋənəxən əsi-tənə~ uisi toomɪ tɪ ŋənii, baa sangalkɪmɪ
短いこと 行った、今、 上へ上ってそうして行く、天の 穴を通して、

6-046

tɪ ɲəəmi tɪ ŋənəxəni-tənə~, tɪ ŋənəmdee
そうして 出て、そうして 行ったならば、 そうして 行って、

6-047

um sangal baaxanɪ əsi-tənə tɪ sangal daadumɪ əsi-tənə, paatɪnɪ ɕək,
一つの 穴を 見つけた、今、 その穴の 周りには 今、 叩く人もきちんと、

6-048

əlʃini ɕək ʃobɪmɪ, ɕək əsi-tənə, nɪ ətəurini.
連れて行く人も きちんと 働いている、準備できていて、今、 人が 見張っている。

6-049

naa xoon tɪmɪ, xoon tɪ aɡbumbuwu əsi-tənə tawanɕɪ
ナー、どう する、どう する 現れるべきか、 今 そこから

6-050

əsi apɪɟɪ koax, paŋajɪ ɕes duksumi
今 首の後ろのところを パンッと、掌で パンと 叩いて、

6-051

puu puuxəni əsi-tənii giləktə osıraa guammm iixəni.
 プーッと 息を吹きかけた、今 ハエに なって、ブ～んと 入った。

6-052

ə~ŋ taxanji tui ŋənəxəni, goro ŋənəxəni, xawası ŋənəwu-nuu
 そうしてから そうして 行った、長いこと 行った、どっちへ 行くべきか、

6-053

xawası ŋənəwu-nuu əsi-tənə~ tui ŋənəmdee, tıla isıŋdaxanı.
 どっちへ 行くんだか、今 そうして 行って、そこに 着いた。

6-054

amnaani baatını-də. xagdon baakitını~ isıŋdaxanı əsi-tənə tui,
 彼女の父親たちの 所へ。 家の 敷地に 着いた、今 そうして、

6-055

danpi umui xairui taxanı əsi-tənə, učələni japaraa iixəni~
 タバコを 吸ったり 何したり していた、今、 戸を つかんで 入った、

6-056

mapa biini-guni, mama biini-guni tənə~, sorodee, sorodee.
 おじいさんが いるのだ、おばあさんが いるのだ、すぐに、こんにちは、こんにちは、と。

6-057

”ə~ŋ gəə əmučuu~ xai, xarwančı~ əsi-tənə~ xai guuləni ŋənisi,”
 「ああ、一人きりで、どこから、今 どの 道を通って おまえは行くのか、」と

6-058

əsi-tənə, ”ədəkə əsi-tənə, xai guuləni ŋənıləm-kə,” wəndii
 今、 「お義父さん、今、 どの 道を通って 私が行くでしょうか、」と 言う、

6-059

əsi-tənə, ”nu gasanı jja-nuu goro-nuu saaksumi dičimbi,” wənčini.
 今、 「人の 村は 近いか、遠いか 知っていて 私は来ました、」と 言った。

6-060

”naa~ xojo~ xoldonki xooljorwasi-dəə saajılambı,
 「ああ、娘婿よ、脇腹を通して おまえが迂回して来ようとも 私は知るだろう、

6-061

apiki argalıwasi-daa saajıla-ma əsi-tənə~,
 うなじを通して ズルしようとしても わかるだろう、今、

6-062

toŋdomo tokoni taas aldačırui,” wənčini. ə~ŋ titaraa əsi-gdələ~
 まっすぐ 真ん中に 正直に 説明しろ、」と 言った。 それから 今、

6-063

”ədəkə əsi-tənə xoon aldaču bilə-kəə,
 「お義父さん、今 どのように (ウソを) 説明することなど ありましようか、

6-064

əmdə xəsəwə,
 ひとたび 言葉を、

6-065

xamikini xasax
 その後ろを 私は、

6-066

”ə~ŋ tui tawu
 「そう すべき、

6-067

ə~ŋ dauji, danpr
 キセルで タバコ

6-068

bii umubdi
 私が 吸うために

6-069

um dalı budawa
 一 袋の 粟を

6-070

umumi aldan
 吸っている 間に、

6-071

ə~ŋ xoon tıla-k
 どう しよう

6-072

nəəxəni əsi-tənə
 置いた、今

6-073

”ə~ŋ əsi-kəə~
 「今、

6-074

kəwə, opamı
 無く、なるよう

6-075

ə~ŋ iljuxan.
 立ち上がった。

6-076

balanaa amaa
 ずっと昔の 父さん

6-064

əmdə xəsəwə, əəndəxəm, əsi-tənə~ nı xəsəwə əəndəxəmi
ひとたび 言葉を、私は誓ったならば、今、 人が 言葉を 約束すれば、

6-065

xamıkını xasaxambı,” wənčini. gəə.
その後ろを私は追って来たのです、と 言った。さあ。

6-066

”ə~ŋ tı tawu osını-tənə~ əsi, bii umubdı təučii.
「そう すべきならば 今、私が タバコを吸うために 葉を詰める (キセルに)。

6-067

ə~ŋ dajı, dagrıwa umubdı təuçi əsi-tənə~
キセルで タバコを 吸うために 葉を詰める、今、

6-068

bii umubdı təučumi xodıači,
私が 吸うために 葉を詰めて 終わらないうちに、

6-069

um dalı budawa xuulıŋdı baatı. ə~ŋ tı dalı budawanı əsi tı, xarıwanı,
一 袋の 粟を 行って撒く、外へ。 その一袋の 粟を 今、そうしてあれを、

6-070

umını aldanı, vse xodı, umun-dəə ısal kəwə opamı.”
吸っている間に、 全て 終える、一つも その粒が 無く なるようにだ。」

6-071

ə~ŋ xoon tıla-ka əsi-tənə~ umumdı təuçixəni əsi-tənə dajı
どう しょうか 今、 吸おうと 葉を詰めた 今、 自分のキセルを

6-072

nəəxəni əsi-tənə tı dalı budawanı pshenowa čupal xuulıŋdəxəni naatı.
置いた、今 その一袋の 粟を、 粟を 全部 撒きに行った、彼らは。

6-073

”ə~ŋ əsi-kəə~ əi min, əi dajı umı aldanı əsi-tənə~ um ısal-dəə
「今、 この私が、このキセルを吸う間に 今、 一つの粒さえも

6-074

kəwə, opamı xarıu,” wənčini, ”təsumı, xoon tamı.”
無く、なるように 拾え、と 言った、「選り集めて、 どのようにかして。」

6-075

ə~ŋ ıljuxan. ”gəə əsi-tənə~ bii-gdəl xoon tawu-kəə əsi-tənə,
立ち上がった。「さあ 今、 私は どう すべきか、今、

6-076

balanaa amaanaa əsi-tənə, um tanqu nakunqujı əsi-tənə tukuruu,”
ずっと昔の父さんたちよ 今、 百羽の鶏を 今(天から) 降らせよ、と

6-077

wənčini uiji-təne~, agdi agdını-məəçilə jīj jīj,
言ったならば、上から、雷が落ちるかのようにすごい、

6-078

baa tučini-məəçilə əuxəti,
天気は 土砂降りになったかのようにして 降りて来た、

6-079

nakusaltr-təne jīj jīj, kaltaa dar mənğəmbə-də əčəəl umudunı
その鶏たちが、ああすごい、半分も キセルを それだけでも まだ 吸わないうちに、

6-080

tı čupal naku čupal piŋ gum.
そうして すっかり 鶏は 全部 きれいさっぱりと無くした。

6-081

naan, dabdaasını-guni tı osını. naa~ taraa iijuxən,
彼は、負けないのだ、 そうなる。ナー、それから 家に入った、

6-082

əsi "naa ədəkə ičəŋdəruu," wənčini,
今、「さあ、お義父さん、 見に行って下さい、」と 言った、

6-083

"əsi-təne təjə-nuu kəwə-nuu"-m-də. ə~ tı nı, nəəxən,
「今 本当だか どうだか、」と。 そうして 人は 外へ出た、

6-084

titaraa~ xoon xai, ələə nı čupal tausıxanı xai,
それから どうして (見つけられよう)、もう 人が 全て 集めてしまった、

6-085

xaidu ičəisi, xaidu bakısı. ə~ŋ gəə taraa inəŋ aunjə-tanı,
どこに 見るだろう、どこに 見つけられよう。 さあ それから 一日 泊まった、

6-086

ində-təni əsi-təne~ əsi-gdəl wəndini əsi-təne,
留まった、今、 今 言う 今度は、

6-087

"əi təjə~lanı namu tokondunı bii," wənčini əsi-təne,
「この ずっと向こうの 海の 真ん中に ある、」と 言った、今、

6-088

"um moo, moo əsi-təne, moo bimdəə moo waamını
「一本の 木、木だ、今、 木だけれども その木の 太いことは、

6-089

əsi-təne~ japamı japkun dəri, naamamı nadan dəri
今、 つかめば 8 尋、 抱けば 7 尋、

6-090

əsi-təne~ xajila
今、 ハジラ

6-091

"xamata
「どのようなのか

6-092

naa xoon tısi,
さあ どう する、

6-093

əsi-təne~ tı
今、 そうし

6-094

tı ɣənəm
そうして 行っ

6-095

ponğoxon moo
トドマツの 木が

6-096

japamı japkun
つかめば 8

6-097

naa gələlixə~
ナー、 探し始め

6-098

kəŋgi-nuu x
セイウチだか

6-099

naa~ xaaxan
ナー、 着岸した、

6-100

bii simbə ə
私がおまえを

6-101

simbə
おまえのことを

6-102

wənčini əsi-təne,
言った、今、

6-090

əsi-tənə~ xajılatı moo xardunı biini," wənčin, əsi-tənə,
今、 ハジラテー、その木のどこかにいる、" と言った、今、

6-091

"xamata kəskə, tı, tı meewambanı gəlil."
「どのようなのだか ネコが、その、その心臓が ワシは欲しい。」

6-092

nəə xoon tısi, nı wənčimbəni manga jaa tı ɣənəwu-guni
さあ どう する、人が言ったものを、難しかろうと 易しかろうと 行くべきなのだ。

6-093

əsi-tənə~ tı ɣənəxəni, goro ɣənəxəni jıja ɣənəxəni əsi-tənə,
今、 そうして 行った、遠く 行った、近く 行った、今、

6-094

tı ɣənəmdee~ təjə bis-kə əsi-tənə, namu tokondunı biini,
そうして 行って、 本当 じゃないか、今、 海の 真ん中に ある、

6-095

ponɣoxon moonı əsi-tənə~ naamamı nadan dəri,
トドマツの木が 今、 抱けば 7 尋、

6-096

japamı jakpun dəri əsi-tənə, moo bimdəə mooji waamı,
つかめば 8 尋だ、今、 木であつても 木よりも 太い、

6-097

nəə ɣələlixə~n əsi-tənə xajılatı əsi-tənə, tı tıdonı,
ナー、探し始めた、今、 ハジラテー、今 そう している時に、

6-098

kəŋgi-nuu xamata-nuu əwlə čawa naalıxan.
セイウチだか 何だかが ここに それを ひっかかった。

6-099

nəə~ xaaxan əsi-tənə~ "gəə," wəndini əsi-tənə~, "sıi əsi,
ナー、着岸した、今、 「さあ、」 と言う、 今、 「おまえは 今、

6-100

bıi simbə əsi jədu, pojmañ," wənčini, nəə~ "japaxambı,
私が おまえを 今 ここで 捕まえる、" と言った、ナー、「私が捕まえたら、

6-101

simbə xoon-daa tı-dəə kəwə əsi-tənə, xoon-daa tı-dəə kəwə,"
おまえのことを どうにも しは しない、今、 どうも したり しない、" と

6-102

wənčin əsi-tənə, tı puimulti. "əi namu muuwəni čupal umuruu"-m-da.
言った、今、 その 竜へ。 「この 海の 水を 全部 飲み干せ、" と。

6-103

naa xajlati~ xoon tula-kəə čii~p čii~p čiiip,
ナー ハジラテー、(そいつは) どう するだろうか、ゴックンゴックンゴクンと、

6-104

namu muuwəni čij tam umixani tənə~ kanjomu tui kanjiduni,
海の 水を 一滴残らず 飲み干した、 保護して、そうやって 保護してやった時に。

6-105

jij jij xami, gənəxəni goro gənəxən jij jij,
すごい、彼は 行った、長いこと 行った、 ああすごい、

6-106

uḡtini apilani daksajuxani tutuxəni əsi-tənə~, tui mooti isıḡdaxani,
その踵が うなじに くっついたほどに 走った、今、 その 木に 着いた。

6-107

tui mooti isıḡdamu əsi-tənə, čoko čoko mokčamu
その 木に 着いて 今、 急いで 急いで 攀じ登って、

6-108

əsi-tənə~ onḡolowanı-dəə utuluwasi, učəwəni-dəə utuluwasi naa
今 その木の洞だかも わからない、戸だかも わからずに、 ナー、

6-109

tukan ŋiimi əsi-tənə, iixən kəskə, ŋılau ŋəəriduni
すぐに 開けて 今、 入った、 ネコが、 そのまま 出て来る時に

6-110

xujuləni tak japamu əsi-tənə xəmdəwəni čuər puktəxəni. naa~
その尻尾を ガツと つかんで 今 その腹を ズバツと 切り裂いた。 ナー、

6-111

xəmdəwəni čuər puktumi tui meewambanı japamu tui əujuxən
その腹を ズバツと 切り裂いて、 その 心臓を つかんで そうして 下りた。

6-112

titami-daa xoon tui tui naabaanı tui tui tui tuḡḡdəxən
それから どう する、その 地面の方へ そうして そうして 下りて行った、

6-113

goro tutujuxən, jija tutujuxən əsi naa~,
長いこと 走った、 短いこと 走った、 今、 ナー、

6-114

tui jijumdee tui xangotı jijuxəni.
そうして 戻って来て その あれへ 戻って来た。

6-115

”gəə, gəə ələə~ əsi-tənə~ xujəujuruu juwəɽjuruu,” wəndini əsi-tənə~
「さあ、さあもう 今、 楽にしてくれ、吐き出してくれ、」と 言う、 今、

6-116

”sii-dəə min
「おまえも 私を

6-117

xai-daa mangawa
何でも 困ったこ

6-118

ə~ŋ čupal ələə
全部 もう

6-119

muu sıpta sıpta
水が 深く 深く

6-120

ə~ŋ xusəjuxən,
吐き戻した

6-121

tui mapati,
あのおじいさん

6-122

”əməčəə
「このようでは、

6-123

”sin kəsi
「おまえは 幸福

6-124

ə~ŋ tui bičin~
そのようだった、

6-125

əsi-tənə~ əsi gən
今、 今 去

6-126

ə~ŋ xaiji gənuw
何で 行く

6-127

asiji gaajju
自分の妻を 連れ

6-128

zheleznyj jashshu
鉄製の 箱を、

6-116

”sii-dəə mimbə xoraxan əsi-tənə, xar-daa ərunduni tataraa
「おまえも 私を 救った、今、 どんな 時にでも これから

6-117

xar-daa mangawani bakami mimbə xəərçisəəri”-m, wənçini ”sii-dəəda.”
何でも 困ったことに 遭ったら 私を 呼んでくれ、」と 言った、「あなたもだ。」

6-118

ə~ŋ čupal ələə xarxani, əi xai, sugdatasal-dəə ələə ələə xoljini-guni,
全部 もう ああした、この、 魚たちも 今にも 今にも 干上がってしまうのだ、

6-119

muu sıŋta sıŋta oçin-dəə naa~ namu tim tim, xusəjuxəni.
水が 深く 深く なった、ナー、海が 満ち満ちてくるよう、吐き戻した。

6-120

ə~ŋ xusəjuxən, naan-daa tui tısajuxan, tui nu-daa tui ɣənuxən.
吐き戻した、そいつも そうして 岸から 離れて 行った、その 人も そうして 去った。

6-121

tui mapati, xagdontini ɣənuxən. ə~ŋ gəə xoon tawu-kəə,
あのおじいさんの所へ、家へ 帰った。 さあ どう すべきか、

6-122

”əmčəə əsi-tənə~ bii dabdaxambi-guni,” wənçini əsi-tənə,
「このようでは、今、 私は 負けたのだ。」と 言った、今、

6-123

”sin kəsisi osila-ma”-m-da. ii.
「おまえは 幸福に なることだろう、」と。

6-124

ə~ŋ tui biçin~ xasumba aunjami biçin-nuu xasumba aunjami biçin-nuu
そのよう だった、何日 泊まっていたのだから、何日 泊まっていたんだか、

6-125

əsi-tənə~ əsi ɣənuwu-guni məəntiji.
今、 今 去るべきだ、自分の所へ。

6-126

ə~ŋ xaiji ɣənuwu-nuu xoon ɣənuwu-nuu əsi-tənə~ ”gəə ɣənui.”
何で 行くべきか、どうやって 行くべきか、今、 「さあ 私は帰る。」

6-127

asiji gaaŋui. ə~ŋ əjəəçi bii əsi-tənə kvadratnyj,
自分の妻を 連れて行く。 こんな風な 今 四角い、

6-128

zheleznyj jashshikji, naa~, tui əəktə pridannyj.
鉄製の 箱を、 ナー、その 女のおまけ（持参金）だ。

6-129

taraa əsi-tənə, naambaani tui mapa n̄əxəni əsi-tənə~
それから 今、 彼の方へ その おじいさんが 出て来た、 今、

6-130

tui juə n̄irwa um korytodu təwənčini.
その 二人の 人を 一つの 桶に 座らせた。

6-131

tui koryto doolani juə n̄ui təxən tui jashshikiwa n̄əxən.
その 桶の 中に 二人は 座った、その 箱を 置いた。

6-132

tui anaa tui, tui jusunjumi tui.
そうして ああ、それはそれは 櫓のように滑って (行く)、そうして。

6-133

ə~ŋ goro jusunčini, jija jusunčini əsi-tənə,
長いこと 滑って行った、短いこと 滑って行った、今、

6-134

məntiji~ tulitiji, jusunčini tui korytoji.
自分の所へ、 中庭の所へ、滑って行った、その 桶で。

6-135

naa ŋənuxənji-gdəl əsi-tənə~ tawasi tas, əwəsi tas,
ナー、帰るとすぐ 今、 あっちへ バーンと、こっちへ バーンと、

6-136

baasačixani əsi-tənə xasi ilaan xaan biruu očini-nuu
蹴っ飛ばした、今 さらに 三本の 通りのある 村に なったのか、

6-137

xasu xaan biruu očini əsi-tənə naa xajilati jing jing tui bajan,
何本の 通りのある 村に なったのか、今、 ナー ハジラデー、すごく そうして 裕福に

6-138

omi əsi-tənə, tui xasu xasu xai, rjadov xagdun baldaxani əsi-tənə~
なって今、 そうして 何本か 何本かの、通りに 家々が できた、今、

6-139

xoon tumi tidu tui bajan əsi-tənə tui jijuxənji əsi-tənə,
どうする、そこでそうして 豊かに、今、 そうして 戻って来ると 今、

6-140

jooktiji iijuxənji-gdəl,
自分の家へ 入ったら、

6-141

xagdun-daa tes uləen xagdun oči, daai xagdun, jooktiji iijuxəti.
家も すごく 良い 家になる、大きな 家、 自分の家へ 入った。

6-142

ə~ŋ jəmule-guni
お腹が空いて

6-143

xaiwa jəptəŋasi
あれを 食べて下

6-144

tui jashshiki... d
あの箱、

6-145

mənə xai, xama
自動的に、どんな

6-146

dasijuxati xai-d
閉めたらば 何に

6-147

bajančn̄ti
裕福に暮らす、そ

6-148

tui borajuxan-daa
そうして

6-149

tui umukəən,
あの たった一つ

6-142

ə~ŋ jəmule-guni əsi-tənə xai, xai biini,
お腹が空いているのだ、今、 あれが ある、

6-143

xaiwa jəptəŋəsi-tənii juu nu təjuxənji-gdəl tu, jashshikaamba ŋiixəti.
あれを 食べて下さいと、二人は 座ると あの、箱を 開いた。

6-144

tu jashshiki... dəktəu ŋiixəti, xamataani jəpuwu mənə dəre ojoloni,
あの箱、 箱を 開いた、いかなる 食べ物も 自分で 机の 上に、

6-145

mənə xai, xamatawa gəli osini, xamataa mənə,
自動的に、 どんなのがが 食べたいと なれば、そのような物が 勝手に（出て来る）、

6-146

dasiŋuxati xai-daa kəwə-tənə~tidu tu, bajančimr tu,
閉めたらば 何にも 無くなる、そこで そうして、 豊かに そうして、

6-147

bajančimr tu,
裕福に暮らす、そうして、

6-148

tu buraŋuxan-daa jing jing əsi əi gorod-məəči opamr anjuŋuxanr,
そうして すごく 今 この街のように なるよう 作った、

6-149

tu umukəən, əñii singii xagdun bičini ələə. gəə ələə.
あの たった一つの、ひどく ボロボロの 家 だったのが、もう。さあ、終わり。

1994年8月13日 ドウジ村にて録音

D. Dankan 氏 口述

7. um xagdukaan baldaxanı

一軒の小さな家が暮らしていた

7-001

daa xajılatı~ um čongdo doolanı, oonjo doolanı

ダー ハジラテ、ある 穴の 中に、 小さな湾の 中に、

7-002

um xagdukaan baldaxanı. tıı xagdundo, əigətuŋjə bičiti. əigəni nəuni-də.

一軒の 小さな家が 暮らしていた。その 家に、 姉妹が いた。姉と 妹だ。

7-003

nəuni xusə očupı xusə očiı tıı, əiyəni xusə očupı xusə osıı, tamaarı

妹は 男となれば、男となり、そうして 姉は 男となれば 男となり、して、

7-004

tıı bičiti, margačumaarı. tes largıŋı bim-dee~, um inəŋ nəuni apıjıxan.

そうしていた、がんばって暮らして。とてもよく いたが、 ある 日 妹が 休んだ。

7-005

apıjıı-nuu, apıjıxan. tıdu-gdəl, əigəni tookı, oxo... xarıdamı, oxotıdamı.

休んだんだか、休んだ。そこで、 姉が 上る、 ああしに、狩りをしに行つて。

7-006

tapı~ siksə əujuini. əčəəl əujuəduni, um puktuxə,

そうしてしばらくすると 夕方 下りて来る。まだ 下りて来ない時に、一つの あれが、

7-007

tooxonı~, kačarrrr~ naatı toortını.

上つて来た、 シュルシュル (スキーの音) と 彼らの家の 岸辺の所へ。

7-008

tıtaraa tıı, iixəni. tıı əəktə-gdə tıı andaxasal biiduni

それから そうして、 入った。その 女は その お客たちが いるというのに

7-009

koto koto akpančın. čuu nəudumə əəktə-tama. akpančın, tıtarandaa tıı,

無視して 横になった。一番 年下の 女だというのに。寝た、 そうされて そうして、

7-010

əigəni əuŋuxə~n čupal jəbdəji taxan. čupal tıı andaxasalbı jəpuwəŋčini.

姉は 下りて来た、全部 自分の食事の 用意をした。全部 その お客たちを 食べさせた。

7-011

tıı aagdumanı asılaxa~n, tıı tıı, paŋsıraa asılaxan-guni.

そうして 兄の方の男と 結婚した、ああして ああして、求婚して、結婚したのだ。

7-012

nəudumə čoor,

弟の方は うまく

7-013

ui-dəə səručini-də

誰が 起こしても

7-014

əigəni, səručini-də

姉が 起こそうと

7-015

tıı ɣənuxə

そうして 去った

7-016

tıı ɳəuŋaka-gdə

その 若い方は

7-017

tıtapı~ tıı,

しばらくして そう

7-018

tıı čupal d

そうして 全部

7-019

anajee, nıı-gdə

あれあれ、誰だか

7-020

tıı xarı,

そうして どこへ、

7-021

čiiLuxən

打ち負かした、

7-022

jiiMəxəni tıı,

訪ねて来た、そう

7-023

tıtaraa puji

それから プジン

7-024

tıı taktamı

ああして 踏みつけ

7-012

nəudumə čoor, əmdə tui patala akpančini, čeŋ čeŋ-də.
弟の方は うまく行かない、その時 その 女の子は ずっと寝ている、深く 深くだ。

7-013

ui-dəə səručini-dəə təərəsi, tui aorini. tımanani tui ɲənuxəəl,
誰が 起こしても 起きない、そうして 寝ている。次の日に そうして 彼らは去る、

7-014

əigəni, səručini-dəə tui purun duwəkəəmbəni alači.
姉が 起こそうとしても、そうして 人差し指の 先っぽに キスする。

7-015

tui ɲənuxən tui. tui andaxəŋɡoni tui ui,
そうして 去った、そうして。そうして お客は そうしてその 誰だっけ、

7-016

tui ɲəuʝaka-gdəl asi anaa tui ɲənuxən.
その 若い方は 嫁を 取れずに そうして 去った。

7-017

tıtapı~ tui, xooni-a xasumba aonʝaxani-nuu, puʝi təəʝuxə~n,
しばらくして そうして、どんなにか 何日か 寝たことか、プジン は 起きた、

7-018

tui čupal dəŋsıxəni, chıstyj očowaančini. tıtaraa, tui dolboni akpančim,
そうして 全部 片付けた。きれいに 片付けた。それから、その 晩 寢床についた。

7-019

anajee, nıi-gdəl, xatanʝi uisini, učəki iixə~n.
あれあれ、誰だか、激しく 音を立てる、戸から 入って来た。

7-020

tui xarı, əi jədu bičin, loxombi tuamı tıwa,
そうして どこへ、この ここにあった、自分の刀を 引き抜いて そいつを、

7-021

čiiluxən tui ɲıwa, tui andaxa. naambani paaɲɲdaxa andaxa.
打ち負かした、その 人を、その お客は。彼女に 求婚した お客だ。

7-022

ʝiməxəni tui, tui buɲurumi tui ɲəəʝuxəni-guni.
訪ねて来た、そうして、そうして 急いで そうして 出て行ったのだ。

7-023

tıtaraa puʝi təərəə, məən salıxambı paačambı,
それから プジンは 起き上がって、自分が お気に入りだった 白樺製の 大皿を、

7-024

tui taktamı gudəlirəə toskularaa ičəxən,
ああして 踏みつけて 壊してから 火を点けてから 見た、

7-025

tii səəksə xəjəini tii, mangu daujuxani, ne mangu, namuwa.
 その 血が 流れている、そして 大河を 渡って来た、大河じゃない、海を。

7-026

tii daujuxani.
 そうして 渡って来た。

7-027

titaraa pujin-gdəl, xaması mučuičəreə, čupal məəpi bargičıraa,
 それから プジンは、後ろへ 振り返って、全部 自分のことを 身支度してから、

7-028

tutuləjuraə xairaa, titaraa tii pulməčini,
 服を着たり 何したりしてから、それから そうして 歩いて行く、

7-029

tii səəksə xəjiini xasamı, tii ɣənəxən.
 その 血が 流れているのを 追って、そして 行った。

7-030

ɣənəmdee~, um xagdonji, təəbəŋŋŋŋŋ səəksə ɳəərii~, tiwa tii ɣənəini.
 行くと、一軒の 家から、ボタボタと 血が 出ている、それを そうして 行く。

7-031

naambanı waɣdamı didii gursə~l tii, tes,
 彼女を 殺しに 来た 者たちが そうして、ぎっしり、

7-032

əgdi nıı tii waaičamaarı tii xaiııı.
 たくさんの 者が そうして 喧嘩しながら その 何者たちが。

7-033

titaraa əigəji, ɳɣda dalaortını ɣənəxəni.
 それから 自分の姉が、犬に 餌をやっているのへ 行き当たった。

7-034

otıı ɳıučkə ɳoodulı ɳıaambanı, čəŋ ɣapaxanı, wəčən omonı doolanı.
 とっても 小さくて 美しい 子犬に、ガバツと つかんだ、犬小屋の 中に。

7-035

ɣapčamı tii ɣuɔ anaa əigəni naantını ɣənəxəni.
 つかんで、そして メチャクチャな 姉が 彼女の所へ 来た。

7-036

”anajee simbi ɳıı əsi ɳıı waarını,” wəndini.
 「ああ、あなたを 人が 今にも、人が 殺そうとしているのに、」と言う。

7-037

”xanɣdamı dičisi-kəə, tii.”
 「何しに あなたは来たのか、こうして。」

7-038

”tıı ɳıı-dəə
 「あの 人も

7-039

”əsi, solı~la
 「今、上流に

7-040

”xoŋkodu, an
 「その崖に、魔

7-041

”ɳııwa ɣəptii
 「人間を 食べ

7-042

geesuču
 イナウとしてい

7-043

titaraa pujin
 それから プジン

7-044

xusəɳii xajunı
 男の人の 道具は

7-045

titaraa, tawa
 それから、そこ

7-046

ɣələčiiini-guni, x
 恐ろしいのだ、ど

7-047

biiduni~ jıjı
 いる時に、戻っ

7-048

bučini, waaxamı
 死んだ、殺した

7-049

titaraa uičəndu
 それから 大槌の

7-050

čupal əɳuəɣəjuxənı
 全部 煮た、

7-038

"tu ħu-də bučin," wəndini. tə titaraa tu puġimbə alaʊsɪxani,
「あの人も 死んだ、」と言う。 ほうれ それから その プジンに キスした、

7-039

"əsi, solr-la bii xoŋko biəsi-kə," wəndini,
「今、上流に ある、崖が あるじゃないの、」と言う、

7-040

"xoŋkodu, ambaan biini," wəndini,
「その崖に、魔物が いる、」と言う、

7-041

"ħurwa ĵəptii~, ħu, ħuġi geesuču-da. ħuġi-məl
「人間を 食べる、人間、人間で イナウにしている。 人間ばかりで

7-042

geesuču tu, xagdundu, xərɔlum-də." tɪla ŋənəwəm wənčini.
イナウとしている、ああして、家中に、ぐるりとだ。」そこに行くと言った。

7-043

titaraa puġin tu ŋənəxən. ui-də kəwə, iixəni,
それから プジンは そうして 行った。 誰も いない、 入った、

7-044

xusəħii xajuni-mal biini.
男の人の 道具ばかりが ある。

7-045

titaraa, tawa kiraatini ŋənərə~, tawa rwačumi tu təəčini.
それから、そこを 縁の方へ 行って、 火を 熾して そうして 座っている。

7-046

ŋəələčini-guni, xoon tawu, ambaati ŋənəwu. titaraa tu xaɪxan,
恐ろしいのだ、どう すべきか、魔物の所へ 行くのだから。それから そうして ああした、

7-047

biiduni~ ĵijuxən tu, um giumbə, um ħurwa gaajuxani.
いる時に、 戻って来た、 その 一頭の ノロジカを、 一人の 人間を 持って帰って来た。

7-048

bučini, waaxambi ħurwa gaajuxan.
死んだ、殺した 人間を 持って帰って来た。

7-049

titaraa uičəndu nəəxəni. giunguni tu əktə ĵijumi čupal təljəčixəni,
それから 犬檻の綱に 置いた。 ノロジカを その 女は 戻って来て 全部 解体した、

7-050

čupal əħuərəjuxəni, baŋ-da. tu, ħuŋguwani-gdəl əħuərəjuxəni.
全部 煮た、 すばやく、だ。 そうして 彼の獲物のその人間を 煮た。

7-051

naani jəbdəni ənuəɾəjuxəni, oromčoʝi, baŋ-da.
 彼が 食べるように煮た、 大鍋で、すばやく、だ。

7-052

ənuəɾəjurəwə tɪwa buuxəni, tɪwa ʧopal jəkpini-guni, tɪ xusəwə.
 煮てから、それを与えた、それを全部 食べたのだ、その 男の人間を。

7-053

jəptəwə~ tɪ, tɪtapɪ tɪmanani təxəni.
 食べてから、そうして しばらくして 翌朝 起きた。

7-054

''gəwə, bii əsi, goro baatɪ ɲəniijə,'' wəndini.
 「さあ、私は 今、遠い 地へ 行く、」と 言う。

7-055

''sii əi, geesuwə-la, uləŋguʝi ətəwɪruruu,'' wəndini.
 「おまえは この、イナウを、 良く 見張っている、」と 言う。

7-056

''əiwə teesi, xooni-daa əʝi tara, uləŋguʝi ətəwɪruruu,'' wənčini.
 「これを 別の所へは、どうあっても 動かすな、 良く 見張っている、」と 言った。

7-057

''bii əsi tɪ,'' ɲənəpi, mərxəwə, ʊm sigdupumbə kɪndalɪraa
 「私が 今 こうして、」行くと、目の細かい櫛と、一本の 目の粗い櫛を 折って、

7-058

naandunɪ buuxən, məənduʝi jəpaxan, tɪ ambaan-tama, tɪ puʝindu,
 彼に 与えた、自分に 取った、その 魔物は、 その プジンへ、

7-059

tɪtaraa wənčɪn, ''tɪ, bii ɲəniijə gorotɪ ɲəniijə,'' wənčini.
 それから 言った、「そうして、私は 行く、 遠くへ 行く、」と 言った。

7-060

tɪ puʝɪn, tɪ murumbi gasamɪ tɪ dəɾəʝixə~n
 その プジンは、そうして 自分の心に 悲しく思って、そうして 居残った、

7-061

tɪ, geeson-daa tɪ bii.
 その、イナウも そのように ある。

7-062

tɪ ʝɪmaxan ɲɪ-tama xolʝoxonɪ, xolʝɪ-da, tɪ ɲɪ.
 その お客に來た 人は 乾いた、 乾いている、その 人は。

7-063

xoonko porondunɪ biini. ii, tɪ bučɪn gursəl-tama,
 崖の てっぺんに ある。 そう、そのように 死んでいた、人間たちが、

7-064

bučɪn gursəlji-n
 死んだ 人間たち

7-065

naani waaktamɪ
 彼は たくさん

7-066

kəərənčɪni,
 垣根を作った、自

7-067

tɪ puʝɪn
 その プジンは そ

7-068

tɪtaraa tɪ
 それから そうして

7-069

naani əčəəl ədik
 彼女は まだ 嫁い

7-070

tɪ ambaan, na
 その 魔物は、彼

7-071

tɪtaraa tučawan
 それから 逃がし

7-072

ʝuul geulɪ-daa
 二艘の 漕ぎ舟が

7-073

tɪ ɲənii, t
 そうして 行く、そ

7-074

tɪtaraa puʝɪn
 それから プジン

7-075

''anda~ mərəgəəsə
 「友よ、ムルゲン

7-076

tɪ puʝisəl
 その プジンたち

7-064

bučin gursəlji-məl geesulaxanı, tı mərgən.
死んだ 人間たちばかりで イナウを作ってあった、その ムルグンは。

7-065

naanı waaktamı tı jəmi tı, pukumbəni ačuktamı tı,
彼は たくさん殺して そうして 食べて その、内臓を 皆取り去って そうして、

7-066

kəərənčini, məən xagdumbı, xəəəlum. titaraa
垣根を作った、自分の 家を、 ぐるりとめぐらして。それから

7-067

tı pujin tı, tı oçmı, tı ədiləi-guni, tıjı, ambaanji.
その プジンは そうして、そう なった、そうして 結婚するのだ、それと、魔物と。

7-068

titaraa tı bim-dee, tı ədini čup tı ɣənəxən.
それから そうして いて、 その 夫は 姿を消して そうして 行ってしまった。

7-069

naanı əčəəl ədiləni-guni, bai, tıdu tı biini. əigəni tučawančmı.
彼女は まだ 嫁いでいなかったのだ、ただ、そこに そうしている。姉が 逃がした。

7-070

tı ambaan, naambanı uləəsii, tı əəktəwə. tes uləəsiini.
その 魔物は、彼女を 好きになった、その 女を。 ひどく 惚れる。

7-071

titaraa tučawandaa, tam-dee ičəini, xoŋko pəjikini~
それから 逃がしてから、しばらく 見ているに、崖の 下の所を、

7-072

juul geulı-daa ɣənii, ılaan geul-daa ɣənii,
二艘の 漕ぎ舟が 行く、三艘の 漕ぎ舟が 行く、

7-073

tı ɣənii, tı ɣənii, xawası ɣəniiti-nuu xawası ɣəniiti-nuu.
そうして 行く、そうして 行く、どこへ 行くのか、どこへ 行くのか。

7-074

titaraa pujin tı pulaxıxanı daa xajılatı,
それから プジンは そうして 叫んだ、 ダー ハジラテー、

7-075

”anda~ mərgəəsəl xawası ɣəniisu-kəə, pujisəl xawası ɣəniisu-kəə.”
「友よ、ムルグンたちよ、どこへ 行くのか、プジンたちよ、どこへ 行くのか。」

7-076

tı pujisəl wəndini, ”əi solı, xəji~lə biini,” wəndini tı.
その プジンたちは 言う、 「この 上流、いや下流にいる、」と 言う、 このように。

7-077

"jakpun namu jaawuli, xujun namu xujəni, tidu pojoo biini," wəndini.
「八つの海の近く、九つの海の流れ、そこに水が沸き立つ所がある、」と言う。

7-078

"tu pojoola agbumpačini," wəndini.
「その水が沸き立っているような所に繰り返し現れた、」と言う。

7-079

"mərgən bimi-dəə, largu mərgə~n, naani geuksaŋi,
「ムルグンがいて、すごくすてきなムルグンが、彼がアザラシと、

7-080

jukun naadu agbumpačini," wənčini. ii, wənčini.
まさにその地に何度も現れた、」と言った。そう、言った。

7-081

mərxə kiŋdawani, sigdipun kiŋdawani gəliini," wənčini.
目の細かい櫛の折れたのを、目の粗い櫛の折れたのを探している、」と言った。

7-082

tubaani ɣəniipu~, " paanin jɪŋ jɪŋ, tu gəli-məl wəndini.
そこへ私たちは行く、」と、ある者はすごく、そうしてひたすら強く漕いで言う。

7-083

tu, tu puŋisəl, tu əigətunjə puŋikəən,
その、そのプジンたちは、その姉と共に小さなプジンは、

7-084

tusal xəçuxən tu, mun puŋimbə japaxaal.
彼らは追って行った、そうして我らがプジンを乗せてくれた。

7-085

tu ɣənəxəti~, goro jɪja ɣənəməəri-dee, isxatɪ naati-taka,
そうして彼らは行った、遠く近く行って、着いた、彼らは、

7-086

tu um xoŋko duəduni oçiti, tu oonjombo xəɾəlum majaka
そのある崖はずに住んでいた、その湾に沿ってぐるとテントが

7-087

čaam oçini. tu majakaandu-məl, əgdi puŋisəl biini.
白く並んでいた。そのテントには、たくさんのプジンたちがいる。

7-088

ii tɪki xairu tu, daa xajɪlatɪ~
そう、そこでああしている、そうして、ダーハジラテー、

7-089

titaraa, puŋin ičəjiini, tɪla, tu xoŋko... tu pojoojɪi agbunčini
それからプジンが見るに、そこに、その崖、その水の沸き立つ所から現れた、

7-090

naa xajɪlatɪ, xa
ナーハジラテー

7-091

buui. tu
ブーイと。その

7-092

xamataanjɪ xos
何の魚皮でその

7-093

əə tɪtaraa t
さあそれからそ

7-094

largɪ largɪ p
素敵な素敵なフ

7-095

tu unəç
そうして合わせ

7-096

tu unəç
そうして合わせ

7-097

tamdee puŋin
そうしてプジン

7-098

puŋin, m
プジンは、目の

7-099

sigduxumbə j
目の粗い櫛を投

7-100

tɪtaraa xai, taw
それからそこか

7-101

suaktama xag
草製の小屋

7-102

tu mərgənti
そのムルグンの

7-090

naa xajlati, xai, um buui, buui wəndii-də xai, geuksa,
ナー ハジラテ、一頭の 仔アザラシ、「ブーイ」と 言う、 あれ、アザラシを、

7-091

buui. tu geuksa agbunčini, tu dəre ojaatini, toomi,
ブーイと。 その アザラシが 現れた、 その 平らな所の上に 上り、

7-092

xamataanji xosinčomi ŋaujaka agbunčini. oŋbokini.
何の魚皮でその服としているのだから、若者が 現れた。(アザラシの) 尻の所に。

7-093

əə titaraa tɪbaani joločɪŋdasuraa, xamataa puʃin kəwə~
さあそれからその方へ、投げに行くのは、いかなる プジンも いないことがあろうか、

7-094

largi largi puʃisəli, tu ŋaaluti,
素敵な 素敵な プジンたち、 そうして 彼らは投げる、

7-095

tu unəəčiini tu kəwə, goi goi xaali təŋ osini.
そうして 合わせてみるが そうして いない、 いろいろやっても、 いつ 合うだろうか。

7-096

tu unəəčiməəri tu xai-la~, jee, jee naangosini.
そうして 合わせてみて、 そうして あれ、 どうにもこうにも 合わない。

7-097

tamdee puʃin jololoxon.
そうして プジンが 投げた。

7-098

puʃin, mərxə kɪŋdawan jololoxon unəəčixəni təŋi~,
プジンは、 目の細かい櫛の 片割れを 投げた、 合わせると ピッタリ、

7-099

sigduxumbə jololoxon təŋi~ čupal, bakuxani-guni, məən asiji.
目の粗い櫛を 投げたのが ピッタリと、 全部、 見つけたのだ、 自分の 妻を、

7-100

titaraa xai, tawanči tu puʃin təə~ mənə ɪsxamba,
それから そこから その プジンは ほうれあの、 自分が 到着した所へ、

7-101

suaktama xagdumbaən ŋənərəə tɪdu bičini.
草製の 小屋へ 行ってから、 そこに いた。

7-102

tu mərəŋti xaakini, tu goi goi puʃin.
その ムルグンの所へ 着岸する、 その さまざまな プジン (の舟) が。

7-103

largi largi puḡisəlji, tɯji um ŋuḡi asilaxani, tɯ majakaandu.
素敵な 素敵な プジンたちと、その 一人の 男とで 結婚した、その テントで。

7-104

xaali, dolbo ṇəemi, ičəini. tɯ xoŋko duəkəənduni bii
いつだっけ、夜に 外へ出て、見る。あの 崖の 端に ある

7-105

suaktama xagdon ṇəem dolbo čuum čuum ṇəem bii, ixəə.
草製の 小屋が 明るく、一晩 中ずっと 明るくなっている、灯りで、

7-106

tɯtaraa tɯbaani bəixəni, ṇənəxəni, goroḡi ṇəniini-nuu mərgəni.
それから その方へ 隠れて、行った、遠くから 行くのか、そのムルグンは。

7-107

ṇənəgəə ičəxəni, tɯ aldaŋkɯni gurpəčixəni, tɯ ŋui,
行ってから 見た、その 間から 覗き見た、その、誰だっけ、

7-108

naani asɯi tes largi əəktə tidu auriɯi. tɯla aḡandɯi.
彼の 妻、すごく 美しい 女が そこに 寝ている。そこから 輝いている。

7-109

tɯ əṇuə kiraadoni um mama, aumi, tɯ xagdu əḡən mama.
その 鍋の 縁には 一人のおばあさんが、寝ている、その 家の 主人のおばあさんが。

7-110

tɯtaraa tɯbaani iirəə, tɯ asɯi tɯ ʃapičuni, asɯi les paatilaxani,
それから そこへ 入ってから、その 自分の妻をつかもうとする、妻は強く 叩いた、

7-111

olončɯ, učə kiraatɯni tukundəxəni-də. gəə tɯtaraa, saəḡuxa~nɯ.
驚いた、戸の 傍まで 飛んで行って倒れた。さあ それから、気がついた。

7-112

asɯi bakuxani tɯ, largi əəktəwə bakuxani... ii. ii tawanči,
自分の妻を 見つけた、その、美しい女を 見つけた、そう。そう、それから、

7-113

tɯ asilaxa~nɯ tɯ, məən baatɯi ṇənuxəti.
そうして 娶った、そうして 自分の 地へ 彼らは去った。

7-114

geesulaxambi čupal bujačixani. ələə ʃələ bii. ii,
自分がイナウに削った物を 全部 壊した。終わりだ、ここまで。そう、

7-115

məəntiji ṇənuxəni. tɯ geesulaxambi, ṇɯsalba-daa čupal,
自分の所へ 帰った。そうして 自分が削ったイナウを、人間のをも 全部、

7-116

ʃololoroo ʃəgɯ
投げ捨てて 燃や

7-117

tɯ biini
このようである

7-116

Jololoroo Jəgdixəni, zazhigal. asını-daa largı, oçuxanı.
投げ捨てて 燃やした、 妻も 素敵だ、住んだ。

7-117

tı biini tı nımaan, jələ bii.
このようである、このお話は、ここまでだ。

1994年8月13日 ドウジ村にて録音

E. Orosugbu 氏 口述

8. um xagdu xəujəjəə baldaxanı

一軒の家が ユラユラと 暮らしていた

8-001

nəə~ xəjiləti, xəxəxə xəwənduni, biljaka bīranduni,

ナー ハジラテ、小さな鰐の 湖に、 喉の 小川に、

8-002

xasta xamīlani, duljupu-lə duiləni, um xagdu xəujəjəə~ baldaxanı.

エゾマツの 後ろに、 あれの 山の方に、一軒の家が ユラユラと 暮らしていた。

8-003

nəə xəjiləti tui taxanji-gdəl tui-gdəl tudu, bičin

ナー ハジラテ、そうしてたが、 そうして そこに、住んでいた、

8-004

um wəčəŋji, um gaaji-də. nəə xəjiləti gaai tui doočui~

一匹の子犬と、一羽の カラスが。ナー ハジラテ、カラスは そうして とまっている、

8-005

tui doočui wəčəŋguni tui dujəə kaltaa,

そうして とまっている、子犬は そうして 山の方の 側の、

8-006

xool jakpaduni tui təəsii. nəə xəjiləti titaraa əsi-gdəl,

オンドルの煙道の そばに そうして 座っている。ナー ハジラテ、それから 今、

8-007

gaanɡuni čoonkoki xəəpə xəəpə~ dəgdəəčiini.

カラスは 天窓を通して、 バサバサと 飛んで行った。

8-008

nəə xəjiləti goro ɣənəxən, jiɣa ɣənəxən, wəčəŋguni wəndəə,

ナー ハジラテ、遠く 行った、近く 行った、子犬は 言って、

8-009

”əi, xawasi-kaa ɣənəxən,” wəndəə, taxan.

「これは、どこへ 行っちゃったんだ、」と 言ってから、ああした。

8-010

nəə~ xəjiləti titaraa tui wəčəŋ-gdəl, xamukini ɳəəmi ɣənəčəə.

ナー ハジラテ、それから そうして 子犬は、 その後から 出て、出発した。

8-011

nəə xəjiləti ɣənəmdee~ əkəsəl-dəə ɡəlbəxəti xarwa, tuiktəwə ɡačiti.

ナー ハジラテ、行って、 女たちが 集めていた、あれを、コケモモを 採っていた。

8-012

saxarın tuiktəwə

黒い コケモモ

8-013

”saxarın tuiktəwə

「黒い コケモモ

8-014

nəə xəjiləti

ナー ハジラテ

8-015

tiwa tui

それを そうして

8-016

nəə xəjiləti

ナー ハジラテ

8-017

tamdee səəɣjən

すると 赤い

8-018

”səəɣjən mərəŋ

「赤い ムルグ

8-019

jaujumaari

大声で歌いなが

8-020

nəə xəjiləti

ナー ハジラテ

8-021

anajee iixən,

あれあれ 入った

8-022

tui, tui xai, tui

そうして、その

8-023

titaraa tui w

それから その子

8-024

saxarın mərəŋ

黒い ムルグン

8-012

saxarın tuiktəwə gačıtı saxarın mǝrgən jǝbdəni,
黒い コケモモを 採った、黒い ムルグンが 食べるようにと、

8-013

''saxarın tuiktəwə gadapu-ma,'' jaajamaarı gačıtı.
「黒い コケモモを 採りましょうよ、」と 歌いながら 採っていた。

8-014

naa xajılalı tıtaraa tıı gadaraa, gadıl tıı naan
ナー ハジラテー、それから そうして 採ってから、採っているが、その 彼は

8-015

ııwa tıı ńaalalı tıı ńǝnǝxǝn tıı wǝčǝn.
それを そうして 放っておいて そうして さらに 行った、その 子犬は。

8-016

naa xajılalı tıı ńǝnǝxǝni tıı ńǝnǝxǝni,
ナー ハジラテー、 そうして 行った、 そうして 行った、

8-017

tamdee səəǵǵǝn tuiktəwə gadıtı,
すると 赤い コケモモを 女たちが採っている、

8-018

''səəǵǵǝn mǝrgən jǝbdəni~, səəǵǵǝn tuiktəwə gadıpu''-mǝl.
「赤い ムルグンが 食べるように、赤い コケモモを 採りましょうよ、」と。

8-019

jaajumaarı jaajamaarı bičiti əkəsəl, patalasal.
大声で歌いながら 歌いながら いた、女たちが、美しい娘たちが。

8-020

naa xajılalı tawançı ńǝnǝmdee um xagdu, um xagduntı iixəti.
ナー ハジラテー、そこから 行くと 一軒の 家が (あり)、一軒の 家に 入った。

8-021

anajee iixǝn, čees xaaxaxaxaxa, čees xaaxaxaxa,
あれあれ 入ったら、手をパチンと叩いて ハハハハハ、パチン、ハハハハハ、と

8-022

tıı, tıı xai, tıı jampan dootını, jampa. tıı jampan dootını.
そうして、その テントの 中へ、 テントだ。その テントの 中へ。

8-023

tıtaraa tıı wǝčǝn-gdǝl, ńaaǵaktajı gǝləǵumi, net.
それから その 子犬は、 自分の男の親類を 探すけれども、いない。

8-024

saxarın mǝrgən tıı doolanı um, xaiǵı, puǵinǵı, xooxandını očuxa.
黒い ムルグンが その 中で 一人の、 プジンと、ハハハと笑って 暮らしていた。

8-025

tɪtaraa tɪ, tɪ ələ jələ ʧaalu-la. jələ xodu.

それから そうして、そうして それまで、ここで 切るよ。ここで 終わりだ。

1994 年 8 月 13

D. Dankan 氏

9-001

daa xajɪlatɪ~

ダー ハジラテ

9-002

xəɕuwəsi

立ち寄っては

9-003

ii, tɪ dɪ

そう、その 中

9-004

daa~ xajɪlatɪ

ダー ハジラテ

9-005

daa xajɪlatɪ

ダー ハジラテ

9-006

tɪ pulik

そうして 歩き

9-007

tamdee~ xarw

そうしていて、

9-008

naa xajɪlatɪ,

ナー ハジラテ

9-009

um, ulə~

一人の、すて

9-010

tə~ tɪ,

ほうれ、そうし

9-011

amɪnɪ tɪ gos

父は こう 叱っ

1994年8月13日 ドウジ村にて録音

D. Dankan 氏 口述

9. um xagdu baldaxan
一軒の 家が 暮らしていた

9-001

daa xajilatı~, um xai, xaawası xawandu,
ダー ハジラテー、一つの 着岸できない 腋の下に、

9-002

xəčuwəsi xəwəndu um xagdu baldaxan.
立ち寄ってはならない 湖に、一軒の 家が 暮らしていた。

9-003

ii, tı doolanı ŋui bičın, oŋboxombı.
そう、その 中に 誰が いたか、私は忘れてしまった。

9-004

daa~ xajilatı tıdu təŋ um ŋui, xusəniikəən bičın.
ダー ハジラテー、そこに ただ 一人、誰だっけ、小さな男の子が いた。

9-005

daa xajilatı tı xusəni, tı oxooŋı, tı oxooŋımi,
ダー ハジラテー、その 男の子は そうして 狩りをする、そうして 狩りをして、

9-006

tı puliktii xai-ı-dəə xum tı puliktii.
そうして 歩き回る、どこだって 全て そうして 行き来する。

9-007

tamdee~ xaiwa, təjə, asiču, asi anaani, ənču, amču-da.
そうしていて、 そうだった、妻がいる、いや妻はいない、母がいて、父がいる。

9-008

naa xajilatı, tı bimdee tı duisi oxootɲdaxandojı,
ナー ハジラテー、そうして いて そうして 山の方へ 狩りをしに行った時に、

9-009

um, uləə~n əəktəwə bakaxanı. ŋawja əəktəwə, puɟimbə.
一人の、すてきな 女を 見つけた。若い 女を、 プジン。

9-010

təə~ tı, asi-tam, amını əuɟuxən. amti əəwuɟuxəni.
ほうれ、そうして、妻として、父のところへ 下りて来た。父の所へ 連れて下りて来た。

9-011

amını tı gosilını, "duirpə pulumi~ xai, amba əəktəwəni bakaxası,"
父は こう 叱った、「森の方を 歩き回っていて、魔物の 女を 見つけたか、」と

9-012

gosilini-guni. titaraa tiwa tu doudajumæri, tamdee asini ənuluxəni.
叱るのだ。それからそれをそうして固執して、ところが妻が病気になった。

9-013

əlæ~ sakta silmæktətini iimi ənsirə, ənsini.
今にも莫塵のあれへ 入って 病んで、病んでいる。

9-014

tamdee ui, tu ui-gdəl, tu mærgən, tu wəndini, asini, xarwa,
そうしていると、誰が、その誰、そのムルグンに、それが言う、妻が、

9-015

''kələ ingdaji səəksəwə, waaraa səəksəwəni mimbə umowanaru, '' wənčini.
「すばしこい犬の血を、殺してその血を私に 飲ませろ、」と言った。

9-016

naa xajilatı titaraa umowančini. waaraa ələə-də umowančini,
ナーハジラテー、それから飲ませた。殺してから もう 飲ませた、

9-017

aminı baadı tagdın-guni. titaraa tu tagdaxan-daa xar~ tu biini.
父は もっと 怒るのだ。それからそうして怒ったが、 そうしている。

9-018

tu xaimdee guči, ələə sakta silmæktətini ii... ənuluxən
そうして なぜだか 再び、もう 莫塵のあれに 入らばかりに病気になった、

9-019

guči, tii əəktə. xumduxən tes, tu.
また、その女は。瘦せた、ひどく、そうして。

9-020

''səwə ənini aldaču, səwə ənini aldaču, '' wəndini. titaraa aldačıxan.
「スウンの母よ、教えて、スウンの母よ、教えて、」と言った。それから教えた。

9-021

daa xajilatı ''sin... sin meewambası gəlījə''-m-də.
ダーハジラテー、「おまえの、おまえの 心臓が 欲しい、」と。

9-022

titaraa, mæpi waaraa, səəksəji umowandaa. əi~ xorajuxan.
それから、自らを殺して、自分の血を飲ませた。今、生き返った。

9-023

tusal tu biini-guni, tu pəkčəəəm.
彼らはそうして いるのだ、そうして寝転がって。

9-024

titapı~ guči ənuluxənduni guči paɣsu,
しばらくすると、また病気になった時にまた 訊く、

9-025

əñəəkəən paɣsu
義理の母が 訊く

9-026

tu səəksəwəni
そうして その血

9-027

daa xajilatı
ダーハジラテー

9-028

tu səəksəwəni
その血を

9-029

tu səəksəwəni
その血を

9-030

tu mærgən
そのムルグンは

9-031

xorajuxan.
生き返っていた。

9-032

guči ənuluxəni,
また病気になった

9-033

''əsi-lə mæən
「今 自らの血

9-034

ii tu mærgən
そう、そのムルグン

9-035

otıtaka
ほんの少しだけ

9-036

aɣmawani ñiilixə
彼女の口を 塗った

9-037

naan-da meewambası
彼も 心臓が

9-025

əñəkəən paŋsuni tu, gəə tu əñəkəəmbəni waaxan.
義理の母が 訊く、 そうして、さあ そうして 義理の母を 殺した。

9-026

tu səksəwəni umuxan. əsi baadı uləən əktə oçuxan, xoraajumi.
そうして その血を 飲んだ。今 さらに 良い 女に なった、生き返って。

9-027

daa xajilati tamdee, kəkəguni biini, tu kəkəwə waaxan,
ダー ハジラテー、そうして、女奴隷が いる、その 女奴隷を 殺した、

9-028

tu səksəwəni umuxan. əlčinguəni-dəə waaxan,
その 血を 飲んだ。男の奴隷も 殺した、

9-029

tu səksəwəni umuxan, tu čupal, tidu, amini-daa kəwə, ənini-dəə kəwə.
その 血を 飲んだ、そうして 全員、そこで、父も いない、母も いない。

9-030

tu mərgən əmkəə oçuxani, xoraajuxan tu mərgən.
その ムルグン は一人きりになった、生き返っていた、その ムルグンは。

9-031

xoraajuxan. tu əktə bii,
生き返っていた。その 女が いる、

9-032

guči ənuluxəni, ii, guči ənuluxən, əsi, "anana~, " wəndini,
また 病気になった、そう、また 病気になった、今、「ああ、」と 言う、

9-033

"əsi-lə məən səksəji otutaka ñiiliruu," wəndini, "mimbi."
「今 自らの 血を ほんの少し 塗ってよ、」と 言う、 「私に。」

9-034

ii tu mərgən muručum-dee "ais, bii, əi gangakuji,
そう、その ムルグン は 考えて、 「まあいい、オレはこの 小指を、

9-035

otutaka ŋuirii-daa aja." gangakuji ŋuirəə tu səksəjini,
ほんの少しだけ 切るのも よい。」 自分の小指を ちょっと切って その 血で、

9-036

aŋmawani ñiilixəni. tu əktə xuraajuxani.
彼女の口を 塗った。その 女は 息を吹き返した。

9-037

naan-da meewanji burkičiini. tu əktə, baati ñəəjurəə, kəwə.
彼も 心臓が 気分悪くなった。その 女は、外へ 出て、 じゃない、

9-038

trdu jədu ɡɪrauʧimi, ɲəʃjumi-də. tɪ mərgən iʧəʃəini
あちらにこちらに 歩き回る、外に出て、だ。 その ムルグン は 見るに、

9-039

tɪ uiləni, duktəwu, tuama duktəwu biini.
その 上にある、箱、 引き出しの 様になった 箱が ある。

9-040

trwa səpʧəmdee tugbuxəni. tugbuxən, tɪ doolanı orxuda biini,
それを 粉々になるよう 落とした。 落とした、その 中に 朝鮮人参がある、

9-041

tɪʃi oktɪxanı ɲaalajɪ. xuraʃuxan. tɪ əktə ɲəʃjuiduji tɪ wəndini,
それで 治した、自分の手を。 治った。 その 女は 出て行く時に こう 言う、

9-042

''anda~ mərgən, xai, əɲji səktəpulərəə~ min amɲi
「友たる ムルグンよ、(あの世へ行ったら) 母親で 敷布団とし、 私の 父で

9-043

pultalaraa, kəələ ɲɔdajɪ, tɪ mərgən budiini upamɪ, kəkʧiini-guni.
毛布とし、すばしこい 犬で、」と その ムルグン が 死ぬだろうと 思って、 教えるのだ、

9-044

''kəələ ɲɔdajɪ əlʃəpulərəə, tɪ uiʃi, tɪ amɲi sək... pultalaraa,
「すばしこい 犬で 先導犬とし、その 誰で、その 父で 毛布とし、

9-045

əɲji səktəpulərəə tawu''-am wənʧin. ''tɪ kəələ ɲɔdajɪ əlʃəpulərəə,
母で 敷布団としたり するがよい、」と 言った。「その すばしこい 犬で 先導犬とし、

9-046

kəkəɲɡuʃiji laʊʃɪɪɪ, əlʧiɲɡuʃiji laʊʃɪɪɪ, tawu''-am wənʧini.
女奴隷で 召使とし、 男の奴隷で 召使としたり、 するがよい、」と 言った。

9-047

ii mərgən tɪ, dosoʃomɪ xəmə biʧini. burkiʧi-məəʧi-lə, tama,
そう、 ムルグン は そうして、 聞いていて 黙っていた。 死に そうだったのだが、

9-048

tɪ əktə, jaama, jaama. tɪ əktə, uʧəwə kəɲ somomɪ tɪ ʧupi,
その 女は、 わざと、 わざとだ。 その 女は、 戸を バタンと 閉めて、 そうして 消え去った。

9-049

ii tɪ xamılanı ambɪ əmbi tɪ tɪ nəəktəxəni um baadu-da,
そう、その 後、 自分の父と 母を ああして それぞれ置いた、一ヶ所に、

9-050

kəkəɲɡuʃi, ɲɔdanguʃi. tɪtaraa bargajɪraa tɪ xamıkını tɪ ɲənəxəni.
自分の女奴隷を、自分の犬を、だ。 それから 身支度して その 後から そうして 行った。

9-051

tɪ moolk
そうして いつも

9-052

ɲənəxəə, tawanə
行って、そこか

9-053

tɪ waisi
そうして 川の方

9-054

xartɪ, buʧini
どこへ、 死んだ

9-055

ɲənəxən əuxən,
行った、下りた、

9-056

tɪ ɲaaʃaktani
その 男(母方の

9-057

ee~ tɪ,
ああ、 そうして、

9-058

ɲaaʃaktajɪ mu
自分の男を、 水を

9-059

potom tɪ ui-
それから その 誰か

9-060

''təʃə~, mimbe
「本当に、 私のこ

9-061

wəndini, ''aanɲi
言う、 「右の 手

9-062

tɪ bai bal
そうして ただ ず

9-063

tɪ tɪ, otɪtaka
そうして、 ほんの

9-051

tɪ moolɕɪ poktotɪ ɣənəxəni. məən moolɕɪ poktotɪ
そうしていつも薪を取りに行く 道へ 行った。自分が薪取りに行く 道へ

9-052

ɣənəɾəə, tawanɕɪ iɕini, waisi-naka~ tɪ tɪ əktə poktonɪ.
行って、そこから 見るに、川の方へ向かって、そうしてあの女の 足跡が (ある)。

9-053

tɪ waisi biɪwəni tɪ xasami əum-dee,
そうして川の方へ あるのを そうして 追いかけて 下りて行って、

9-054

xatɪ, buɕini xumusəltini tooxon.
どこへ、死んだものを 埋葬した所へ 上った。

9-055

ɣənəxən əuxən, nɪ gasani tɪdɔ. iɕəmi, tɪbaan iɕəɾəə,
行った、下りた、人の村だ、そこには。見て、そっちの方を 見て、

9-056

tɪ ɳaajaktani bis-kə, buɕini, tɪ xumuxəni.
その 男 (母方の親戚の男) ではないか、死んでいた、そうして 埋めていた。

9-057

ee~ tɪ, tɪ əktəni-tən~ tooɕaa, songomɪ tooxoni,
ああ、そうして、その 女は 上って、泣きながら 上った、

9-058

ɳaajaktajɪ muəwə xuəɭjuini-nuu xairɪni-nuu-da.
自分の男を、水を 撒いているのか、何をしているのか。

9-059

potom tɪ ui-gdəl, tɪ mərgən tɪ wəndini,
それから その 誰だっけ、その ムルグンは こう 言った、

9-060

''təjə~, mimbə uləsii osmɪ, xarwa, kuumbi ɕaalɪraa, ɟololoruu,''
「本当に、私のことを 好きなのなら、 乳房を 切り取って、投げて寄こせ、」と

9-061

wəndini, ''aanɟɪ kuumbi.'' ii, ii, tɪ ɳawjakani-gdəl tɪ xai,
言う、 「右の 乳房を。」 そう、そう、そうして 彼女の男を そうして、

9-062

tɪ bai balanaa nɪ tɪ tɪ xumiini-guni,
そうしてただ ずっと以前に 人はそうしてそうして 埋葬しているのだ、

9-063

tɪ tɪ, otutaka, xaiɟɪ, tipə-dəə kəwə, xai-daa kəwə, tɪ-pəkii wəndi.
そうして、ほんの少し、あれで、土も 無い、何も 無い、ただ単に 言う。

9-064

tɪ, naan ɲaajaktanɪ kuɕəəmbəni ʝaparaa buuxəni. tɪkɪ ʝololoxonɪ.
 そうして、彼女の 男の ナイフを 取って 与えた。そこから 投げた。

9-065

tɪtaraa tɪʝɪ tɪ əəktə ələdəə kuumbi kərus ɕaalɪxanɪ,
 それからそれでその女は すばやく 自分の乳房を ズバツと 切り取った、

9-066

kərus ɕaalɪxanɪ. təə xoon, xajɪla-ka,
 ズバツと 切り取った。ほれ どのように、どうするだろうか、

9-067

əris əris əris, ənsini əujuxəni.
 脇目も振らずにまっすぐに、痛いのだ、下りた。

9-068

mərgən-dəə tɪkɪ ɲəəʝumi xamɪkɪnɪ ɲənəxəni,
 ムルグンもそこを 通って出ると、その後ろから 行った、

9-069

nakandu tookumɪ akpandɪdunɪ ʝɪŋ tɪ kuumbəni ʝapulsomɪ waaxanɪ,
 オンドルに上って 寝ている時にああその乳房を ひつつかんで 殺した、

9-070

tɪ əəktəwə. tɪ waaraa, tɪ əəktəwə waaraa
 その女を。 そうして 殺してから、その女を 殺してから、

9-071

tɪ ʝəgdərəə ɲaalaxanɪ,
 そうして 燃やしてから 投げ捨ててた、

9-072

xaiɓaan ɲənuxəni, məənɓəən. amɪnɪ ənini, ɕəpal xoraajuxanɪ.
 あそこへ 帰った、自分の方へ。彼の父も母も、皆 生き返った。

9-073

tɪ bii, ələni.
 そのようである、終わり。

1994年8月23

N. V. Munina氏

10-001

bə~bə~bə~b
 プ~プ~プ~

10-002

akpanʝurɔw b
 眠れ、

10-003

bə~bəi, b
 プ~ブイ、

10-004

turgənʝi urəw
 早く 育つ

10-005

bəbəkəəni
 揺れる揺り籠、

10-006

əñəwə amaa
 母さんを父さん

10-007

ʝəpuɕiləsi-mə
 食べさせてくれ

10-008

bəbəkəjuməni
 揺り籠を揺らし

10-009

waisi oɕup
 川の方へ 行け

10-010

sugdatawa waaʝ
 魚を 捕る

10-011

duisi oɕup
 山の方へ 行け

1994年8月23日 プラバ村にて録音

N. V. Munina 氏 口述

10. bə~bə~bə~bəi

ブ〜ブ〜ブ〜ブイ (子守唄)

10-001

bə~bə~bə~bəi, əñəə piktəni bə~bə~bə~bə~bəi,
ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、母さんの子供よ、ブ〜ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、

10-002

akpanjuruu bə~bə~bə~bəi, əji songo
眠れ、ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、泣くな、

10-003

bə~bəi, bəbəəkəəni bə~bə~bəi, uləənji aumi bə~bə~bə~bə~bəi,
ブ〜ブイ、ブブクーニ、ブ〜ブ〜ブイ、良く寝て、ブ〜ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、

10-004

turgənji urəwu bə~bəi,
早く 育つよ、ブ〜ブイ、

10-005

bəbəəkəəni bə~bə~bəi, daaji opi bə~bə~bə~bəi,
揺れる揺り籠、ブ〜ブ〜ブイ、大きくなれば、ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、

10-006

əñəwə amaawa bə~bə~bəbəəkəəni bə~bəi,
母さんを父さんを、ブ〜ブ〜ブブクーニ、ブ〜ブイ、

10-007

jəpučiləsi-mə bə~bə~bə~bəi, bəbəəkəəni bə~bəi,
食べさせてくれるだろうね、ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、ブブクーニ、ブ〜ブイ、

10-008

bəbələjəməri bə~bə~bəi,
揺り籠を揺らして、ブ〜ブ〜ブイ、

10-009

waisi očupi bə~bə~bə~bəi,
川の方へ 行けば、ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、

10-010

sugdatawa waažilasi bə~bəi, bəbəəkəəni bə~bə~bəi,
魚を 捕ることだろうよ、ブ〜ブイ、ブブクーニ、ブ〜ブ〜ブイ、

10-011

duisi očupi bə~bə~bə~bəi,
山の方へ 行けば、ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、

10-012

nəpultəwə waaʃilasɪ bə~bəi, bujumbə waaʃilasɪ bə~bəi,
毛皮獣を 獲ることだろうよ、ブ〜ブイ、大型獣を 獲ることだろうよ、ブ〜ブイ、

10-013

bəbəkəəni bə~bə~bə~bəi, bəbələʃuməəri bə~bəi,
ブブクーニ、ブ〜ブ〜ブ〜ブイ、揺り籠を揺すって、ブ〜ブイ、

10-014

uləənʃi auruu bə~bəi, əʃi songo bə~bə~bəi.
良く 眠れ、ブ〜ブイ、泣くな、ブ〜ブイ。

既 刊

『ソロン語基

文部省科

北海道大

『ツングース

文部省科

北海道大

『ナーナイの

ボンサ

小樽商科

『朝克著「エ

津曲敏郎

『ナーナイ語

風間伸次郎

『ナーナイの

風間伸次郎

『鄂温克語三

朝 克 著

『オロチ語基

風間伸次郎

『ナーナイの

風間伸次郎

『ウルチャロ

風間伸次郎

『ナーナイの

風間伸次郎

『中国ツング

朝克 採録

『ナーナイの

風間伸次郎

『Эвенские н

Bokova, E.

『ナーナイの

風間伸次郎

『ナーナイの

風間伸次郎

ツングース言語文化論集

既 刊

- 『ソロン語基本例文集』 朝 克、津曲敏郎、風間伸次郎 編
文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書
北海道大学文学部、1991年3月
- 『ツングース言語文化論集 1』 黒田信一郎、津曲敏郎 編
文部省科学研究費補助金（国際学術研究：63041002）研究成果報告書
北海道大学文学部、1991年12月
- 『ナーナイの民族遊戯』（ツングース言語文化論集 2）
ボンサ K. キレ著／佐々木史郎、匹田剛、津曲敏郎 編訳
小樽商科大学言語センター、1993年3月
- 『朝克著「エウンキ語基礎語彙集」索引』（ツングース言語文化論集 3）
津曲敏郎 編、小樽商科大学言語センター、1993年6月
- 『ナーナイ語テキスト』（ツングース言語文化論集 4）
風間伸次郎 採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1993年7月
- 『ナーナイの民話と伝説』（ツングース言語文化論集 5）
風間伸次郎 採録・訳注、小樽商科大学言語センター、1995年2月
- 『鄂温克語三方言対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集 6）
朝 克 採録・著、津曲敏郎 編、小樽商科大学言語センター、1995年3月
- 『オロチ語基礎資料』（ツングース言語文化論集 7）
風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月
- 『ナーナイの民話と伝説2』（ツングース言語文化論集 8）
風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月
- 『ウルチャロ承文芸原文集1』（ツングース言語文化論集 9）
風間伸次郎 採録・訳注、鳥取大学教育学部、1996年3月
- 『ナーナイの民話と伝説3』（ツングース言語文化論集 10）
風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、1997年3月
- 『中国ツングース諸語対照基礎語彙集』（ツングース言語文化論集 11）
朝克 採録・著 津曲敏郎 補訂・編、小樽商科大学言語センター 1997年8月
- 『ナーナイの民話と伝説4』（ツングース言語文化論集 12）
風間伸次郎 採録・訳注、千葉大学、1998年3月
- 『Эвенские народные песни 〈エウエンの歌〉』（ツングース言語文化論集 13）
Bokova, E. P. 著・Z. I. Babceva 露訳・A. B. Dorzheev 英訳・風間伸次郎編、2000年4月
- 『ナーナイの民話と伝説5』（ツングース言語文化論集 14）
風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学、2000年4月
- 『ナーナイの民話と伝説6』（ツングース言語文化論集 15）CD 8 枚付
風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2001年3月

- 『増訂 ウイルタ口頭文芸原文集』(ツングース言語文化論集 16) CD 1 枚付
池上二良 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ウデへ語自伝テキスト』(ツングース言語文化論集 17) CD 1 枚付
アレクサンドル・カンチュガ著／津曲敏郎編訳、ELPR、2002 年
- 『ナーナイの民話と伝説 7』(ツングース言語文化論集 18) CD 2 枚付
風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ネギダール語 テキストと文法概説』(ツングース言語文化論集 19)
CD 1 枚付 風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ウルチャロ承文芸原文集 2』(ツングース言語文化論集 20)
CD 2 枚付 風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2002 年
- 『ネギダールの伝説と民話』(ツングース言語文化論集 21)
マリーナ・ハサノワ・アレクサンドル・ペヴノフ編著、ELPR、2003 年
- 『ウデへ語読本 自伝：少年時代』(ツングース言語文化論集 22)
アレクサンドル・カンチュガ著、津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、
2003 年
- 『エウエン語 テキストと文法概説』(ツングース言語文化論集 23)
CD 1 枚付 風間伸次郎 採録・訳注、ELPR、2003 年
- 『ウデへ語テキスト(A)』(ツングース言語文化論集 24/A)
風間伸次郎 採録・訳注、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2004 年
- 『ウデへ語テキスト(B)』(ツングース言語文化論集 24/B)
CD 1 枚付 風間伸次郎 採録・訳注、北海道大学大学院文学研究科、2004 年
- 『ツングース諸語における基礎語彙(A)』(ツングース言語文化論集 25)
CD 1 枚付 風間伸次郎著、ELPR、2003 年
- 『ウデへの二つの昔話 タルメニとセレメニ／チョウセンインジン掘りの若者』
(ツングース言語文化論集 26) アレクサンドル・カンチュガ著、津曲敏郎編、
北海道大学大学院文学研究科、2004 年
- 『ナーナイの民話と伝説 8』(ツングース言語文化論集 27) 風間伸次郎著、
千葉大学文学部、2005 年
- 『ウデへ語自伝テキスト 2：青年時代』(ツングース言語文化論集 28)
A・カンチュガ著、津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2005 年
- 『ウデへ語自伝テキスト 3：学生時代』(ツングース言語文化論集 29)
A・カンチュガ著、津曲敏郎編、北海道大学大学院文学研究科、2006 年

PUBLI

Solon Basic
KAZAM
and Tosh
Traditional
Pongsa K
TSUMAG
A Solon (Ev
Equivalen
TSUMAG
Nanay Texts
S. KAZA
Nanay Folk
translated
Commerc
A Basic Voca
and Cultu
TSUMAG
Orochi Ling
translated
Nanay Folk
translated
Ulcha Oral
Cultures 9
Nanay Folk
translated
A Basic Voca
and Cultu
TSUMAG
Nanay Folk
translated
Ewen Folk So
translated i
compiled b
Nanay Folk T
translated a

PUBLICATIONS ON TUNGUS LANGUAGES AND CULTURES

- A list of published books -

- Solon Basic Sentences* compiled by D. O. Chaoke, Toshiro TSUMAGARI, and Shinjiro KAZAMA, *Papers on Tungus Languages and Cultures* edited by Shin-ichiro KURODA and Toshiro TSUMAGARI, Faculty of Letters Hokkaido University, 1991.
- Traditional Folk Play of Nanay* (Publications on Tungus Languages and Cultures 2). Pongsa K. KILE/ edited with a Japanese translation by S. SASAKI, G. HIKITA, and T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru University of Commerce, 1993.
- A Solon (Ewenke) Index to the Classified Vocabulary by D. O. Chaoke: with English Equivalents* (Publications on Tungus Languages and Cultures 3). compiled by T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.
- Nanay Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 4). translated and annotated by S. KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1993.
- Nanay Folk Tales and Legends* (Publications on Tungus Languages and Cultures 5). translated and annotated by S. KAZAMA, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.
- A Basic Vocabulary of Three Ewenki (Ewenke) Dialects* (Publications on Tungus Languages and Cultures 6). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1995.
- Orochi Linguistic Materials* (Publications on Tungus Languages and Cultures 7). translated and annotated by S. KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.
- Nanay Folk Tales and Legends 2* (Publications on Tungus Languages and Cultures 8). translated and annotated by S. KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.
- Ulcha Oral Literature 1 - A Collection of Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 9). translated by S. KAZAMA, Faculty of Education Tottori University, 1996.
- Nanay Folk Tales and Legends 3* (Publications on Tungus Languages and Cultures 10). translated and annotated by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 1997.
- A Basic Vocabulary of the Tungusic Languages in China* (Publications on Tungus Languages and Cultures 11). collected and transcribed by D. O. CHAOKE, compiled by T. TSUMAGARI, Center for Language Studies Otaru Univ. of Commerce, 1997.
- Nanay Folk Tales and Legends 4* (Publications on Tungus Languages and Cultures 12). translated and annotated by Shinjiro KAZAMA, Chiba University, 1998.
- Ewen Folk Songs* (Publications on Tungus Languages and Cultures 13). E. N. BOKOVA/ translated in Russian by Z. I. BABTSEVA, translated in English by A. V. DORZHEEV, compiled by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.
- Nanay Folk Tales and Legends 5* (Publications on Tungus Languages and Cultures 14). translated and annotated by S. KAZAMA, Tokyo University of Foreign Studies, 2000.

- Nanay Folk Tales and Legends 6* (Publications on Tungus Languages and Cultures 14).
With 8 CDs, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2001.
- Uilta Oral Literature - A Collection of Texts Revised and Enlarged Edition* (Publications on Tungus Languages and Cultures 16). With a CD, translated and annotated by Jiro IKEGAMI, ELPR, 2002.
- An Udehe Autobiographical Text: with a Russian Translation* (Publications on Tungus Languages and Cultures 17). With a CD, Aleksandr KANCHUGA/ edited with a Japanese translation by T. TSUMAGARI, ELPR, 2002.
- Nanay Folk Tales and Legends 7* (Publications on Tungus Languages and Cultures 18).
With 2 CDs, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2002.
- Negidal Texts and Grammar* (Publications on Tungus Languages and Cultures 19). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2002.
- Ulcha Oral Literature 2 - A Collection of Texts* (Publications on Tungus Languages and Cultures 20). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2002.
- Myths and Tales of the Negidals* (Publications on Tungus Languages and Cultures 21). by Marina KHASANOVA and Alexander PEVNOV, ELPR, 2003.
- Autobiographical story: Boyhood - An Udehe reader* In the Udehe language with Russian translation (Publications on Tungus Languages and Cultures 22). by Alexander Alexandrovich KANCHUGA Edited by T. Tsumagari Published by Graduate School of Hokkaido University, Sapporo, 2003
- Ewen Texts and Grammar* (Publications on Tungus Languages and Cultures 23). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2003.
- Udihe Texts A* (Publications on Tungus Languages and Cultures 24/A). Translated and annotated by S. KAZAMA, Published by Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA) Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, 2004
- Udihe Texts B* (Publications on Tungus Languages and Cultures 24/B). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, Published by Graduate School of Hokkaido University, Sapporo, 2004
- Basic Vocabulary (A) of Tungusic Languages* (Publications on Tungus Languages and Cultures 25). With a CD, translated and annotated by S. KAZAMA, ELPR, 2003.
- Two Udehe Folktales: The Bark Man and the Iron Man; The Poor Man Who was Searching for Ginseng* (Publications on Tungus Languages and Cultures 26). by Alexander Alexandrovich KANCHUGA Edited by T. Tsumagari Published by Graduate School of Hokkaido University, Sapporo, 2004
- Nanay Folk Tales and Legends 8* (Publications on Tungus Languages and Cultures 27). translated and annotated by S. KAZAMA, Chiba University, 2005.

Autobiograph
translation
Kanchuga
Sapporo, 2
Autobiograph
Russian tr
A. Kanchu
Sapporo, 2

Autobiographical story 2: Youth [an Udehe reader in the Udehe language with Russian translation] (Publications on Tungus Languages and Cultures 28). By Alexander A. Kanchuga, edited by T. Tsumagari, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2005.

Autobiographical story 3: Student years [an Udehe reader in the Udehe language with Russian translation] (Publications on Tungus Languages and Cultures 29). By Alexander A. Kanchuga, edited by T. Tsumagari, Graduate School of Letters, Hokkaido University, Sapporo, 2006.

ツングース言語文化論集 30

ウルチャロ承文芸原文集 3

2006年3月20日発行

採録・訳注 風間伸次郎

発行 北海道大学大学院文学研究科

印刷 株式会社オーエム

ИССЛЕДОВАНИЯ ПО ТУНГУСОВЕДЕНИЮ 30

Синджиро КАЗАМА

СКАЗКИ И ЛЕГЕНДЫ УЛЬЧЕЙ

Publications on Tungus Languages and Cultures 30

**Ulcha Oral Literature 3
A Collection of Texts**

Shinjiro KAZAMA

**GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
HOKKAIDO UNIVERSITY**

2006